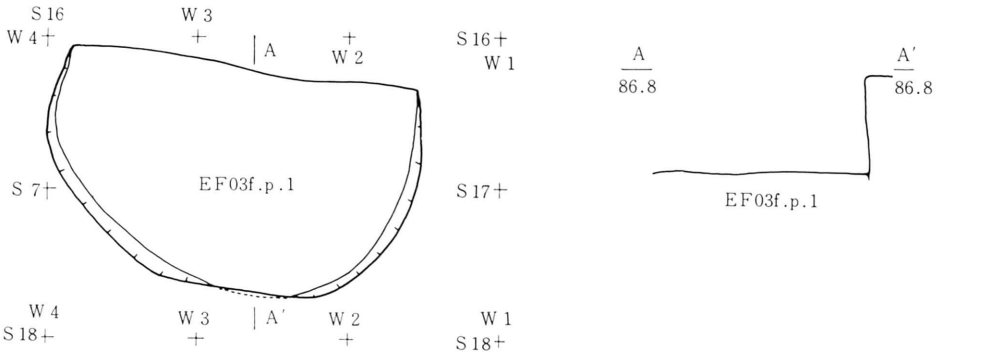
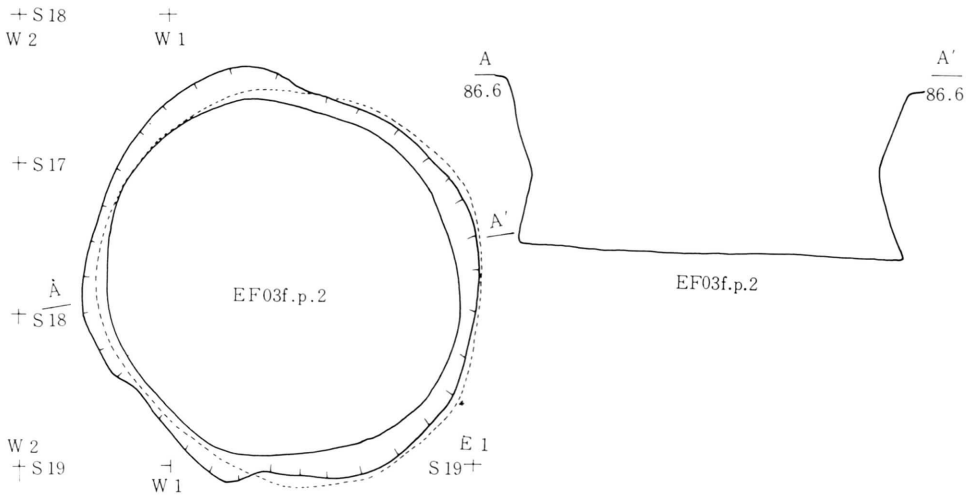
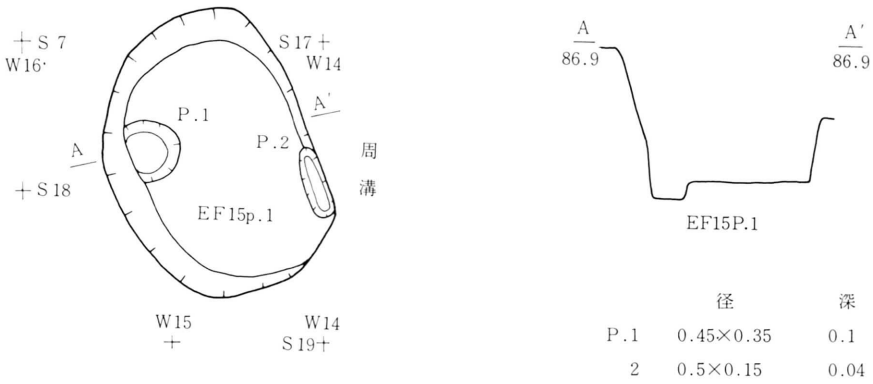
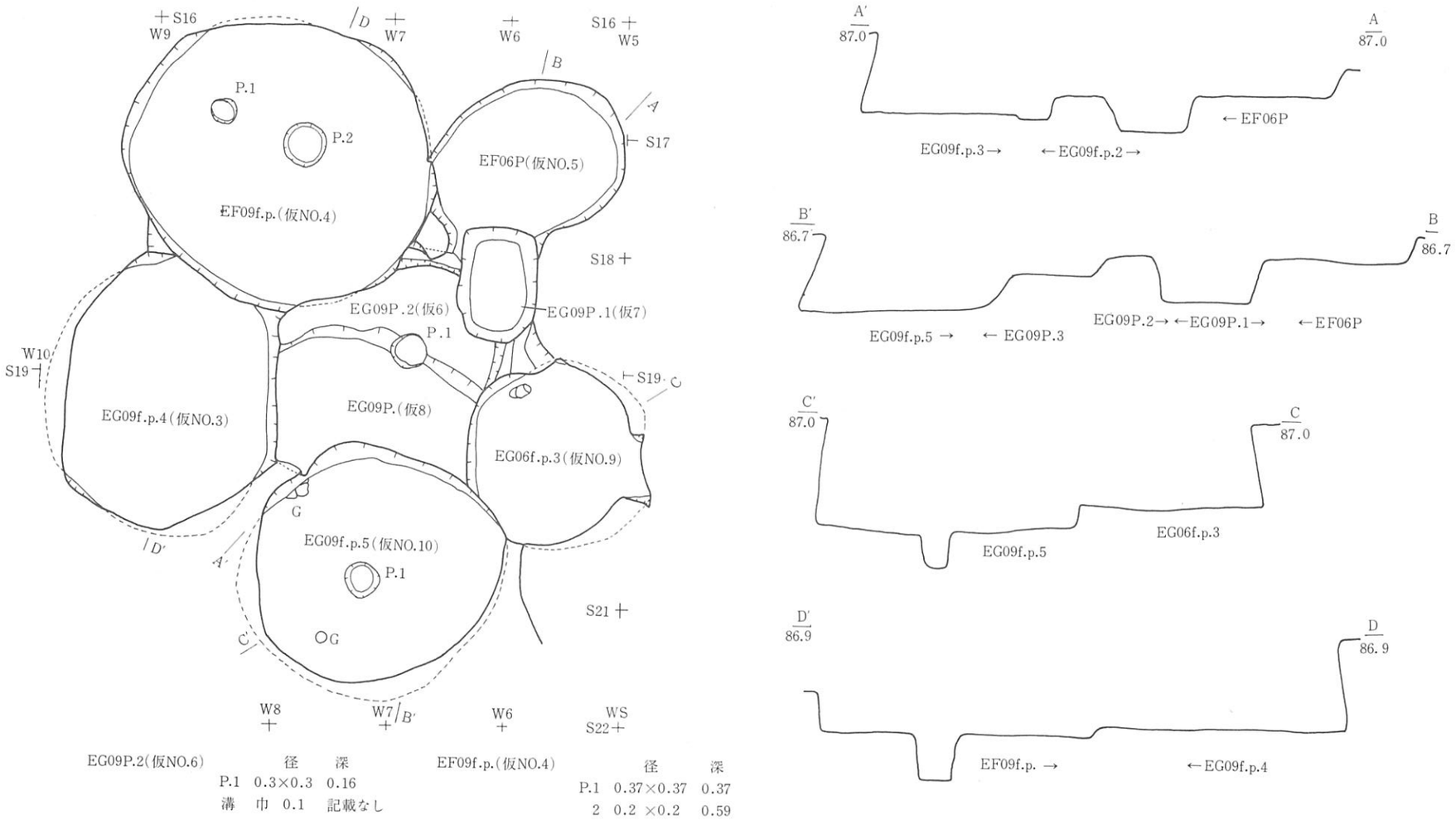






	径	深
P.1	0.45×0.35	0.1
2	0.5×0.15	0.04

第112図　Eブロックピット実測図(45)(EF03f.p.1・f.p.2・EF15p.1)



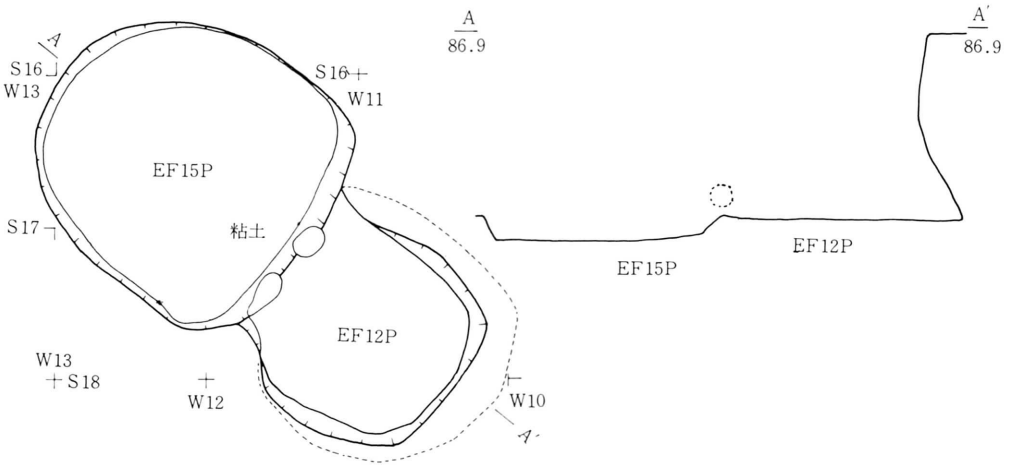
EG09P.2(仮NO.6)

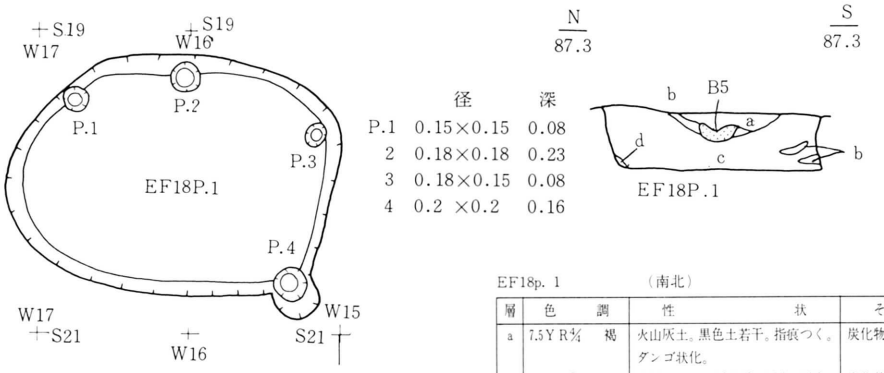
	径	深
P.1	0.3×0.3	0.16
溝 巾	0.1	記載なし

EF09f.p.(仮NO.4)

	径	深
P.1	0.37×0.37	0.37
2	0.2 ×0.2	0.59

第113図 Eブロックピット実測図(46)(EF09f.p.他)

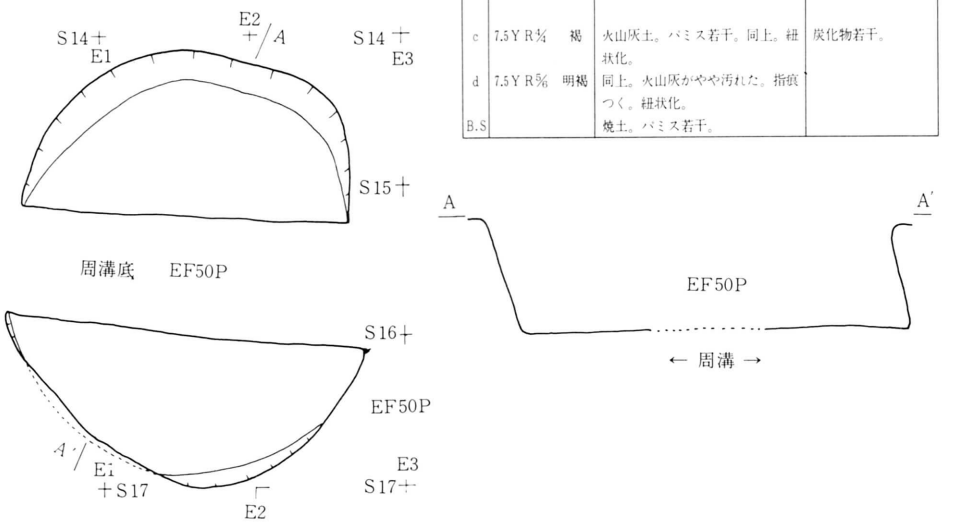




	径	深
P.1	0.15×0.15	0.08
2	0.18×0.18	0.23
3	0.18×0.15	0.08
4	0.2 ×0.2	0.16

EF18p. 1　　（南北）

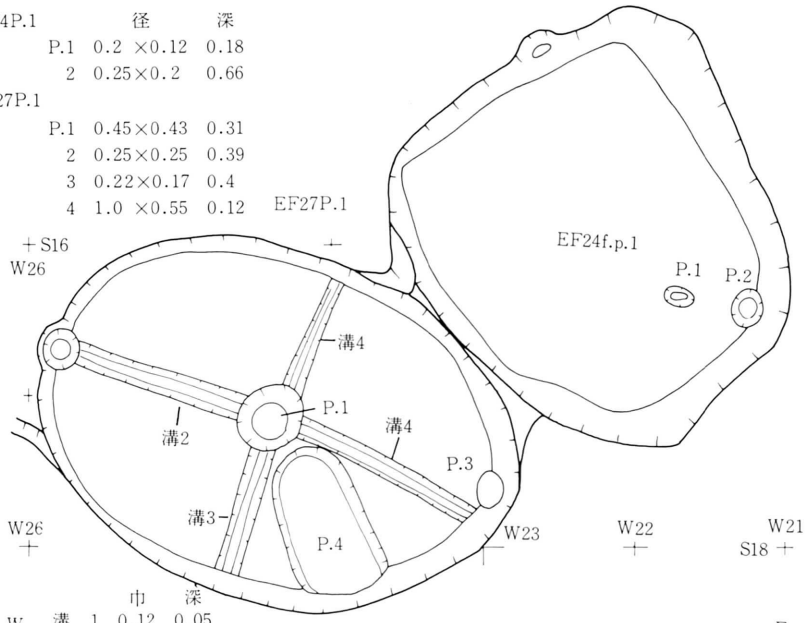
層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/4 褐	火山灰土。黒色土若干。指痕つく。ダンゴ状化。	炭化物少量。
b	7.5YR2/2 黒褐	腐植土。火山灰若干。同上。同上。	炭化物・焼土若干。
c	7.5YR3/4 褐	火山灰土。パミス若干。同上。紐状化。	炭化物若干。
d	7.5YR5/6 明褐	同上。火山灰がやや汚れた。指痕つく。紐状化。	
B.S		焼土。パミス若干。	



第114図　Eブロックピット実測図(47)（EF15P.他）

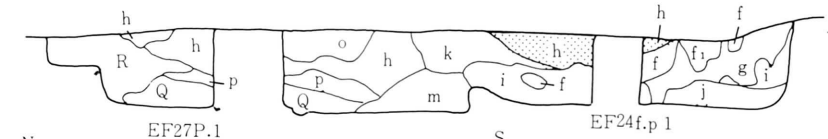
EF24P.1　　径　　深
P.1　0.2 ×0.12　0.18
2　0.25×0.2　0.66

EF27P.1
P.1　0.45×0.43　0.31
2　0.25×0.25　0.39
3　0.22×0.17　0.4
4　1.0 ×0.55　0.12

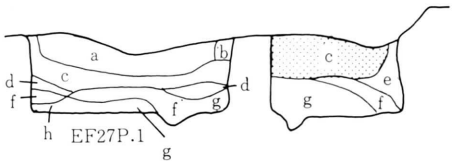


溝	巾	深
1	0.12	0.05
2	0.15	0.08
3	0.15	0.09
4	0.13	0.03

W 87.47　　E 87.47



N 87.47　　S 87.47



EEp:t No 1

層	色調	性状	その他
a	2.5YR3/4暗赤褐	パミス若干。しまりけややある。粘性ない。かたい。	
b	5YR3/4暗赤褐	5～20mm大のパミス若干。しまりけあり。粘性あり。かたい。	
c	2.5YR3/4暗赤褐	パミスなし。同上。同上。同上。	
d	10YR3/4　褐	パミス若干。同上。同上。同上。	
e	5YR3/4　赤褐	礫状パミス下方に多い。しまりけあり。粘性あり。	炭化物若干。

EE21p. 2

層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/4　褐	火山灰にパミス若干混入。指頭つく。ダンゴ状化。	炭化物若干。
b	7.5YR5/4　明褐	火山灰にパミス極少混入。指頭つく。紐状化。	
c	7.5YR3/4　褐	火山灰にパミス若干。同上。同上。	焼土・炭化物微量。

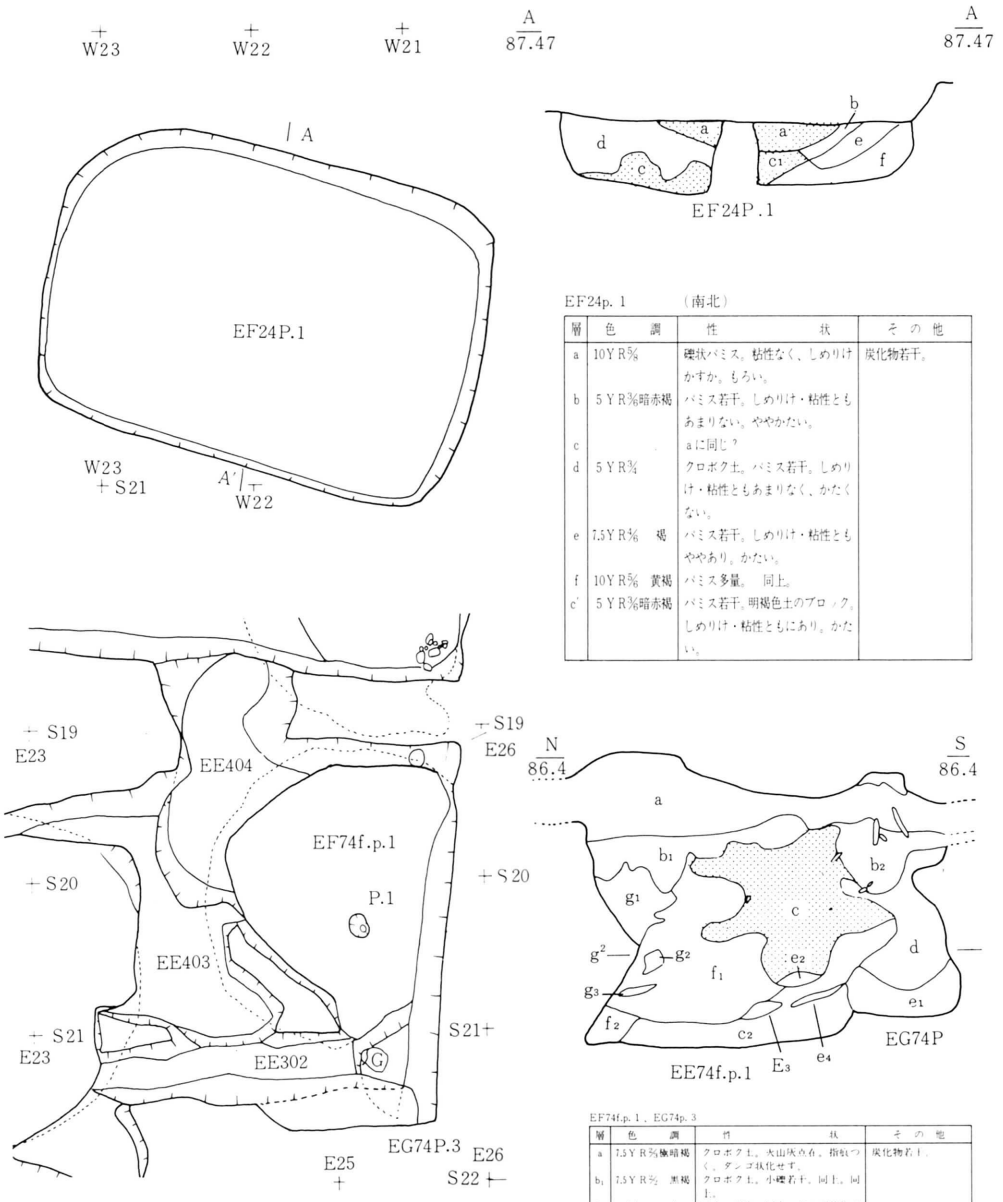
EF27p. 1　（南北）

層	色調	性状	その他
a	5YR5/4　暗赤褐	パミス点在。しまりけ・粘性ともになく。かたい。	
b	同上	2mm大のパミス点在。しまりけ・粘性ともaより強い。	
c	2.5YR5/4暗赤褐	5～20mmのパミス混在。粘性はややよわく。ややかたい。	
d	7.5YR5/4　明褐	パミス若干。しまりけ・粘性ともにあり。ややもろい。	炭化物若干。
e	7.5YR3/4　赤褐	パミスあまりなし。粘性・しまりけともにあり。ややかたい。	
f	5YR5/4　暗褐赤褐	同上。　同上。	炭化物若干。
g	7.5YR5/4　明褐	0.5mm大のパミス多い。しまりけ・粘性ともにつよくかたい。	
h	5YR5/4明赤褐	パミスあまりない。しまりけあまりなく、粘性よわく、かたい。	

EF24f.p. 1　EF27p. 1　EG27p. 1

層	色調	性状	その他
f	7.5YR5/4　明褐	パミス若干。粘性。しまりけあり。かたい。	
f_1	10YR5/4　黄褐	パミス若干。クロボク若干。粘性・しまりけあり。かたい。	
g	2.5YR3/4　暗褐	しまりけ・粘性なく、ややかたい。	
h	7.5YR5/4	砂状パミス。しまりけ・粘性なし。	
i	7.5YR5/4　明褐	パミスなし。粘性ややあり。かたい。	
j	10YR5/4	礫状パミス。クロボク若干あり。	
k	5YR3/4暗赤褐	パミス点在。しまりけ・粘性ややあり。	炭化物若干。
l	5YR3/4暗赤褐	パミス若干。fのブロックあり。同上。かたい。	
m	同上	同上。粘性あまりなく。しまりあり。	
n	2.5YR3/4暗赤褐	5～20mm大のパミス若干。しまりけあり。粘性よわく、かたい。	
o	5YR5/4　暗赤褐	パミス点在。しまりけ・粘性ともにあまりなく、かたい。	
p	同上	パミス若干。　同上。	
Q	2.5YR5/4　赤褐	1cm大のパミス若干。しまりけ・粘性あり。やわらかい。	
R	5YR3/4暗赤褐	パミス若干。同上。	

第115図　Eブロックピット実測図(48)（EF24p.1・EF27p.1）



EF24p. 1　　（南北）

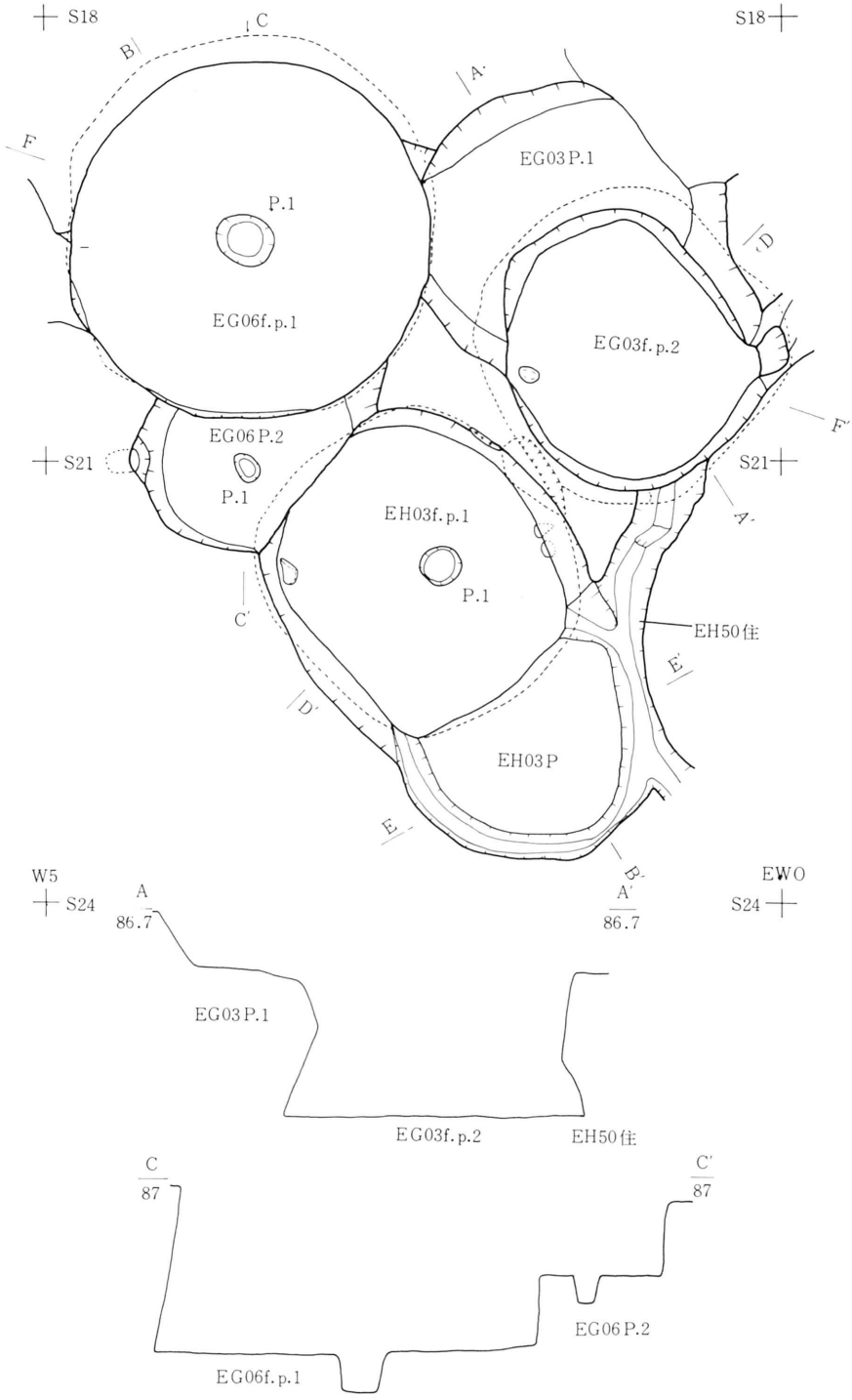
層	色　調	性　状	その他
a	10YR⅝	礫状パミス。粘性なく、しめりけかすか。もろい。	炭化物若干。
b	5YR⅜暗赤褐	パミス若干。しめりけ・粘性ともあまりない。ややかたい。	
c		aに同じ？	
d	5YR¾	クロボク土。パミス若干。しめりけ・粘性ともあまりなく、かたくない。	
e	7.5YR⅝　褐	パミス若干。しめりけ・粘性ともややあり。かたい。	
f	10YR⅝　黄褐	パミス多量。　同上。	
c'	5YR⅜暗赤褐	パミス若干。明褐色土のブロック。しめりけ・粘性ともにあり。かたい。	

	径	深
P.1	0.17×0.11	0.07

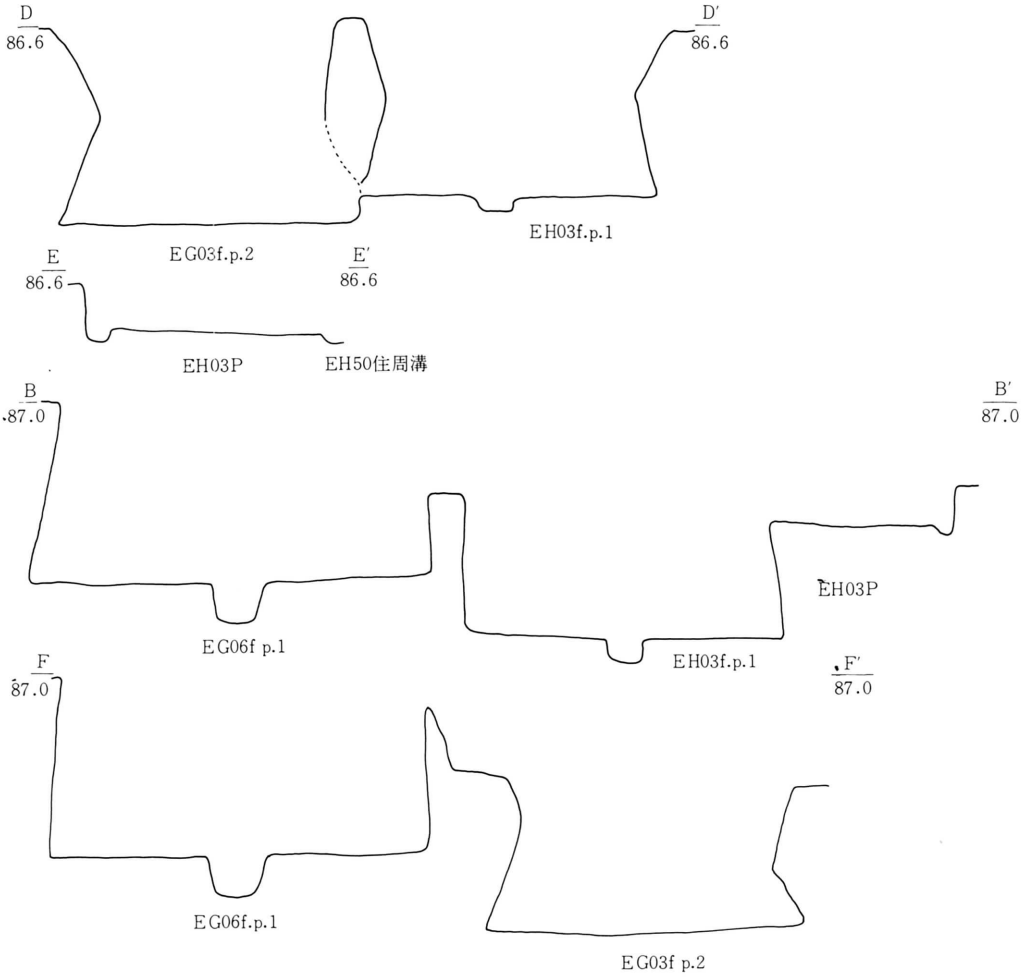
EF74f.p. 1，EG74p. 3

層	色　調	性　状	その他
a	7.5YR⅝暗褐	クロボク土。火山灰点在。指転つく。タンゴ状化せず。	炭化物若干。
b_1	7.5YR⅝　黒褐	クロボク土。小礫若干。同上。同上。	
b_2	同　上	同上。同上。同上。タンゴ状化せず。	
c_1	7.5YR⅝　黒褐	同上。パミス点在。同上。タンゴ状化。	炭化物若干。
c_2	7.5YR⅝暗褐	同上。火山灰若干。同上。同上。	同上。
c_3	同　上	同上。火山灰・パミス若干。同上。同上。	
d	7.5YR⅝　暗褐	同上。同上。同上。同上。	
e_1	7.5YR⅝　褐	火山灰土。パミス若干。指転つかず。タンゴ状化。	
e_2	7.5YR⅝　褐	同上。指転つく。タンゴ状化。	炭化物若干。
e_3	7.5YR⅝　明褐	同上。同上。同上。	クロボク土若干。
e_4	7.5YR⅝　暗褐	クロボク土。同上。同上。	
f_1	7.5YR⅝　褐	火山灰土。パミス点在。指転つく。タンゴ状化せず。	炭化物若干。
f_2	同　上	同上。クロボク土若干。同上。同上。	
g_1	7.5YR⅝　明褐	同上。パミス・小礫若干。指転つかず。タンゴ状化せず。	
g_2	同　上	指転つく。タンゴ状化。	炭化物若干。
g_3	同　上	火山灰土。クロボク・パミス若干。指転つく。タンゴ状化。	

第116図　Eブロックピット実測図(49)　（EF24P.2・EF74f.p.1）

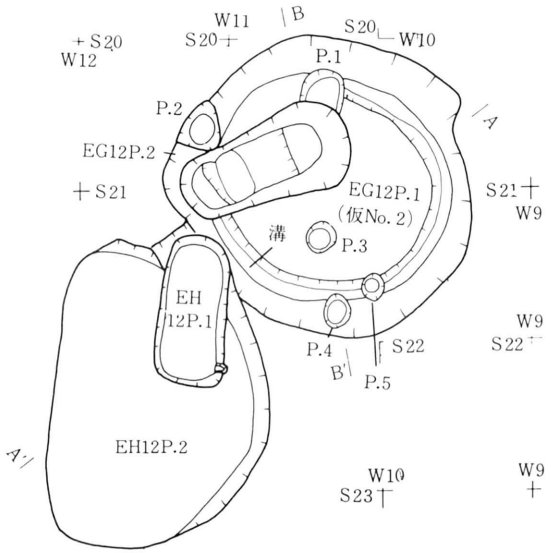


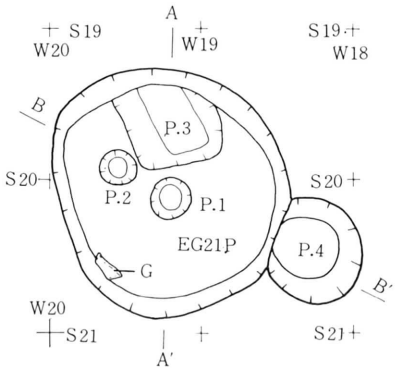
第117図　Eブロックピット実測図(50)（EG06f.p.1他）

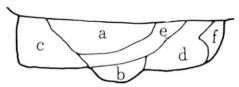


		径	深
EG06f.p.1			
	P.1	0.38×0.33	0.26
EG06 p.2			
	P.1	0.22×0.14	0.18
	2	0.16×0.3	0.33
EH03f.p.1			
	P.1	0.27×0.27	0.18

第118図　Eブロックピット実測図(51)（同前）



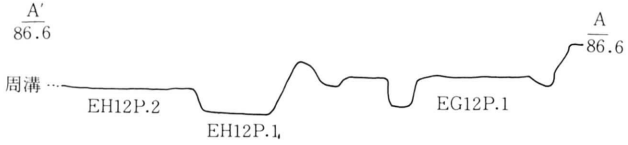


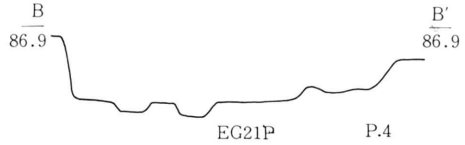


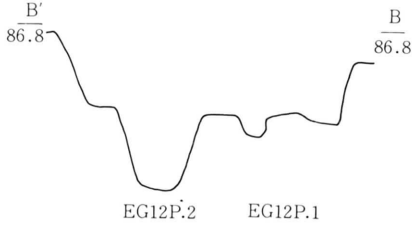
EG21P

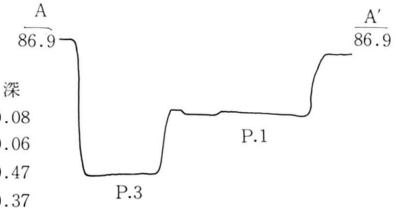
EG21p

層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/4暗褐	0.5～2cmの礫若干。指痕つく。かたくしまる。粘性なし。	パミス・火山灰若干。
b	7.5YR3/4 褐	パミス・火山灰若干。指めりこむ。やわらかい。粘性あり。	炭化物若干。
c	7.5YR5/6明褐	パミス・火山灰・a層土若干。指めりこむ。ややかたい。粘性あり。	同上。
d	7.5YR3/4暗褐	パミス・礫(1cm)若干。指痕つく。ややかたい。粘性なし。	
e	7.5YR3/4 褐	パミス若干。指めりこむ。やわらかい。粘性あり。	
f	7.5YR5/6明褐	火山灰。パミス若干。指めりこむ。やわらかい。粘性なし。	









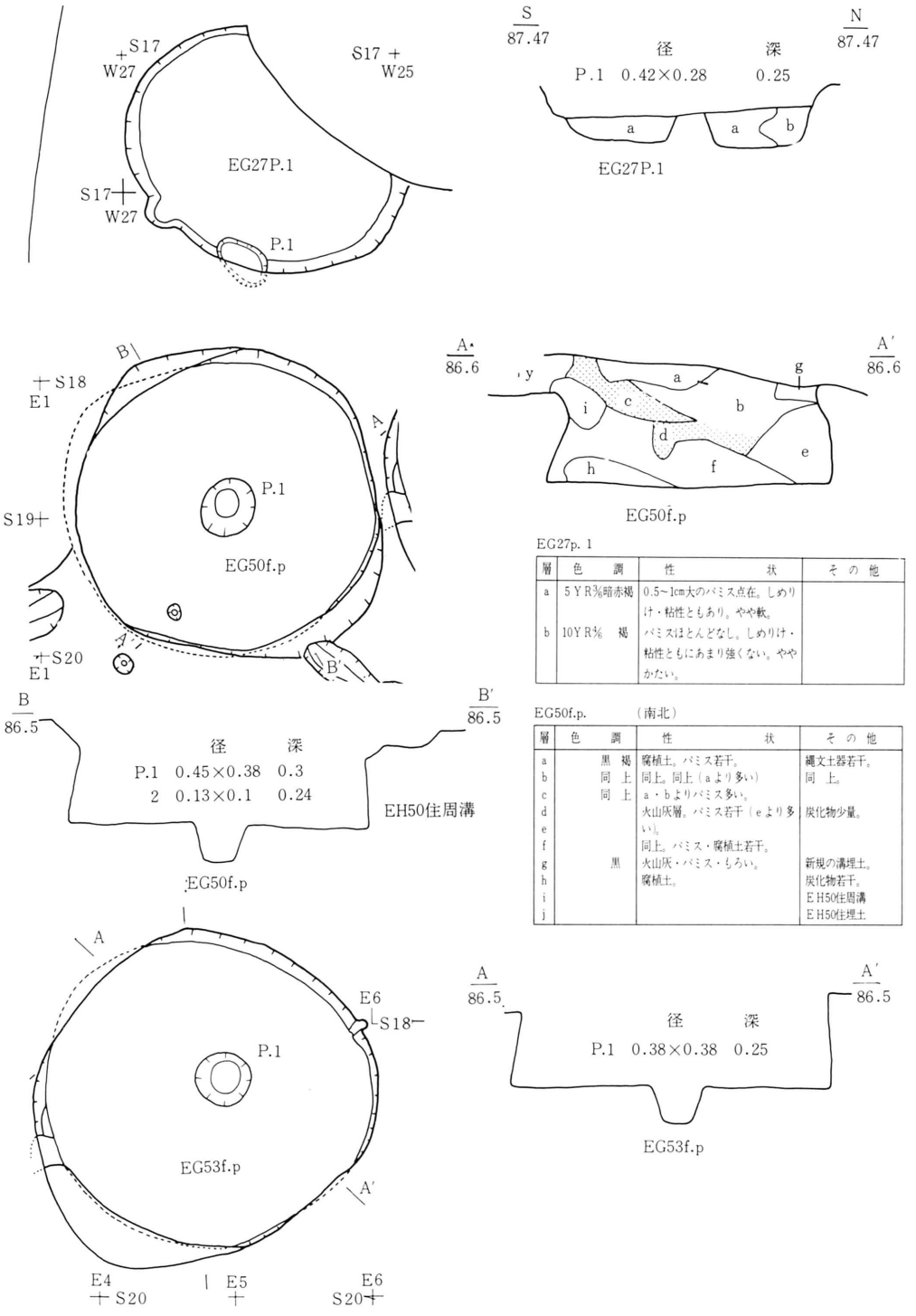
EG21P

	径	深
P.1	0.27×0.27	0.08
2	0.24×0.24	0.06
3	0.6 ×0.6	0.47
4	0.7×0.7±	0.37

EG12P.1

	径	深
P.1	0.22×0.3±	0.28
2	0.32×0.3	0.33
3	0.18×0.18	0.14
4	0.22×0.19	0.4
5	0.18×0.15	0.07

第119図 Eブロックピット実測図 (52) (EG12P.1他・EG21P.他)



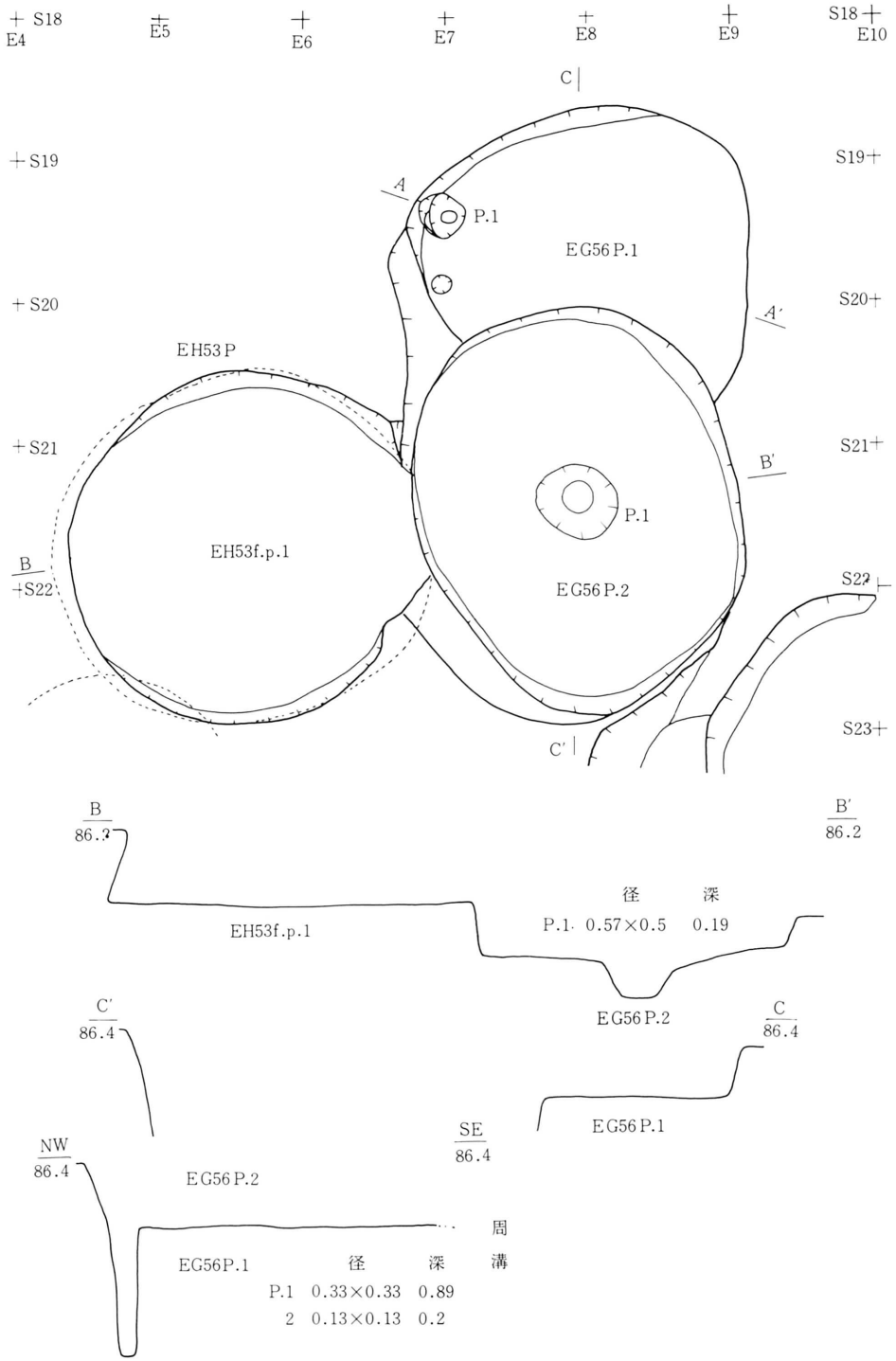
EG27p. 1

層	色調	性状	その他
a	5YR3/4暗赤褐	0.5~1cm大のパミス点在。しめりけ・粘性ともあり。やや軟。	
b	10YR5/4 褐	パミスほとんどなし。しめりけ・粘性ともにあまり強くない。ややかたい。	

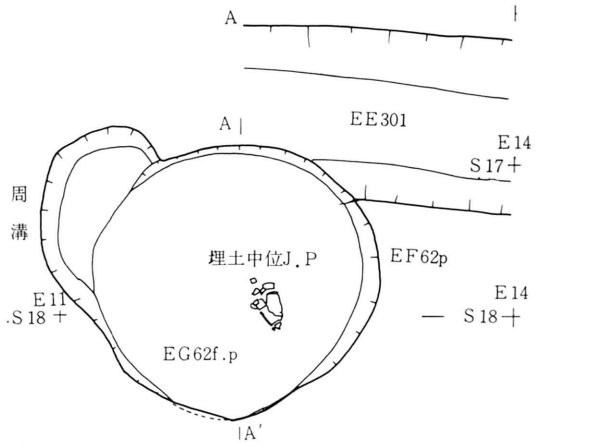
EG50f.p. （南北）

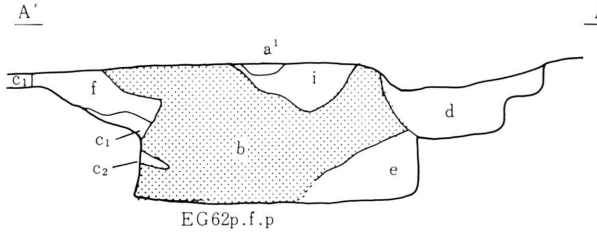
層	色調	性状	その他
a	黒褐	腐植土。パミス若干。	縄文土器若干。
b	同上	同上。同上（aより多い）	同上。
c	同上	a・bよりパミス多い。	
d		火山灰層。パミス若干（eより多い）。	炭化物少量。
e			
f		同上。パミス・腐植土若干。	
g	黒	火山灰・パミス・もろい。	新規の溝埋土。
h		腐植土。	炭化物若干。
i			EH50住周溝
j			EH50住埋土

第120図　Eブロックピット実測図(53)　（EG27P.1・EG50f.p.・EG53f.p）



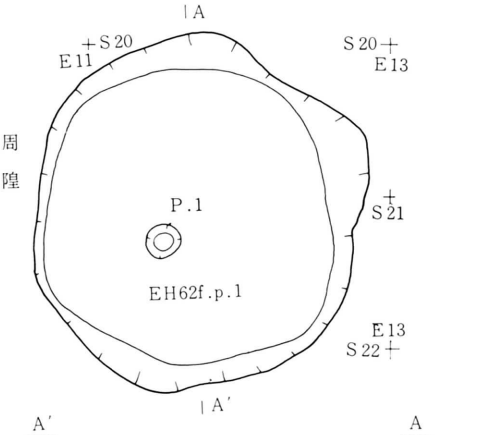
第121図　Eブロックピット実測図(54)　(EG 56P.1・P.2・EH53f.p.1)

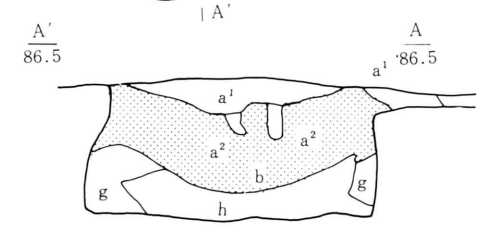




EG62p:t、EH62p:t （南北）

層	色調	性状	その他
d	7.5YR3/4 暗褐	指が入りこむ。紐状化。	溝状遺構埋土。
a_1	7.5YR3/1 黒褐	指痕つく。紐状化。	
a_2	同上	bが若干混入。	
b	7.5YR5/4 褐	小豆大パミス散在。指痕つく。紐状化。	炭化物・縄文土器若干。
c_1	7.5YR5/6 明褐	パミスとシルトの混土。同上。同上。	
c_2	同上	同上なるも、褐色土混入。	
e	7.5YR3/3 褐	シルトとパミスが斑状に入る。指痕つく。紐状化。	
f	7.5YR5/6 明褐	粘土質シルト。指痕つかず。紐状化。	
g	7.5YR5/6 明褐	パミス。指痕つく。紐状化せず。	
h	7.5YR5/6 明褐	粘土質シルト。同上。紐状化。	
i	7.5YR4/6 褐	パミス少量混入。指痕つかず。紐状化。	

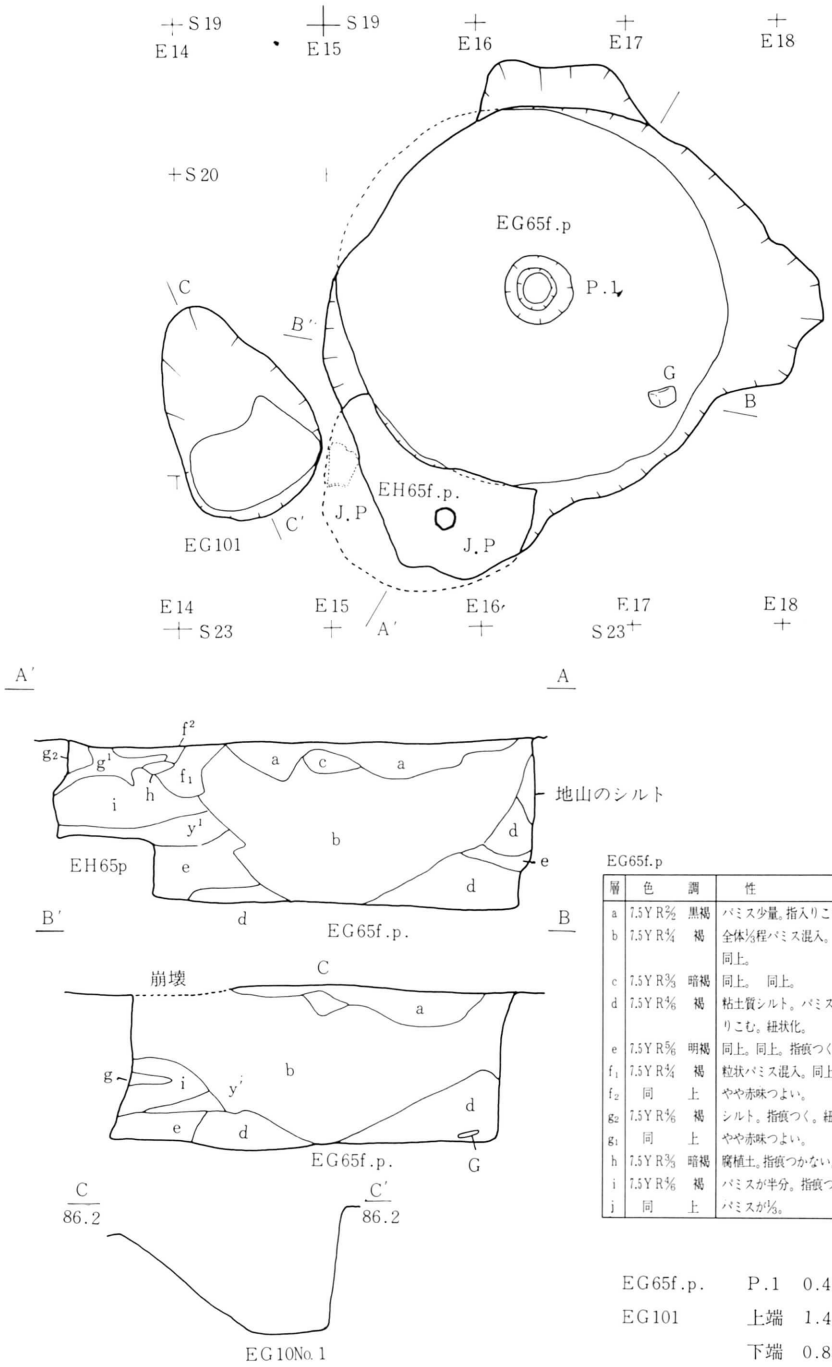




EH62p.1

	径	深
P.1	0.22×0.22	0.19

第122図　Eブロックピット実測図(55)(EG62f.p.・EH62f.p.1)

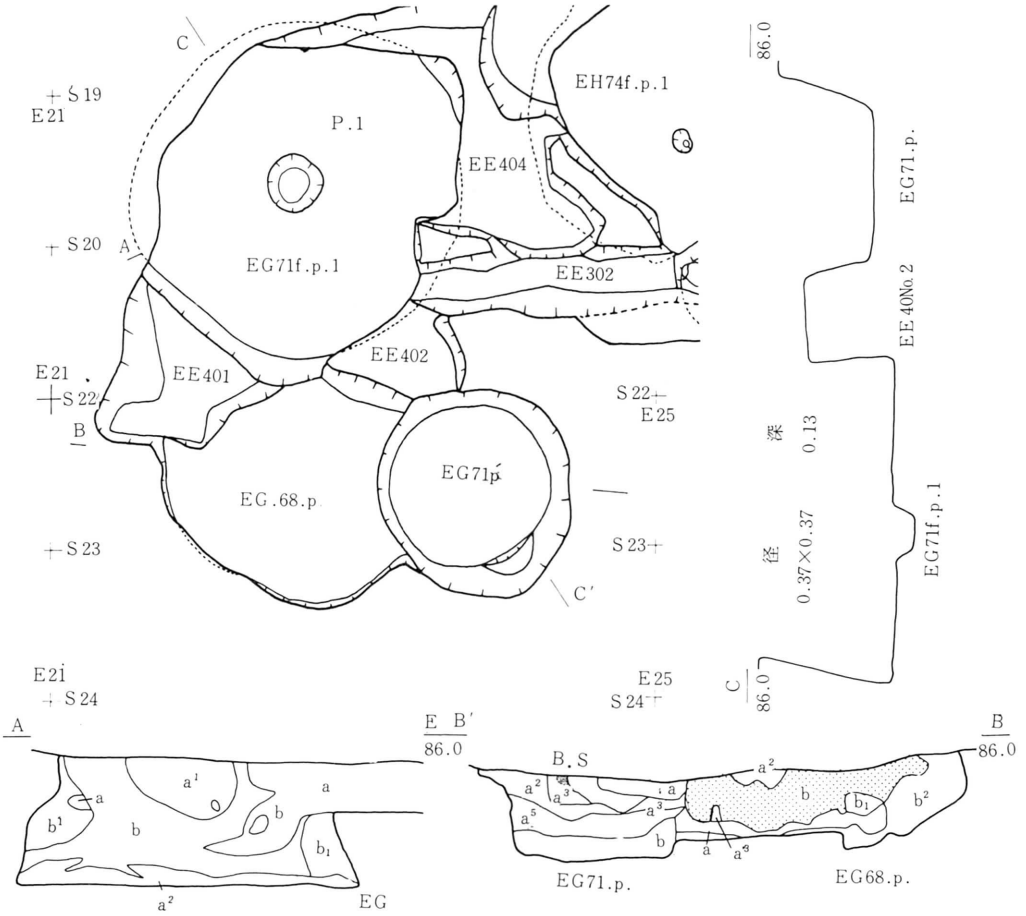


EG65f.p

層	色調	性状	その他
a	7.5YR2/2 黒褐	パミス少量。指入りこむ。紐状化。	
b	7.5YR3/4 褐	全体1/3程パミス混入。指痕つく。同上。	
c	7.5YR3/3 暗褐	同上。 同上。	
d	7.5YR3/6 褐	粘土質シルト。パミス若干。指入りこむ。紐状化。	
e	7.5YR5/6 明褐	同上。同上。指痕つく。同上。	
f_1	7.5YR3/4 褐	粒状パミス混入。同上。同上。	
f_2	同 上	やや赤味つよい。	
g_2	7.5YR3/6 褐	シルト。指痕つく。紐状化。	
g_1	同 上	やや赤味つよい。	
h	7.5YR3/3 暗褐	腐植土。指痕つかない。粘性なし。	焼土微量。
i	7.5YR3/6 褐	パミスが半分。指痕つく。同上。	
j	同 上	パミスが1/3。	

		径	深
EG65f.p.	P.1	0.45×0.45	0.13
EG101	上端	1.4±×0.95±	
	下端	0.85±～0.5	
	深	0.82±～0.66±	

第123図　Eブロックピット実測図(56)(EG65f.p.・EH65f.p. 他)



EG71f.p. 1　　（東西）

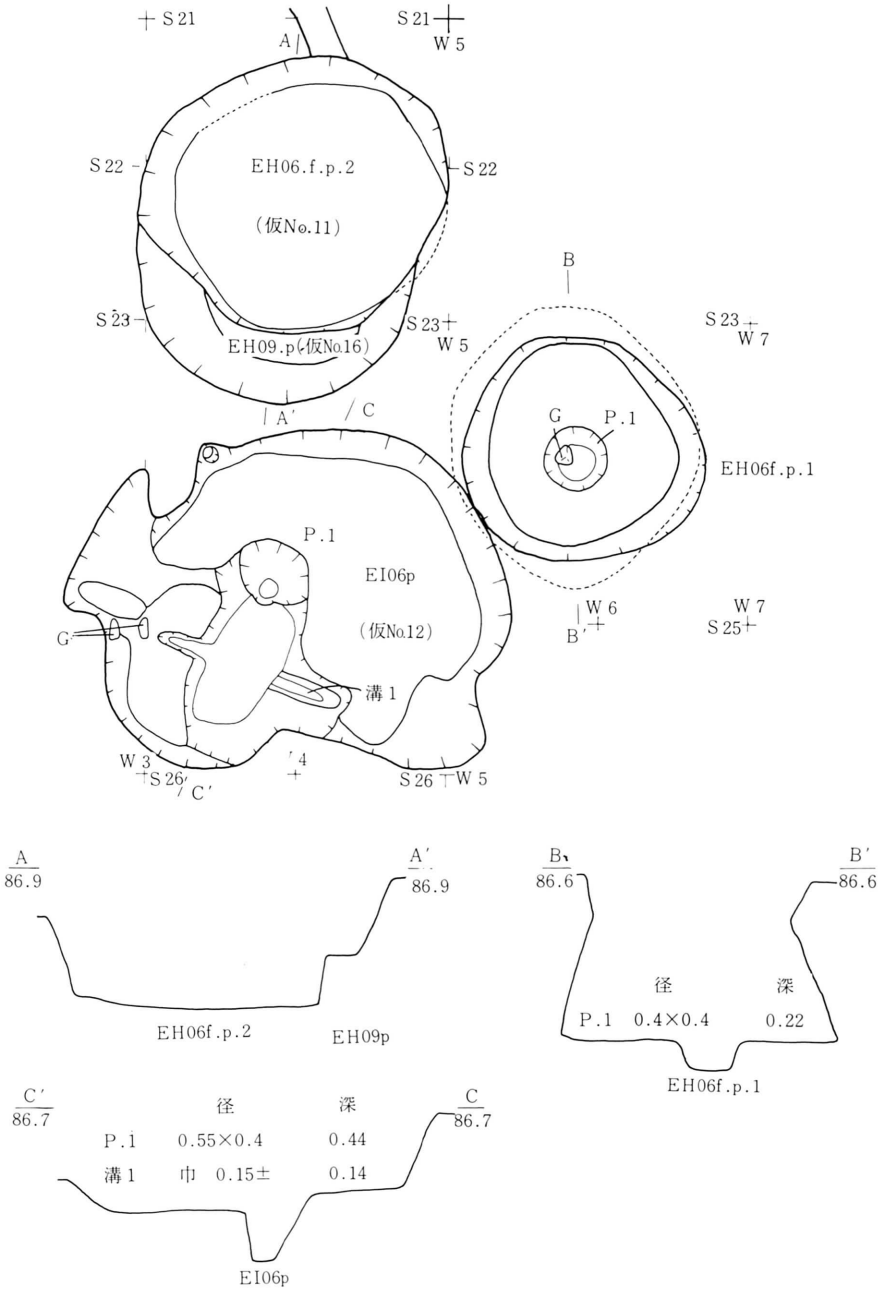
層	色　調	性　状	その他
a	10YR2/2　黒褐	腐植土。粘性ややあり。指痕残存。	炭化物・パミス混入。
a_1	10YR3/4　暗褐	腐植土と火山灰の混土。同上。同上。	同上⊕礫
a_2	10YR3/3　同上	同上。　同上。　同上。	炭化物・パミス混入。
b	10YR4/4　褐	火山灰土。同上。同点。　上	同上⊕礫
b_1	10YR4/6　同上	同上。　同上。　同上。	パミス若干。

EG71p.　EG68p.　　（東西）

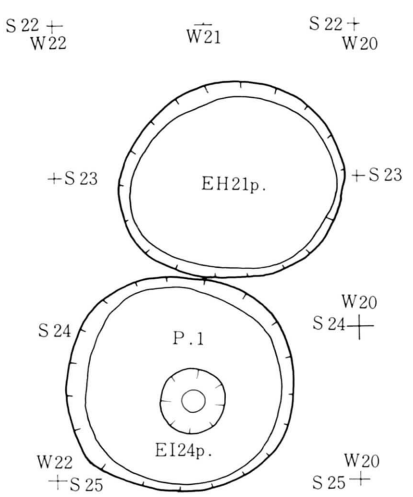
層	色　調	性　状	その他
a	10YR3/4　暗褐	腐植土と火山灰土の混土。パミス若干。指痕つく。粘性ややあり。	炭化物若干。
a_1	10YR3/2　黒褐	腐植土。礫若干。指入りこむ。粘性ややあり。	同上。　腐植
a_2	同　上	同上。同上。指痕つく。同上。	同上。
a_3	10YR3/3　黒褐	同上。パミス若干。同上。同上。	炭化物・焼土若干。
a_4	10YR3/2　黒褐	同上。同上。同上。同上。	同上。
a_5	10YR3/3　黒褐	同上。同上。指痕つかず。同上。	同上。
b	7.5YR3/4　暗褐	腐植土と火山灰の混土。パミス・小礫若干。指痕つかず。粘性あり。	
b_1	10YR3/4　暗褐	同上。指入りこむ。粘性なし。	炭化物若干。
b_2	10YR4/6　褐	火山灰。パミス若干。指痕つく。粘性あり。	

No.	長径	短径	概形	深さ	備考
EE 401	?	?	?	0.7 ±	
402	?	?	?	0.13±	
403	?	?	?	0.31±	
404	?	?	?	0.5 ±	
405	?	?	?	0.39±	

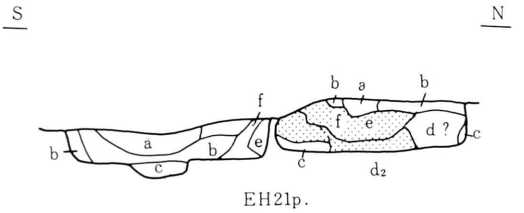
第124図　Eブロックピット実測図（57）



第125図　Eブロックピット実測図(58)(EH06f.p.1・2他)



	径	深
P.1	0.43×0.43	0.12

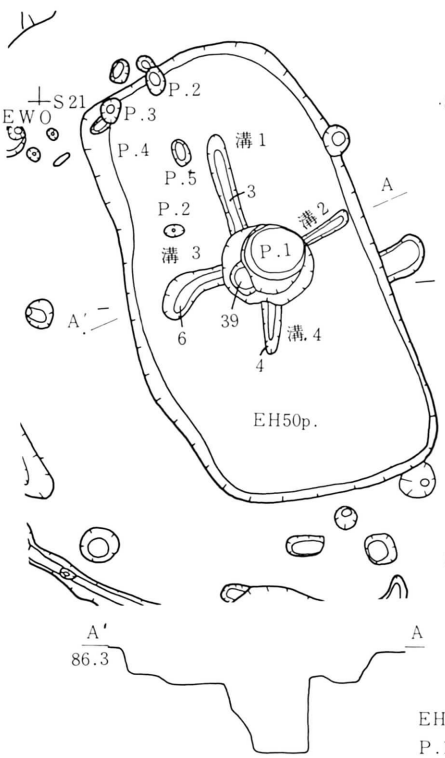


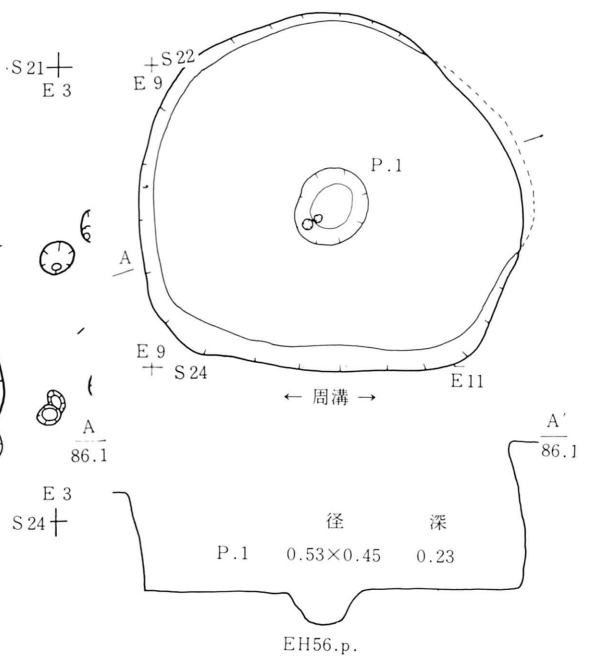
EI24p

層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/4 暗褐	バミスと火山灰学々。指紋つく。しまりあり。粘性あり。	
b	7.5YR5/3 褐	同上（バミスはaより少ない）。指めりこむ。しまりあり。経状化。	
c	7.5YR3/4 暗褐	同上（同上）。指紋つく。しまりあり。粘性あり。	
d	7.5YR5/3 褐	火山灰土。バミス若干。指紋つく。かたい。ダンゴ状化。	
e	7.5YR5/6 褐	同上。バミス若干（aより多い）。同上。同上。粘性なし。	
f	7.5YR5/6 明褐	同上。指めりこむ。かたい。粘性あり。	
g	7.5YR5/6 明褐	同上。バミス若干。b層土若干。指めりこむ。しまりあり。経状化。	炭化物若干。

EH21p:t EH21p

層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/4 暗褐	腐植土。バミス・火山灰若干。指めりこむ。粘性ややありて経状化。	炭化物若干。
b	7.5YR5/4 褐	火山灰土。バミス若干。同上。同上。同上。	同上。
c	7.5YR3/3 暗褐	火山灰若干。指紋つく。しまりあり。粘性あり。ダンゴ状化。	同上。
d_1	7.5YR5/6 明褐	火山灰土。バミス・礫若干。指紋つく。しまりあり。粘性ありてダンゴ状化。	
d_2	同上	同上。バミス混入（d_1より多い）。同上。同上。同上。	
e	7.5YR5/6 明褐	バミス・火山灰若干。指紋つく。しまりあり。粘性なし。	
f	7.5YR5/6 明褐	バミス。火山灰若干。同上。同上。同上。	

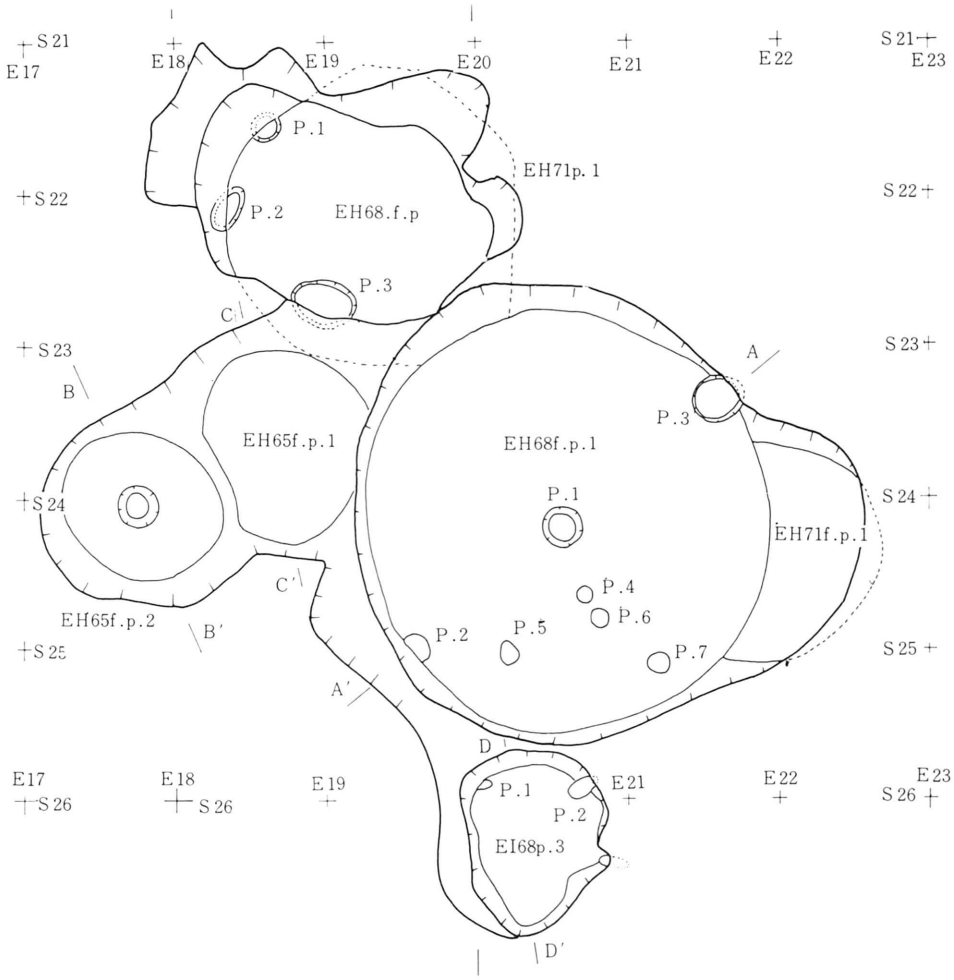




EH50p.	径	深
P.1	0.65×0.5	0.59・0.39
2	0.2×0.1	0.2
3	0.18×0.13	0.29
4	0.15±×0.07	0.21
5	0.18×0.1	0.09
6	0.12×0.09	0.05

溝 1	巾0.1	深0.03
2	0.07	0.04
3	0.15	0.06
4	0.12	0.04

第126図　Eブロックピット実測図(59)(EH21p・EI24p・EH50p・EH56p)



EH65f.p.2　耳栓出土状況

S25 —

EH65f.p.2　径　深

P.1　0.28×0.28　0.38

S25

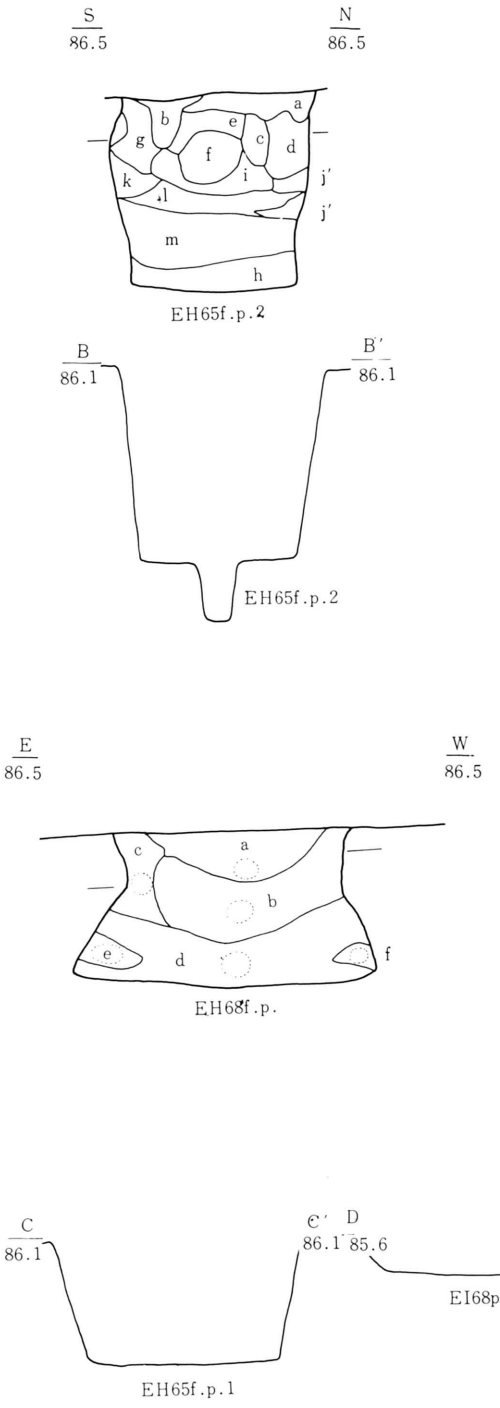
E18

E18

S24

S25—

第127図　Eブロックピット実測図(60)(EH68f.p.・f.p.1他)



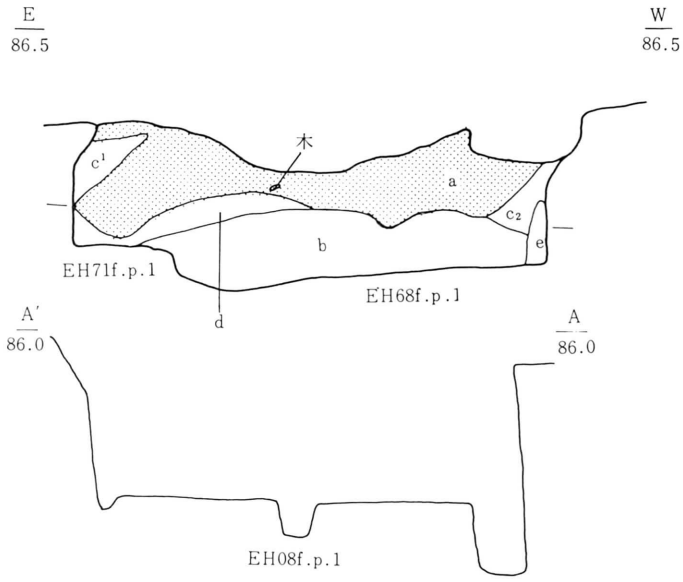
EH65p:t No.2　　（耳栓出土）

層	色調	性状	その他
a	7.5YR4/3 褐	腐植土。火山灰・パミス若干。指痕つかず。紐状化。	炭化物極少。
b	7.5YR3/2 黒褐	同上。指痕つかず。紐状化。	同上。
c	同上	同上。火山灰・パミス若干。指痕つかず。紐状化。	同上。
d	7.5YR4/6 褐	火山灰土に腐植土・パミス混入。指痕つく。ダンゴ状化。	同上
e	同上	同上。　同上。　同上。	
f	10YR4/6 褐	パミスに火山灰土と腐植土混入。指痕つく。紐状化。	
g	7.5YR4/6 褐	火山灰土に腐植土・パミス混入。指痕つく。ダンゴ状化。	炭化物極少。
h	7.5YR5/6 明褐	火山灰土。若干の腐植土。同上。同上。	
i	7.5YR4/6 褐	火山灰土に腐植土・パミス混入。指痕つく。紐状化。	炭化物極少。
j	7.5YR5/6 明褐	火山灰土。同上。同上。	同上。
k	7.5YR4/6 褐	火山灰土に腐植土混入。同上。同上。	同上。
l	7.5YR4/4 褐	腐植土に火山灰・パミス混入。同上。同上。	同上。
m	7.5YR4/3 褐	腐植土に若干の火山灰混入。指入りこむ。紐状化。	同上。
n	7.5YR3/2 黒褐	腐植土に火山灰土とパミス混入。指痕つく。紐状化。	同上。

EH68f.p.　　（東西）

層	色調	性状	その他
a	7.5YR4/3 褐	指痕つかず。紐状化。パミス1/4。黒色土に火山灰が若干混入。	炭化物極少。
b	7.5YR3/3 暗褐	指痕ややつく。同上。パミス極少。	同上。
c	7.5YR4/3 褐	指痕つかず。同上。同上。黒色土に火山灰が若干混入。	同上。
d	7.5YR3/4 暗褐	指痕つく。同上。小豆大のパミスが黒色土中に混入。	同上。
e	7.5YR5/6 明褐	指がやや入る。同上。同上。	
f	7.5YR3/3 暗褐	指痕つく。同上。径5mmのパミスが黒色土に混入。	

第128図　Eブロックピット実測図(61)(EH65f.p.2他)



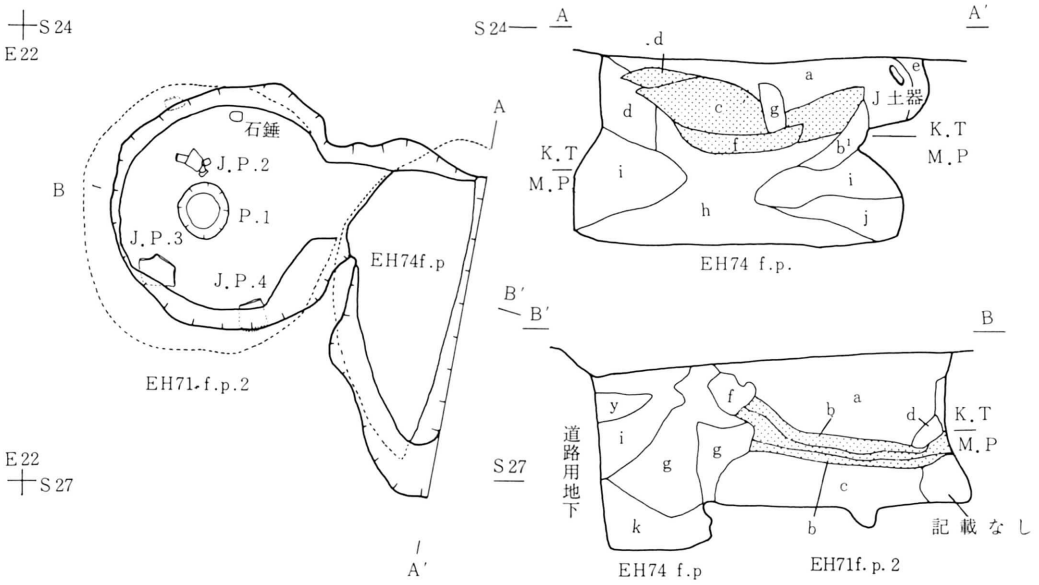
EH68f.p.	径	深
P.1	0.18×0.18	0.15
2	0.3×0.18	0.16
3	0.45×0.3	0.26

EH68f.p.1		
P.1	0.27×0.27	0.22
2	0.2×0.15	0.09
3	0.35×0.28	0.48
4	0.1×0.1	0.16
5	0.15×0.1	0.28
6	0.13×0.13	0.2
7	0.12×0.12	0.26

EH68p:t No.1、EH71p:t No.1

層	色調	性状	その他
a	7.5YR5/6 明褐	火山灰土。パミス点在。腐植物若干。指痕つく。ダンゴ状化。	炭化物若干。
b	7.5YR5/8 明褐	同上。同上（aより少ない）。指痕つく。ダンゴ状化。aより粘性あり。	同上。
c_1	7.5YR5/6 明褐	火山圧土。腐植土若干。指痕つかず。ダンゴ状化せず。かたい。	
c_2	同上	指痕つく。ダンゴ状化。	c_1より軟。
d	7.5YR5/4 褐	クロボク土。パミス若干。指痕く。ダンゴ状化。	炭化物若干。 炭化物若干。
e	7.5YR5/8 明褐	火山灰土。パミス多量。クロボク土若干。指痕つかず。ダンゴ状化。	同上。

第129図　Eブロックピット実測図(62)(EH68f.p.1他)



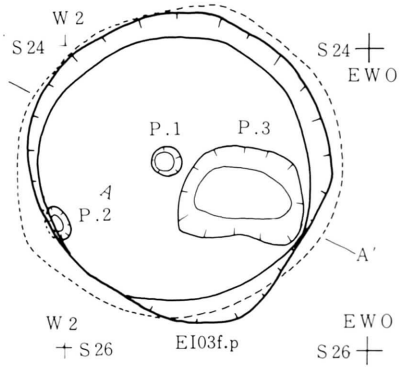
EH74f.p.（南北）

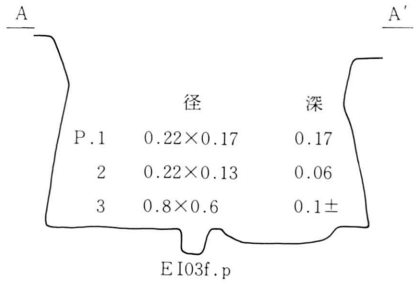
層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/4 暗褐	腐植土。指痕つく。紐状化。	
b	7.5YR4/4 褐	シルト質。大豆大のパミス極少。指痕つかず。紐状化。	
c	7.5YR3/4 暗褐	腐植土とシルトの混土。大豆大パミス若干。指痕つかず。紐状化。	
d	7.5YR3/6 褐	シルトと火山灰の混土。同上。同上。	
f	7.5YR4/3 褐	腐植土。小豆大パミス極少。指痕つく。紐状化。	炭化物若干。
g	7.5YR3/2 黒褐	腐植土。粉状パミス全体に入る。指痕つかず。紐状化。	
h	7.5YR4/6 褐	火山灰土。パミス若干（小礫大）。指痕つく。紐状化。	
i	7.5YR5/6 明褐	同上。指痕つく。紐状化。	
j	同上	同上。小豆大のパミスが全体に入る。指痕つく。紐状化。	
k	7.5YR5/8 橙	パミス。指痕つく。粘性乏し。	粉状に変化。
e	7.5YR5/8明褐	火山灰土。指痕つかず。紐状化。	
b′		bより黒味つよい。	

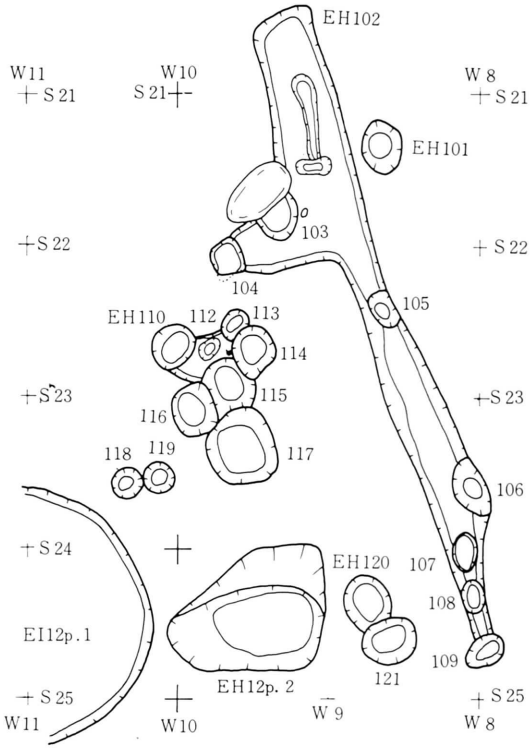
EH71f.p. 2、EH74f.p.

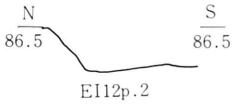
層	色調	性状	その他
a	7.5YR4/3 褐	腐植土。パミス・火山灰ブロック若干。指痕つかず。粘性乏し。	炭化物散在。
b	7.5YR3/4 褐	同上。火山灰大ブロックあり。指痕ややつく。棒状化。	炭化物極少。
c	7.5YR3/6 褐	腐植土と火山灰土の混土。パミス散在指痕つく。粘性に乏しい。	炭化物散在。
d	7.5YR5/4にぶい褐	火山灰土。腐植土混入。指痕つく。棒状化。	
e	7.5YR5/6 明褐	同上。指痕つかず。粘性乏しい。	
f	7.5YR3/4 褐	腐植土と火山灰土の混土。指痕つく。粘性に乏し。	
g	10YR5/6	パミス。指痕つかず。粘性なし。	
h	7.5YR5/6 明褐	火山灰土。腐植土若干。指痕つく。ダンゴ状化。	
i	10YR3/6 褐	同上。同上。同上。パミス粒子。全体に散在。	炭化物極少。
y	10YR3/3 暗褐	腐植土。火山灰若干。極少パミス。指痕つかず。粘性に乏し。	
k	10YR3/4 褐	同上。火山灰・パミス若干。指痕つく。棒状化。	

第130図　Eブロックピット実測図(63)(EH71f.p.2・EH74f.p.)



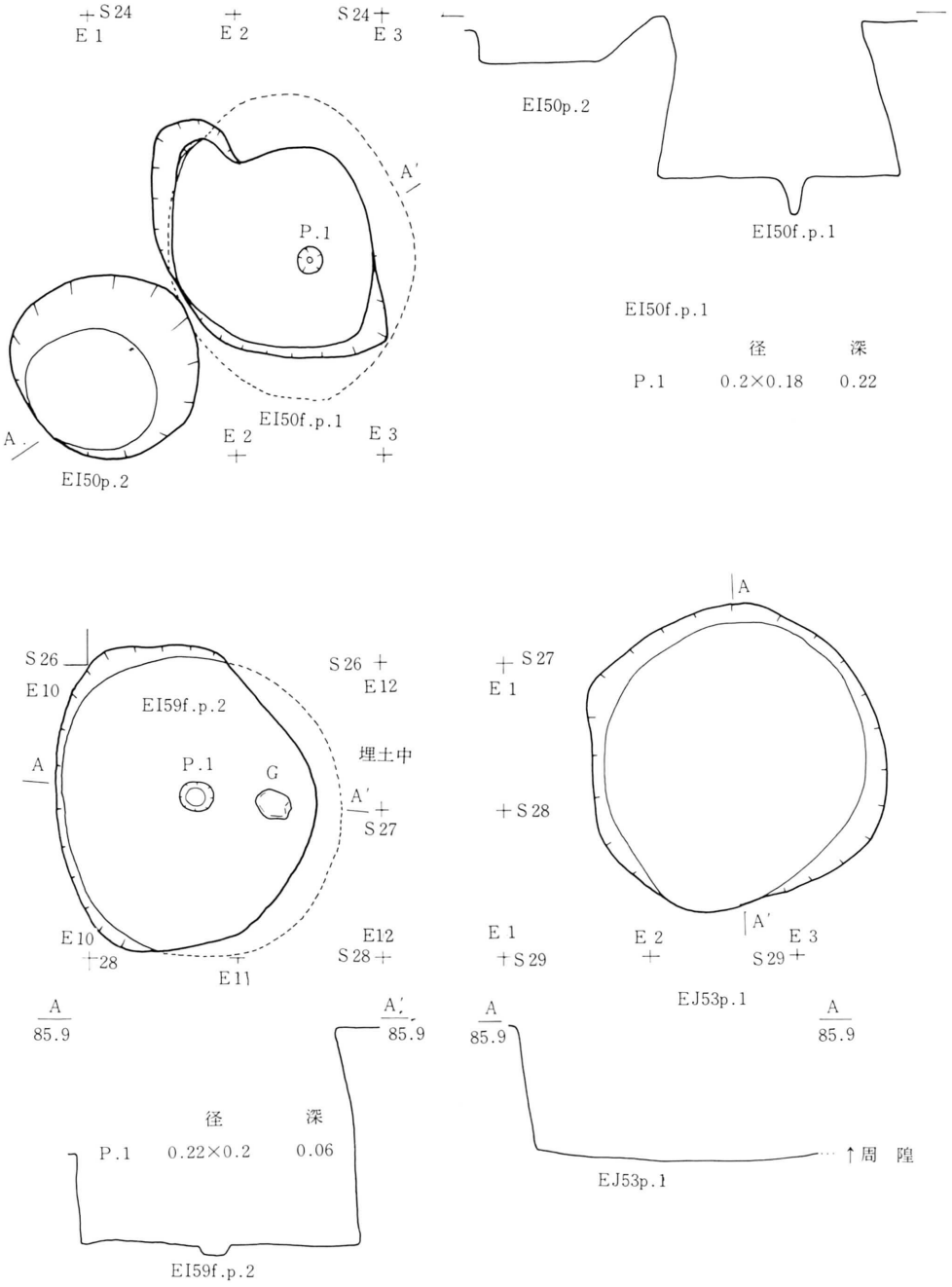




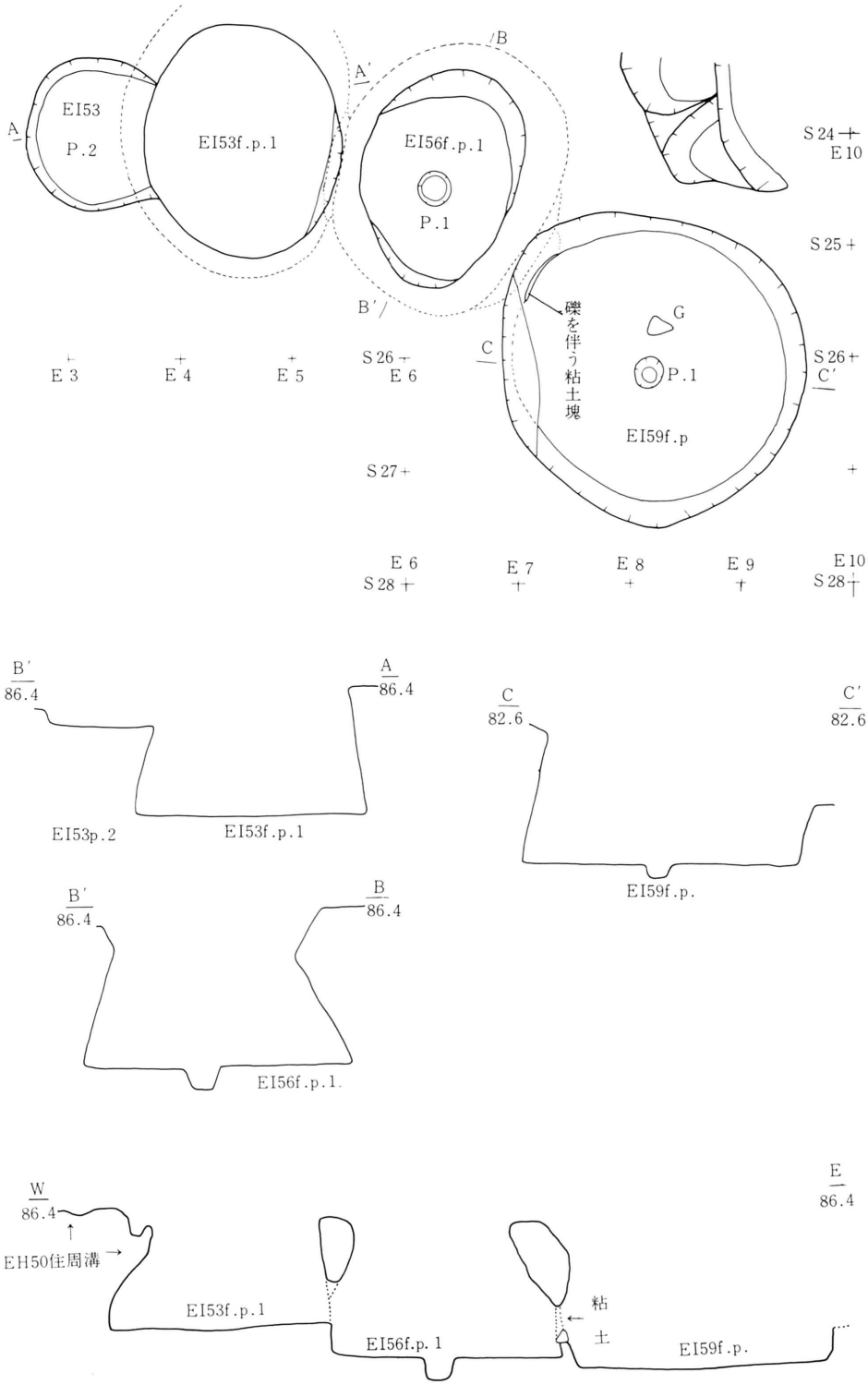


No.	長　径	短　径	概　形	深　さ	備　　考
E 101	0.35	0.28	楕円	0.24	
102	巾0.4 ～ 0.2	長さ 4.5		0.3～ 0.17	枝分れ。
103	?	0.3	?	0.2	102 中。
104	0.2	0.2	方	0.21	
105	0.25	0.15	長方	0.42	102 中。
106	0.4	0.23	楕円	0.32	〃
107	0.25	0.18	〃	0.23	〃
108	0.22	0.14	〃	0.15	〃
109	0.28	0.18	〃	0.41	〃
110	0.32	0.27	〃	0.23	
112	0.16	0.11	〃	0.24	
113	0.2	0.13	〃	0.21	
114	0.33	0.3	偏桃	0.24	
115	0.35	0.3	楕円	0.4	
116	0.32	0.28	長方	0.1	
117	0.5	0.43	〃	0.46	
118	0.2	0.2	円	0.07	
119	0.22	0.2	〃	0.16	
120	0.33	0.3	楕円	0.16	
121	0.36	0.27	〃	0.19	

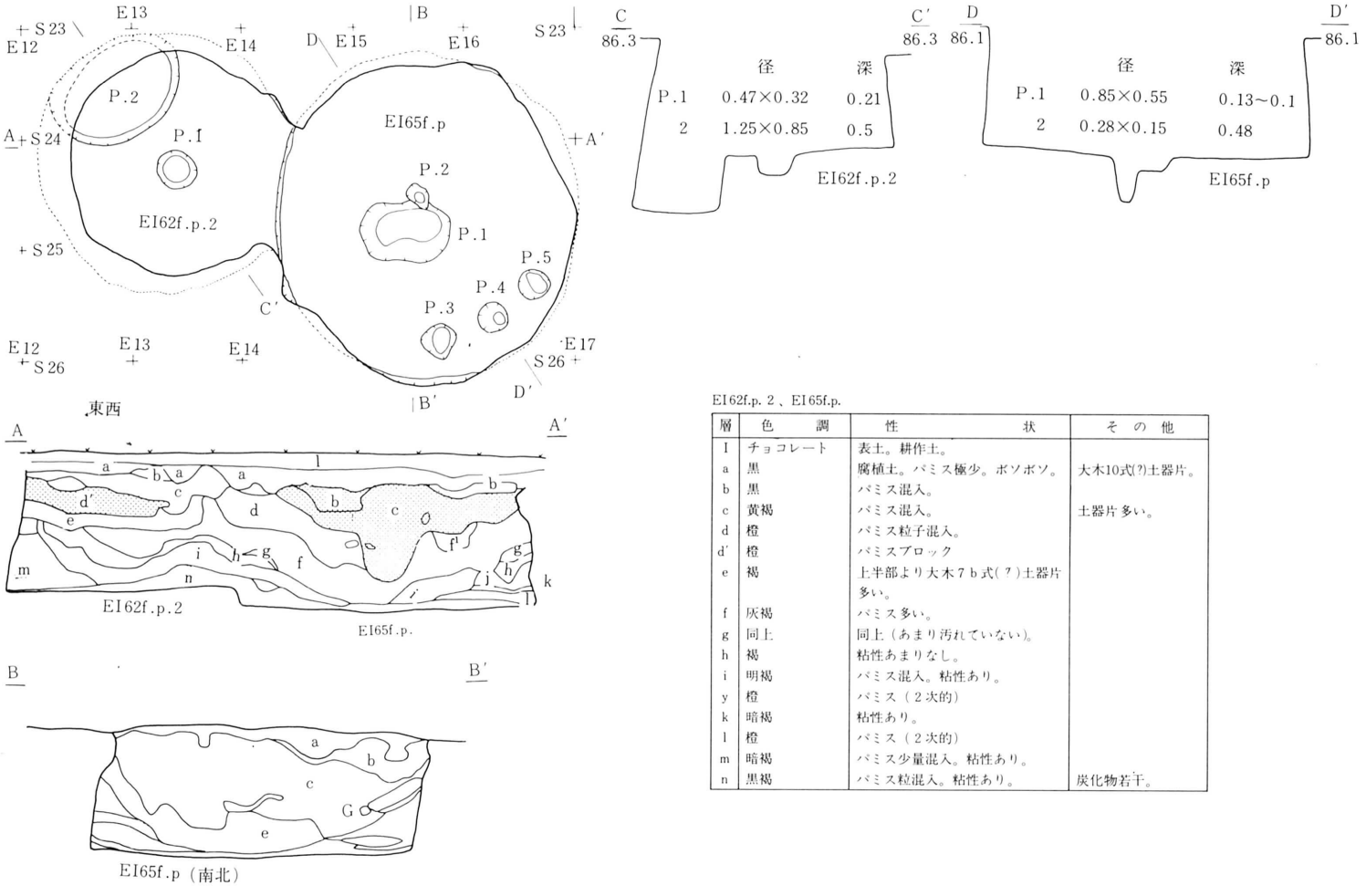
第131図　Eブロックピット実測図(64)(EI03f.p. 他)



第132図　Eブロックピット実測図(65)(EI50f.p.1・p.2・EI59f.p. 他)



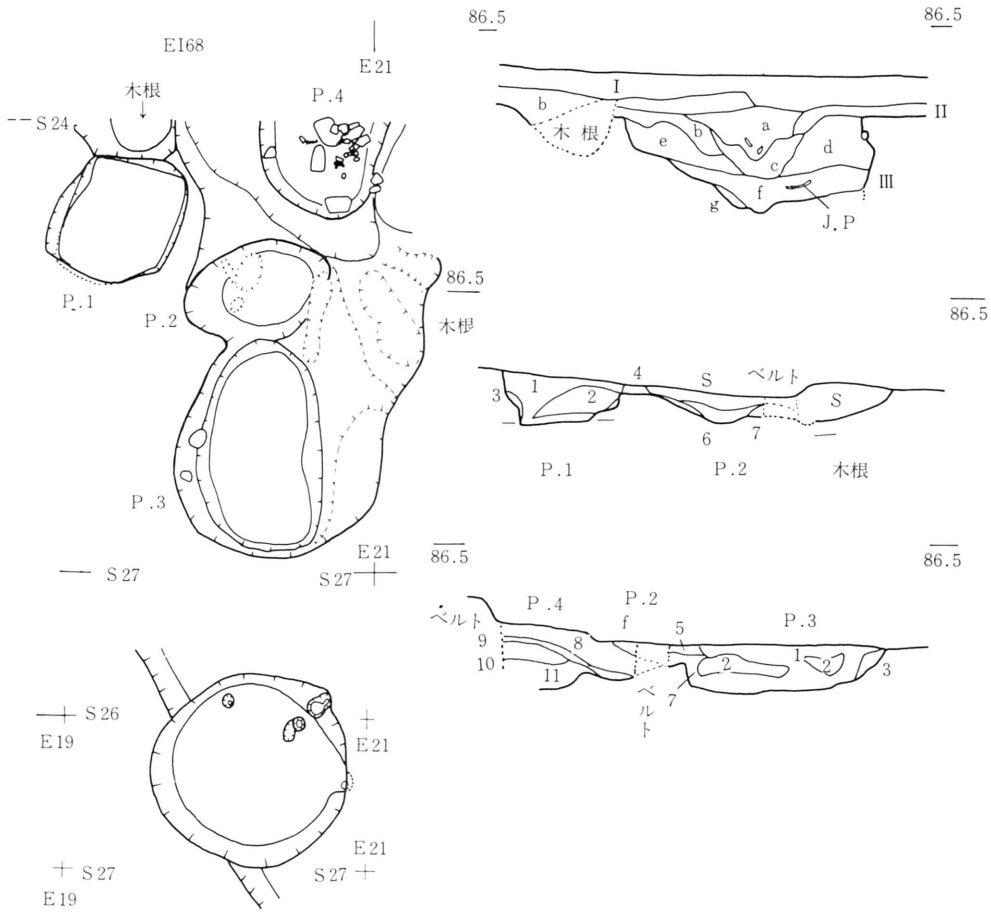
第133図　Eブロックピット実測図(66)(EI53f.p.1・EI56f.p.1・EI59f.p. 他)



EI62f.p. 2 、EI65f.p.

層	色　調	性　　状	そ の 他
I	チョコレート	表土。耕作土。	
a	黒	腐植土。パミス極少。ボソボソ。	大木10式(?)土器片。
b	黒	パミス混入。	
c	黄褐	パミス混入。	土器片多い。
d	橙	パミス粒子混入。	
d′	橙	パミスブロック	
e	褐	上半部より大木７ｂ式(？)土器片多い。	
f	灰褐	パミス多い。	
g	同上	同上（あまり汚れていない）。	
h	褐	粘性あまりなし。	
i	明褐	パミス混入。粘性あり。	
y	橙	パミス（２次的）	
k	暗褐	粘性あり。	
l	橙	パミス（２次的）	
m	暗褐	パミス少量混入。粘性あり。	
n	黒褐	パミス粒混入。粘性あり。	炭化物若干。

第134図　Eブロックピット実測図(67)(EI62f.p.2・EI65f.p)



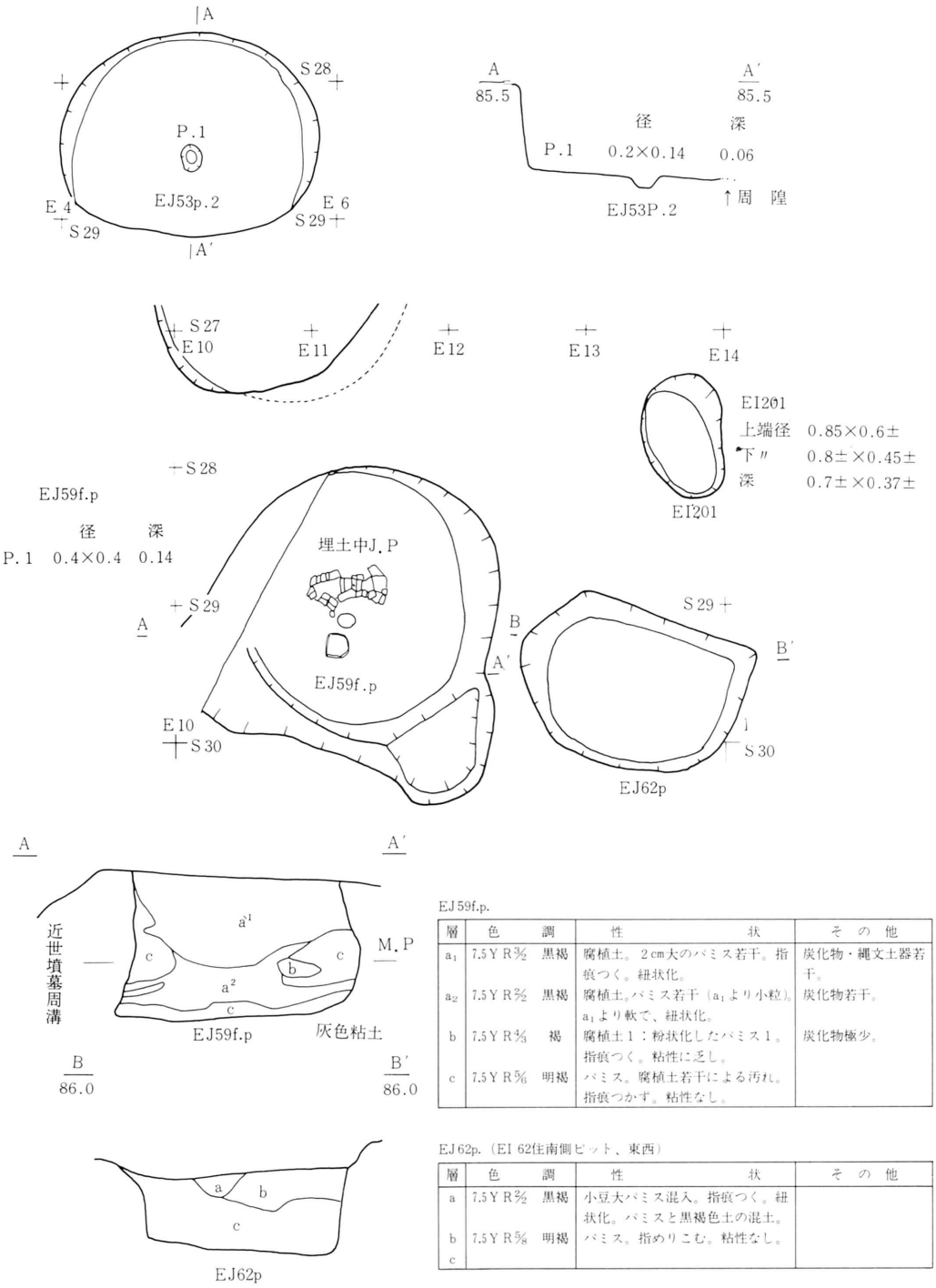
EI68p: No.4 他　（東西）

層	色調	性状	その他
I		表土。	
II	黄橙色	火山灰質土。軟質。指圧で凹む。	
III		火山灰土（地山）。二次堆積土。	汚れる。
a	黒	パミス粒混入。軟質。粗状化。	土器若干。
b	灰褐	同上。aよりややしまる。同上。	
c	暗灰褐	火山灰ブロック混入。パミス・ブロックも多い。やや軟。可塑性ある。	
d	灰茶褐	パミス粒やや多い。粗状化。	炭化物粒若干。
e	暗褐	もっとも可塑性つよい。しまりはある。パミスブロック多い。	
f	暗茶褐	パミス粒若干。ややしまる。粗状化。	同上。炭化物粒中央に集中。
g	暗褐	火山質土壌の汚れた部分。	

EI68p.1、2．3．4

層	色調	性状	その他
(1)	7.5YR⅓～⅔褐	コヨリにはならない。指痕つく。パミス小塊若干量ある。	火山灰わづかに混入。
(2)	(1)が木根により	ボソボソになったもの。パミス小塊を含む。	
(3)	7.5YR⅓　明褐	火山灰の黒ずんだもの	固壁のくずれ。
(4)	10YR⅓　褐	火山灰の汚れ。ボソボソ。(1)より軟質。	部分的に地山の一部を形成。
(5)	10YR⅔　黒褐	腐植土。	
(6)	7.5YR⅔　暗褐	(4)に似る。パミス小塊若干。	
(7)	(4)に相当。		
(8)	(6)に近い。		
(9)	黒ボク質	コヨリができる。	
(10)	黄褐	火山灰土。パミス粗粒ややあり、全体に固くしまる。	
(11)	暗褐	やや固くしまる。下層ほどパミス粒多い遺物が多い。	

第135図　Eブロックピット実測図(68)(EI68ピット群)



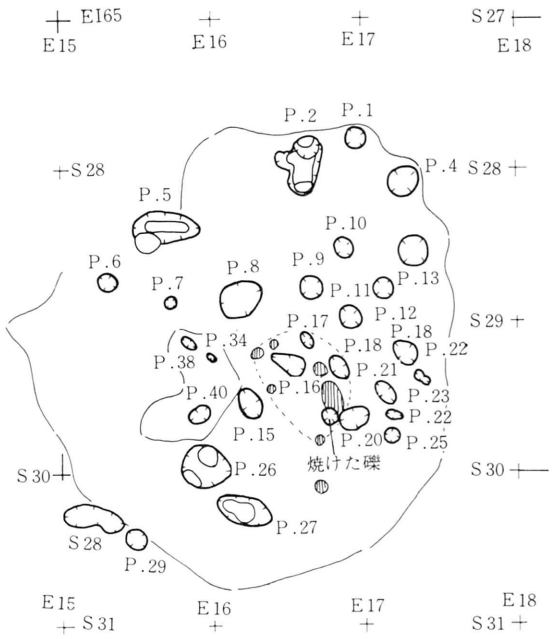
EJ 59f.p.

層	色調	性状	その他
a_1	7.5YR3/2 黒褐	腐植土。2cm大のパミス若干。指痕つく。紐状化。	炭化物・縄文土器若干。
a_2	7.5YR3/2 黒褐	腐植土。パミス若干（a_1より小粒）。a_1より軟で、紐状化。	炭化物若干。
b	7.5YR3/3 褐	腐植土1：粉状化したパミス1。指痕つく。粘性に乏し。	炭化物極少。
c	7.5YR5/6 明褐	パミス。腐植土若干による汚れ。指痕つかず。粘性なし。	

EJ 62p.（EI 62住南側ピット、東西）

層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/2 黒褐	小豆大パミス混入。指痕つく。紐状化。パミスと黒褐色土の混土。	
b	7.5YR5/8 明褐	パミス。指めりこむ。粘性なし。	
c			

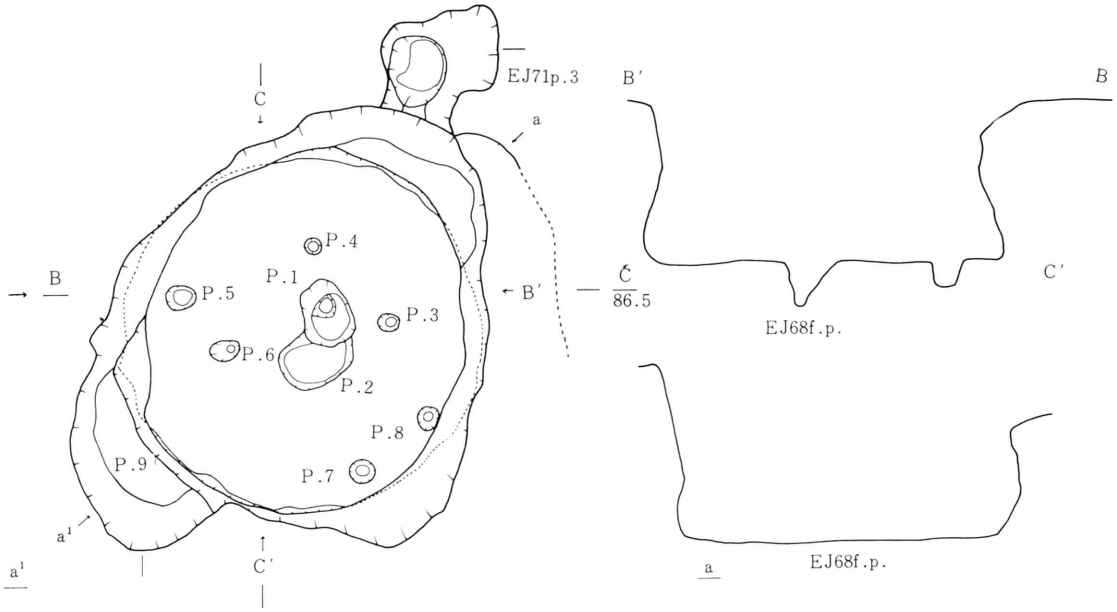
第136図　Eブロックピット実測図(69)(EJ53p.2・EJ59f.p. 他)

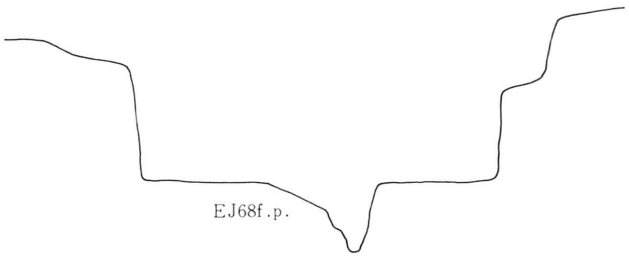


No.	長　径	短　径	概　形	深　さ	備　　考
P. 1	0.15	0.15	円	0.19	
2	0.13	0.13	〃	0.29	斜行
3	0.3±	0.15	楕円？	0.22	P. 2と重複？
4	0.22	0.18	〃	0.27	
5	0.5	0.2	〃	0.22	
6	0.15	0.12	〃	0.32	
7	0.08	0.08	円	0.04	
8	0.32	0.24	楕　円	0.33	
9	0.16	0.16	円	0.09	
10	0.13	0.13	〃	0.24	
11	0.16	0.15	〃	0.24	
12	0.13	0.13	〃	0.29	
13	0.2	0.2	〃	0.23	
14	0.8	0.3	不整形	0.4、0.34、0.28	凹部 3

No.	長　径	短　径	概　形	深　さ	備　　考
P.15	0.2	0.15	楕　円	0.25	
16	0.25	0.15	倒　卵	0.22	
17	0.13	0.07	楕　円	0.08	
18	0.17	0.12	〃	0.14	
20	0.22	0.15	〃	0.31	
21	0.18	0.12	〃	0.13	
22	0.2	0.15	〃	0.23	
23	0.12	0.06	ダルマ	0.14	
24	0.13	0.07	楕　円	0.05	
25	0.1	0.1	円	0.08	
26	0.33	0.3	楕　円	0.45、0.21	凹部 2
27	0.37	0.22	〃	0.42	
28	0.45	0.15	不　整	0.18	
29	0.15	0.15	円	0.13	

第137図　Eブロックピット実測図（70）　EJ68遺構



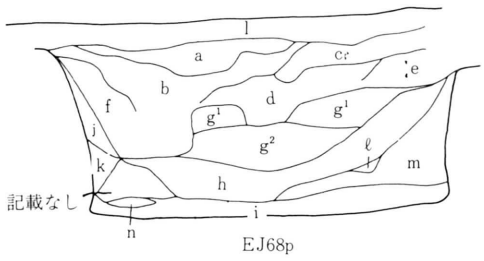


E21.3
S26.6

E21.4
S20.5

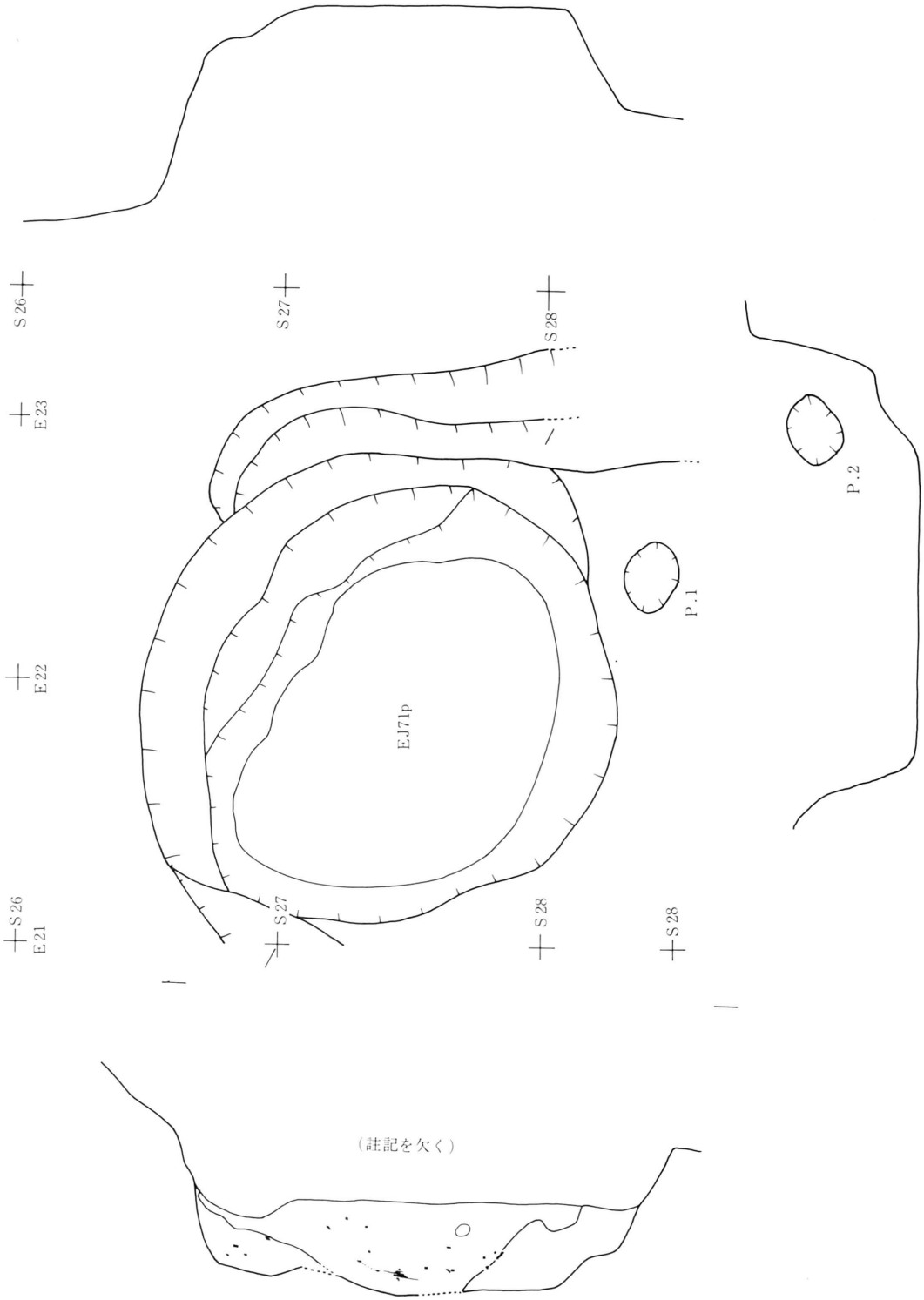
EJ68f f.p. EJ71p.

層	色調	性状	その他
l	茶	表土。軟く。ボサボサ。	草木根多い。
a	黒	パミス粒を含む。大木10式片。	土器片・炭化物若干。
b	黒褐	同上。かたくしまる。大洞c_2式片。	炭化物若干。
c	暗茶褐	パミスなし。粘性乏しく。ややかたい。	
d	暗黒	パミス粒若干。きわめてかたくしまる。	大木8b式片。
e	暗黒褐	cに似るが、それより軟質で、指圧痕つく。	炭化物若干。
f	明茶褐	パミス粒混入。a・bより軟で粘性ややあり。	炭化物・土器片若干。
g_1	暗褐	パミス粒若干。きわめてかたくしまる。粘性ややあり。	炭化物粒若干。
g_2	明茶褐	同上。 同上。 同上。	
h	暗褐	パミス粒多く。ザラザラ。しまりなし。	同上。
i	〃	やや黒っぽい。	
y	〃		
l	nに同じ	パミス多い。ザラザラ。	
m	パミス〃	大豆大。	
n	nに同じ		

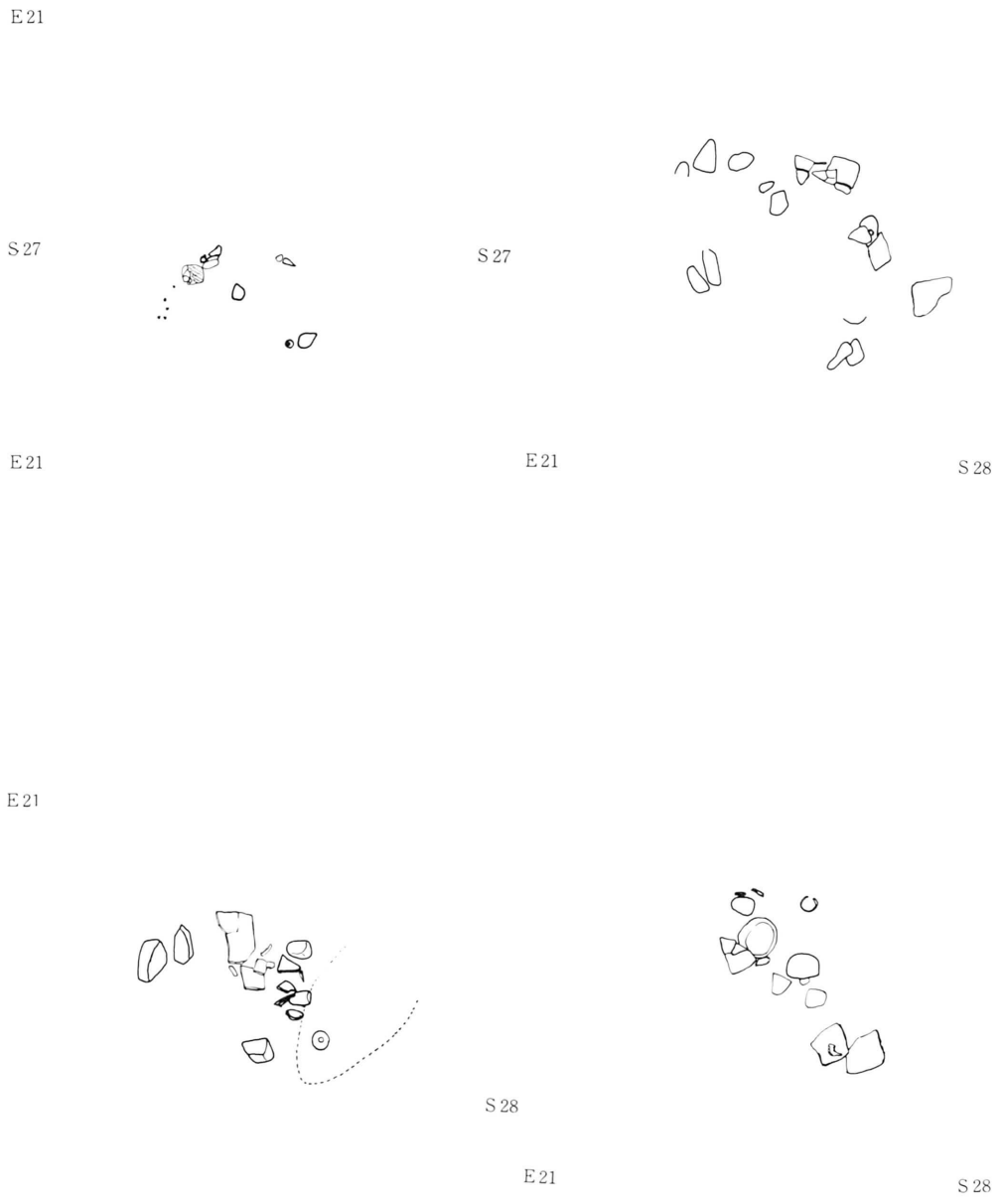


EJ68f.p	径	深
P.1	0.5×0.4	0.61、0.35
2	0.65×0.45	0.09
3	0.17×0.13	0.39
4	0.13×0.13	0.26
5	0.22×0.16	記載無し
6	0.25×0.16	0.1
7	0.2×0.2	0.08
8	0.2×0.15	0.06
9	1.6×？	0.17

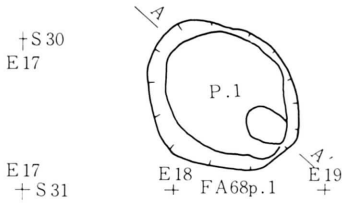
第138図　Eブロックピット実測図(71)(EJ68f.p)



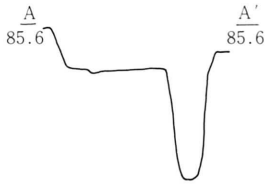
第139図　Eブロックピット実測図(72)(EJ71p.)



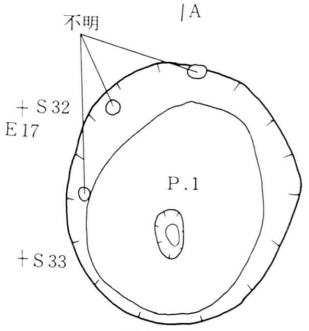
第140図　Eブロックピット実測図(73)(EJ71p.)土器出土状況



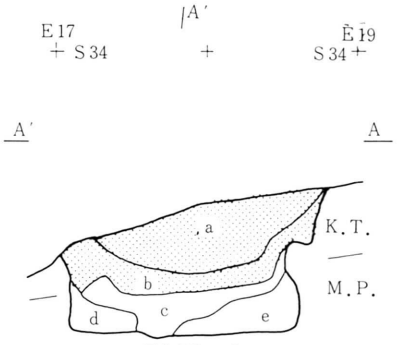
	径	深
P.1	0.3×0.23	0.76



FA68p.1



FA68.f.p.3



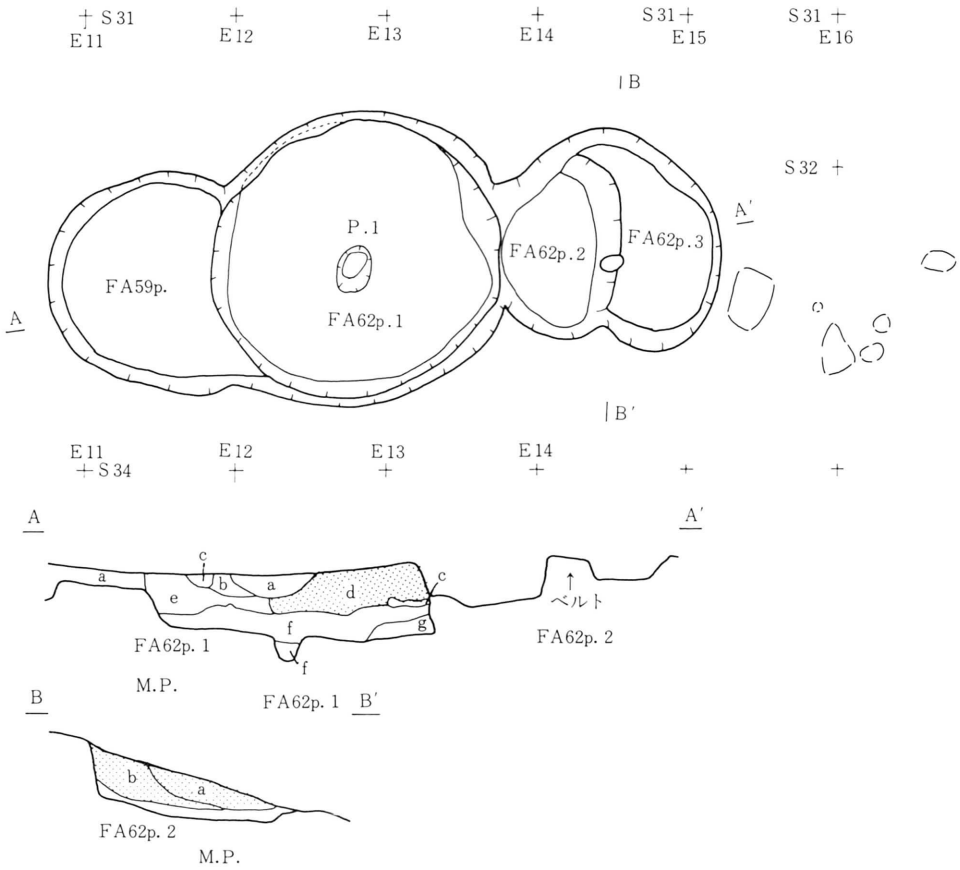
FA68f.p.3

FA68f.p. 3

層	色調	性状	その他
a	7.5YR2/1 黒	腐植土。パミス若干。指痕つかず。粘性に乏しい。	炭化物・焼土若干。
b	7.5YR3/2 黒褐	同上。パミス若干。指痕つく。粘性に乏しい。	炭化物若干。
c	7.5YR3/2 黒褐	同上。パミス極少。指痕つく。棒状化。	
d	7.5YR3/2 黒褐	同上。パミス30%。同上。同上。	
e	10YR5/6 黄褐	パミス。腐植土で汚れる。指痕つかず。粘性なし。	

	径	深
P.1	0.32×0.18	0.23

第141図　Fブロックピット実測図(Ⅰ)(FA68p.1・FA68f.p.3)



FA62p. 1

層	色調	性状	その他
a	10YR3/2 黒褐	腐植土。パミス若干。指痕つく。ボサボサし、粘性に乏し。	焼土・炭化物粒若干。
b	10YR3/2 黒褐	同上。パミス極少。指痕つく。粘性に乏し。	炭化物若干。
c	10YR5/6 黄褐	パミス。腐植土混入し、汚れる。指痕つかず。粘性ない。	

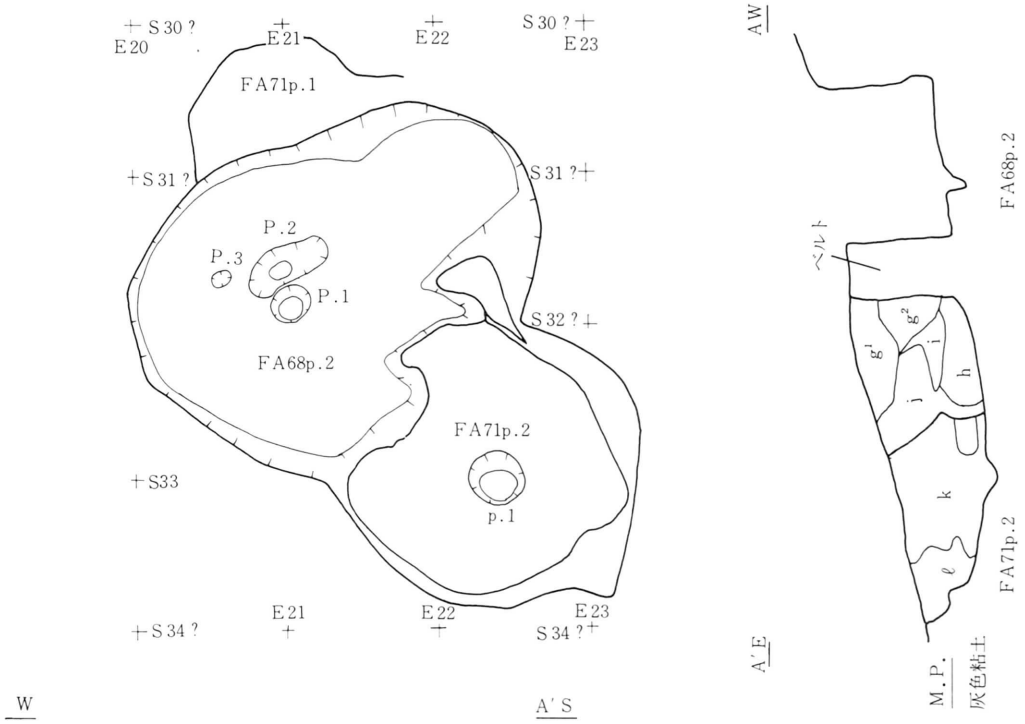
FA62p. 1

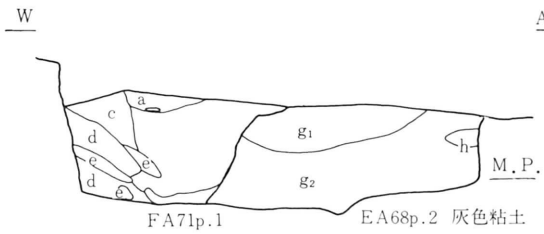
層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/2 黒褐	腐植土。パミス若干。指痕つく。棒状化。	
b.	7.5YR3/3 褐	腐植土と火山灰が均一に混入。パミス極少。指痕つく。棒状化。	
c	10YR5/6 褐	火山灰土。指痕つかず。粘性乏し。	
d	7.5YR3/2 黒褐	腐植土。パミス若干。指痕つく。棒状化。	炭化物極少。
e	10YR3/2 黒褐	同上。同上。同上。同上。	同上。
f	7.5YR4/2 灰褐	同上。パミス1/4。指痕つかず。棒状化。	同上。
g	10YR5/6 黄褐	パミス。腐植土混入し。汚れる。指痕つかず、粘性なし。	

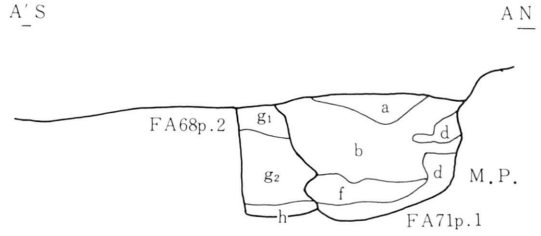
FA62p. 1

	径	深
P.1	0.3×0.22	0.19

第142図　Fブロックピット実測図(2)(FA59f.p.・FA62p.1他)







FA68p. 2　FA71p. 1 . 2

層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/2 黒褐	腐植土。指痕つき。ポサポサ。粘性無し。	極少のパミス。炭化物。
b	7.5YR3/3 暗褐	同上。同上。同上。2～3%のパミスと若干の炭化物混入。	極少の焼土。
c	7.5YR3/4 褐	同上。同上。同上。火山灰土が均一に混合。	パミスと、炭化物若干混入。
d	7.5YR5/6 にぶい褐	パミス。指痕つかず。同上。腐植土・焼土若干混入。	
e	2.5YR3/6 赤褐	焼土。指痕深くつきパサパサ。同上。腐植土若干。	炭化物若干混入。
f	7.5YR3/4 暗褐	腐植土。同上。同上。20%のパミス混入。	同上。
g1	7.5YR3/3 褐	腐植土に40%のパミス混入。指痕つく。同上。	炭化物極少。
g2	同上	腐植土1：パミス1の混土。同上。同上。	同上。
h	7.5YR4/6 褐	パミス。同上。同上。	
i	7.5YR5/2 黒褐	腐植土。指痕つく。棒状化。	パミス10%混入。
j	同上	同上。同上。同上。	パミス極少。
k	7.5YR3/3 同上	同上。指痕深つく。同上。	パミス若干。
l	7.5YR3/6 褐	パミス。指痕つく。粘性なし。しま状に黒褐色腐植土混入。	

FA68f.p.2	径	深
P.1	0.25×0.25	0.07
2	0.6×0.23	0.19
3	0.13×0.1	0.04
FA71p. 2		
P.1	0.35×0.35	0.09

第143図　Fブロックピット実測図(3)(FA68p.2・FA71p.1・2)

EG65 f.p.（第123図・図版51）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕EH65 f.p. に先行か。〔平面形〕内形基調。〔縦断面形〕ビーカーに近いフラスコ型と思われD－2とした。〔規模〕（2.7±×2.55±）・（×）・（2.6±×2.45±）・（1.12±～0.88±）〔堆積土〕自然堆積と思われる。〔床面〕中央にP．1と東南部に礫1があるのみ。〔年代決定の資料〕埋土出土のものを二次的に用いると、大木8 b式期かその前後と思われる。

EH65 f.p.（第123図・図版51）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕EG65 f.p. に後続か。〔平面形〕重複で不明。円形基調か。〔縦断面形〕フラスコ型と思われD－1の仲間とした。〔規模〕（下端1.5±×～）・（深さ0.68±～0.55±）〔堆積土〕ⓘ・ⓙなどの存在は不自然である。〔床面〕中央付近と西北部直下に土器片各1を分布。〔年代決定の資料〕埋土下位のものを用いると大木10式期～後期部頭と思われる。

ED56 f.p.3（第90、91図・図版34）〔検出面〕M.P. 層中か。〔重複〕EC56 f.p.2 に先行か。ED59 f.p.1、ED53 p.3・4とは記録を欠く。EC56 住居跡に先行。〔平面形〕楕円形主体。〔縦断面形〕完掘時はフラスコ型と思われ、D－1の仲間とした。〔規模〕（2.5±×？）・（×）・（2.05±×？）・（1.1±～？）〔堆積土〕実測図末完の為詳細不明。自然堆積か。〔床面〕特記事項なし。〔年代決定の資料〕埋土出土と思われるものを用いると、大木7 a式期かその前後と思われる。

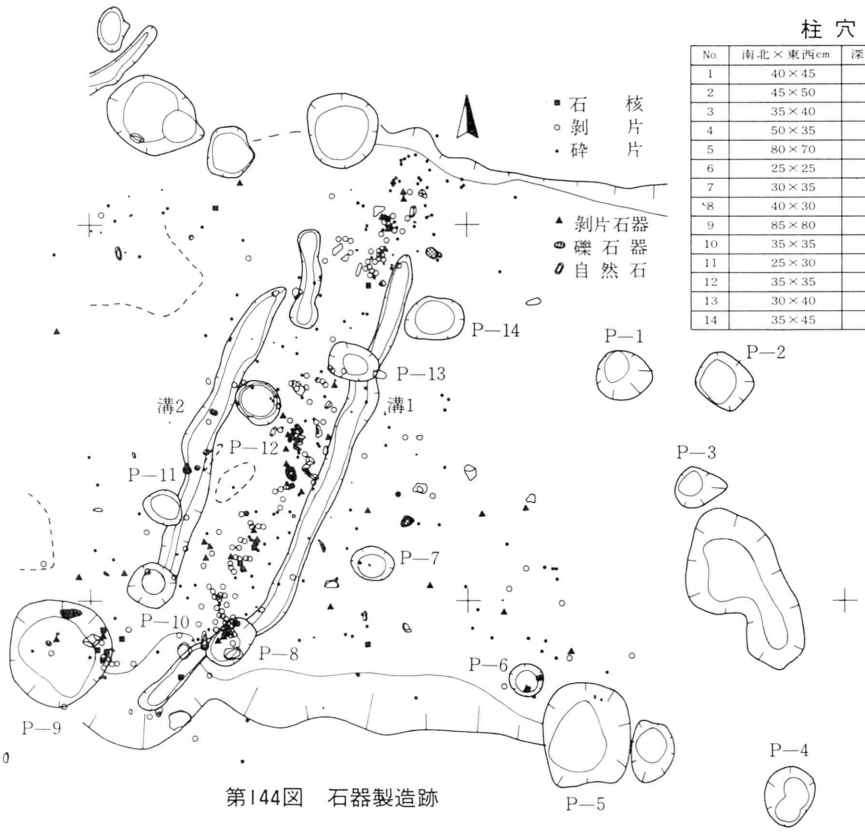
(c)**遺物包含層**　C区の北東面傾面に遺物包含層を検出した。集落跡（拠点的なそれ）に伴うことの多いものと思われ、本遺跡の性格規定上の一要素となる。大別Ⅰ～Ⅲ層が認定されているが、遺物のあり方には時間的まとまりはない。下層からもより新規の遺物が出土している。したがって二次堆積層と見做されるべきものである。ただし遺物の圧倒的多数を占めるのは前期末～中期初頭のものであり、その期についての一応の資料にはなしえよう。本稿はその立場にある。ちなみに遺物包含層検出の遺物には、早期末～前期初頭、前期後葉～前期末、中期全般、古代の各種のものがある。

(d)石器製造跡（第144、145図）

調査地の中央やや南寄り、西端部に位置する。当遺構は石器製造跡として確認されたものではないが、他より石核、剝片等が多数発見されたことから命名された由である。遺構として記録されているものは南北とも約15cm下がった地域の溝及び柱穴である。溝は両者とも幅15～20cm、深さが10cm内外の極めて小規模なもので、N20°Eを示す。柱穴は第一図のような配置をなし、規模等は表のとおりである。

遺物は石器製造跡として登録されて取り上げられた石器391点（このうち約50点は現存しない）、土器206点（一括資料を含む）と、DJ、DI、24、27グリット出土遺物石器50点、土器、石器製造跡内一括資料等石器26点、土器である。

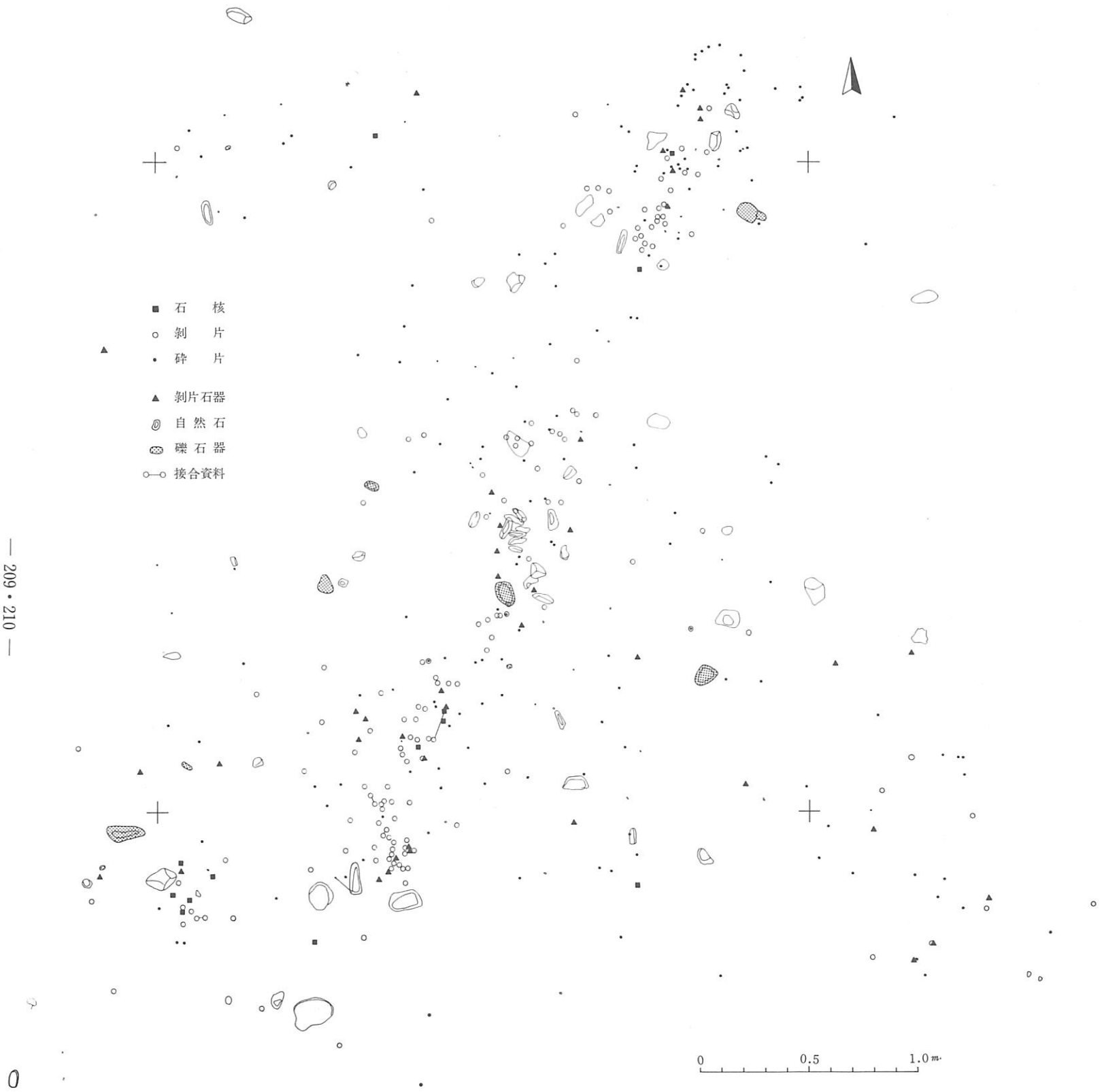
登録された遺物の分布は石器等が溝1、2の間を幅50～60cm、長さ約5mの帯状に密集し（約65%）、これ以外では極めて希薄となる。土器は全体的に散在している。製造跡の遺物を構成する石器等は礫93（27.5%）、石核13（3.9%）、剝片151（44.7%）、砕片25（7.4%）、石器類56（16.6%）で、剝片がほぼ半数を占める。自然石はいずれも丸味を有する川原石で、まとまりとして捉えられないこともないが、特に意味のある配石とは見られなく、石器類と混在状態である。これらの中には台石あるいは叩き石等が含まれていると考えられるが、使用痕の観察されるも



第144図　石器製造跡

柱穴一覧表

No.	南北×東西cm	深さcm	備考
1	40×45	50	剝片1
2	45×50	65	
3	35×40	50	
4	50×35	65	
5	80×70	90	
6	25×25	30	
7	30×35	15	
8	40×30	80	
9	85×80	80	
10	35×35	80	
11	25×30	70	
12	35×35	15	埋設土器？
13	30×40	70	
14	35×45	40	



第145図　石器製造跡遺物分布図

第146図　古代の遺構　占地状況模式図

のが見られず特定できない。

(B) 古 代　とりわけ奈良時代末期から平安時代にかけての遺構は、ⓐ竪穴住居跡　ⓑ諸ピット類の２種のみである。その住居跡の多くの占地状況を見ると（第146図）、極めて慎重に地形にそったものであることがわかる。段丘の平坦部に占地するものがほとんどである。その中で、稀に斜面にのっているものなどには、何らかの別種の機能を想定すべきかと思われる。

(a)　竪穴住居跡

CJ12 住居跡（第147図・図版60）〔検出面〕実測図註に「（前略）縄文時代の包含層につくられた住居址である（後略）。」とある。〔重複〕CJ24 住居跡東端部のピット類に重複する。〔増改築〕明確な記載は無い。〔平面形・方向・規模〕重複その他で正確は期しがたいが、東西2.3m ×南北2.2～2.3m の略方形で、軸方位はN15°Wとも測れる。〔堆積土〕実測図を欠き不明。〔壁〕現壁高0.2～0.1m で、あまり垂直にはならず、凹凸に富む。〔床面〕平坦以外の特記事項は無い。〔柱穴等〕記載なく、存在しなかったと思われる。〔周構〕同前。〔カマド他〕攪乱のため、袖部と燃焼部底の焼土のみが残存するのみ。右（東方）袖部と思われるものはシルト質土で築かれた巾0.2×奥行0.6m のものであり、焼土の厚さは0.04～0.01m である。煙遺・煙出しの記載は無い。〔年代決定の資料〕床面上の土器片である。時期不明である。

DA24 住居跡（第148図・図版60）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕CI21 住居跡・CJ24 住居跡・DB18 f.p.・DB21 f.p. に後続する。〔増改築〕単期と思われる。〔平面形・方向・規模〕掘り過ぎ等があるが、東西3.3×南北2.9m の、東西長の長方形となり、軸線はN13°E とも測れる。〔堆積土〕実測図を欠く。〔壁〕傾斜して立ち上がり、現壁高は0.4m 前後である。〔床面〕大略平坦である。実測図は欠くが〝貼床〟なる表現があり、それは数cmの厚さであったらしい。〔柱穴等〕記載はいずれにも無く、存在しなかったと思われる。〔周溝〕同前。〔カマド他〕北壁のほぼ中央に設けられ、本体間口0.9×奥行0.7m 。燃焼部底は焚口部底より0.1m 前後下位になる。袖部は暗褐色土を主体に、黄色砂質粘土・青灰色粘土等の混土と、0.1m 前後の礫から築かれる。煙道・煙出し部は長さ1.3×巾0.4mである。煙道部は燃焼部側が浅く、煙出し部側が深いが、煙出し部に至る直前で再度浅くなる。〔貯蔵穴〕記載は無い。〔その他の施設〕床面上にＰ．１・２があるが、性格不明。〔年代決定の資料〕床面上出土の土器類であり、奈良末と思われる。

DD18 住居跡（第149・150図・図版60）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕DE18 住居跡に後続。〔増改築〕単期か。〔平面形・方向・規模〕掘りすぎなどで乱れているが、東西2.4×南北2.5m の略方形と思われ、軸方位はN105°E である。〔堆積土〕土層そのものは自然堆積層と見做しておくが、礫群は人為的投棄の所産と考えられる。〔壁〕ほぼ垂直に立ち上がり、現高0.45m 前後。〔床面〕ほぼ平坦で、遺物類・炭化物等が分布した。〔柱穴等〕記載無く、いずれにも存在しな

かったと思われる。〔周溝〕記載は無い。〔カマド他〕東壁中央からやや南寄りに設けられる。乱れてはいるが、本体は間口0.8×奥行0.55mの規模と思われ、袖部は土砂の積み上げにより築かれる。燃焼部底面は皿状に凹む。焚口部底に若干の土器片が存在した。煙道・煙出しは0.5mと比較的短かいが、実測図を欠く。なお煙道部の東方への延長上に礫群A・Bがあるが、註記を欠き性格不明。煙出し部に関連する可能性をもつ。〔その他の施設〕記載は無い。〔年代決定の資料〕床面上検出の土器類である。奈良時代末と思われる。

DG24 住居跡（第150・151図・図版61）〔検出面〕K.T.層中か。〔重複〕DE24溝状遺構に先行し、DH24 f.p.に後続する。〔増改築〕単期か。〔平面形・方向・規模〕本来は東西3.4×南北3.5mの略方形で、軸方位はN73°Eとも測れる。〔堆積土〕実測図を欠く。〔壁〕現高0.6〜0.2mと、部位により異なる。西壁に張り出し様のもの①・②があるが、詳細不明である。〔床面〕ほぼ平坦である。〔柱穴等〕床面中央のP.1（長径0.6×短径0.4×深さ0.2mで、中段をもつ）は、柱穴と所謂ロクロピットの両様の可能性をもつが、ここでは根拠は無いが、前者のものを想定しておく。〔周溝〕記載は無い。〔カマド他〕東壁中央からやや南寄りに設けられる。残存状況不良だが、本体間口0.8×奥行0.4m程度と思われる。本体も壁外に位置するとも見える。燃焼部底はやや掘り凹められ、倒立位の土師器が存在した。袖部の築成の記載は無い。煙道は所謂くり抜き式と思われる。煙出し側が深くなり、煙出しそのものは垂直に立ち上がる。〔その他の施設〕記載無く存在しなかったと思われる。〔年代決定の資料〕土器類であり平安時代か。

DH18 住居跡（第152・153図・図版61）〔検出面〕K.T.層中か。〔重複〕DJ21住居跡に重複し、DH15 f.p.1〜3、DH18 f.p.等に先行する。〔増改築〕南壁を共有する形での拡張があり（古—1住、新—2住）、かつ、2住期にカマドのつくり替えも行なわれたらしい（古—カマド1、新—カマド2）。〔平面形・方向・規模〕1住——辺4.1mの略方形、2住—東西5.8×南北5.0mの長方形。軸方位は両者ともN10°E。〔堆積土〕実測図を欠き詳細不明だが、1住廃棄後の拡張にあたり、若干の貼床的措置を施こし2住床面としたらしい。〔壁〕ほぼ垂直に立ち上がり、現高、1住0.3m、2住0.2m前後となる。〔床面〕貼床以外の特記事項は無い。〔柱穴等〕別表のピット類がある。平面配置からするとP.4・5・7・12が1住に、P.1・3・9・11が2住に対応する可能性がある。〔周溝〕記載は無い。〔カマド他〕1住—その記載は無い。東辺中央やや南寄りの煙土はその痕跡とも考えられる。2住—カマド1…北壁中央やや西寄りに煙道・煙出し部のみが残存する。長さ1.6×巾0.4m。ほぼ平坦に推移し、煙出し部のみがやや深くなる。カマド2…南壁西端に、煙道を南にのばして設けられるが、袖部は残存しない。煙道部底は貼床を掘り込んでおり、そこから煙出し部は登り勾配となり、さらに一旦水平になり、煙出し部は一段深くなる。燃焼部と煙道部境界には礫が配置される。本体奥行0.9m、煙道・煙出し部長さ1.3×巾0.9〜0.3m。なお煙道部とした部分のうち、巾広の部分も燃焼部と見做すことも不可

能ではない。〔貯蔵穴〕P.16・13などにその可能性があるが、断面図を欠く。土器類の出土はその可能性を示すものではある。〔その他の施設〕1住の北東・西北隅、南壁沿いに巾0.6mの〝軟かい部分〟があるとされる。断面図を欠く故に詳細不明だが、住居構築時の〝掘りかた〟の可能性もある。〔年代決定の資料〕床面上出土の土師器類他であり、平安時代と思われる。

DJ21 住居跡（第154図・図版62）〔検出面〕K.T.層中か。〔重複〕DH18住居跡に重複し、EA18 f.p.に後続する。〔増改築〕単期か。〔平面形・方向・規模〕北辺3.0×南辺2.4m、南北長3.0mの台形に近い。軸方位はN14°Wとも測れる。〔堆積土〕薄層が多いのがやや気になるが、自然堆積と見做しておく。埋土上半の礫は、人為的投棄とも考えられる。〔壁〕傾斜して立ち上がり、現高0.4m前後。〔床面〕ほぼ平坦である。〔柱穴等〕記載は無く存在しなかったと思われる。〔周溝〕同期。〔カマド他〕北壁中央からやや東に寄って設けられる。本体間口0.7×奥行0.6m、袖部は火山灰とクロボクの混土と小礫で築かれる。燃焼部底はやや掘り凹められる。煙道・煙出しは明確な区別はもたず、長さ1.05×巾0.44×深さ0.46mの規模で、煙出し部へと深くなる。〔その他の施設〕記載は無い。〔年代決定の資料〕床面上出土の土器類で、奈良末か。

DJ27 住居跡（第155図・図版62）〔構築面〕K.T.層中。〔重複〕EA21 f.p.に後続する。〔増改築〕2壁を共有する拡張が行なわれたと思われる（古―1住．新―2住）。〔平面形・方向・規模〕1住―東西2.9×南北2.8mの略方形。軸方位は磁北に一致する。2住―東西3.6×南北3.4〜3.3mの東西長の長方形で、軸方位は上に同じ。〔堆積土〕最下位のⓑの性格の註記を欠く。貼床的措置の可能性もある。また下半部に所謂〝粉状パミス〟を含むⓒが見られる。〔壁〕傾斜して立ち上がる。現高0.4〜0.3m。〔床面〕ほぼ平坦だが、2住の壁直下から中央寄りが緩く傾斜する。また西北隅が0.1m程度凹むⓑ。〔柱穴等〕記載は無い。〔周溝〕同前。〔カマド他〕痕跡的な2基があるが、先後関係の記載は無い。カマド1…東壁中央からやや北寄りに付され、袖部の痕跡と、燃焼部底の焼土のみが残る。煙道は所謂くり抜き式で、煙出し部へ向かい深度を急に増す。煙出しはほぼ垂直に立ち上がる。本体間口0.8m、N90°Eである。カマド2…南壁中央からやや東寄りに付され、本体部は痕跡のみで、燃焼部底のみが残る。それによると本体間口は0.8m前後となる。煙道部はくり抜き式で、燃焼部底より0.15m高くなり、平坦のまま煙出し部にいたる。両者を合して長さ1.1m、深さ0.3m。〔貯蔵穴〕東南隅のP.1（長径0.55×短径0.5×深さ0.2mの略円形）がそれとされ、周縁に土器が貼りついている。〔その他の施設〕P.2があるが性格不明。〔年代決定の資料〕既述のb等出土の土器で平安時代か。

DJ50 住居跡（第156図・図版62）〔検出面〕K.T.層中か。〔重複〕DJ50 p.2、EA50 f.p.1・2に先行する。〔増改築〕単期と思われる。〔平面形・方向・規模〕東西4.0×南北3.9〜3.5mの略方形で、軸方位はN5°Wとも測れる。〔堆積土〕比較的単純な層相を示す。ⓐ中位から床面にかけての多くの礫群は、人為的廃棄の結果とも思われる。〔壁〕ほぼ垂直に立ち上がり、現高0.3〜0.

15m。〔床面〕ほぼ平坦であるが、北東隅に落ち込み、西壁にＰ．１・３、南壁に焼土２、北壁にＰ．２等が存在した。〔柱穴等〕Ｐ１～３があり、深さはそれぞれ0.12・0.6・0.7mとなり、Ｐ．２・３にその可能性があるといえる。〔周溝〕記載は無い。〔カマド他〕北壁中央やや東寄りに付され、本体間口0.45×奥行0.4mで、袖部は土砂築成によっている。燃焼部底は皿状に凹む。焚口部に礫２がある。煙道・煙出しは長さ0.6×巾0.15×深さ0.2～0.3mの規模である。燃焼部底面から若干深度を増しつつ移行し、煙出し部で明確に深くなる。煙出し部との境界近くにも礫があり、さらに煙出し部上位にも存在する。〔その他の施設〕北東隅が若干深くなり、貯蔵穴様のものとも見えるが、性格不明。〔年代決定の資料〕床面上他出土の上器群であり、奈良末と思われる。

DJ62住居跡（第157図・図版62）〔検出面〕K.T.層中か。〔重複〕DJ59 f.p.、EA62 pに先行する。〔増改築〕単期か。〔平面形・方向・規模〕東西2.95×南北2.9mの略方形で、軸方位はN13°Eとも見える。〔堆積土〕比較的単純である。〔壁〕ほぼ垂直に立ち上がるが、現高0.15m前後とかなり浅い。〔床面〕ピット・掘り込み等が多い。〔柱穴等〕Ｐ．１～20までのものがあるが、深さからみて、可能性のあるのはＰ．８・11・14・19などであろうが、平面配置の規則性は看取できない。〔周溝〕その記載は無い。ただしＰ．９・10にその可能性がなくもない。〔カマド他〕いずれの記載も無い。〔その他の施設〕いずれの特記も無い。〔年代決定の資料〕床面上出土の土器類であるが、奈良末か。

EA12住居跡（第158図・図版63）〔検出面〕K.T.層中か。〔重複〕EB09 f.p.1・2、EB12 p.、EB12 f.p.、EB15 f.p.、EC12 f.p.1・2などに後続する。〔増改築〕単期か。〔平面形・方向・規模〕一辺6.1mの略方形をなし、軸方位はN15°Eとも測れる。〔堆積土〕実測不備のため詳細不明であるが、自然堆積とも見做しうる。〔壁〕ほぼ垂直に立ち上がり、現高0.3～0.4mである。〔床面〕基本的には平坦である。註記中〝貼床〟なる表現があるので、詳細不明ではあるが、そのような措置がとられていたと思われる。〔柱穴等〕床面上にＰ．１～５などがあり、その平面配置をみると、Ｐ．１～４が主柱穴の可能性をもつ。〔周溝〕その記載は無い。〔カマド他〕北壁のほぼ中央に付されるが、実測図を欠き詳細不明。写真等から類推すると、袖部は芯に土師器甕等を埋置する形式である。燃焼部底はピット状に掘り込まれる。煙道・煙出しも詳細不明だが、煙出し部が若干深くなるらしい。〔貯蔵穴〕その可能性をもつものが北東隅に検出された。土器類が集中する。〔その他の施設〕本遺構は焼失家屋であり、大量の炭化材が床面上に検出された。その状況は写真で示す。材の特徴についての記載は無い。樹種はクリを中心とする。（後掲）。〔年代決定の資料〕床面上・カマド袖部検出の土器類であり奈良末か。

EA21 住居跡（第159～162図・図版64）〔検出面〕K.T.層中か。〔重複〕EB15 p.、EB18 f.p.、EB21 f.p.、EC15 f.p.1、EC18 f.p.1、EC21 f.p.等に後続。〔増改築〕その記載は無い。〔平面形・

方向・規模〕東西5.55×南北5.5〜5.0m の略方形となり、軸方位はN15°Eとも測れる。〔堆積土〕一応自然堆積と見做しておく。〔壁〕ほぼ垂直に立ち上がり、現高0.5m と比較的深い。〔床面〕若干凹凸がある。範囲は明示されていないが、貼床的措置もとられていたらしい。〔柱穴等〕その記載は無い。〔周溝〕同前。〔カマド他〕北壁のほぼ中央に付されるが、本体〜袖部の実測図を欠き詳細不明。土器・礫・掘り込み等から類推すると、間口1.0〜0.8×奥行1.0m の本体となろう。袖部芯には土師器甕・礫が用いられる。燃焼部底は0.3m 程度掘り凹められ、さらに中央部に小穴もあることから、支脚も設置された可能性がある。燃焼部と煙道部境界に小穴がある。煙道・煙出しは所謂くり抜き式で長さ1.0×深さ0.6m 、煙出し部に向けて深くなる。なおカマド袖部と煙出し部の上位に礫群が見られるが、その性格についての註記は無い。しかし正確な重複状況からして、カマドに備わった措置とみておく。〔その他の施設〕記載は無い。〔年代決定の資料〕カマド袖部・床面上出土の土器群であり奈良末か。

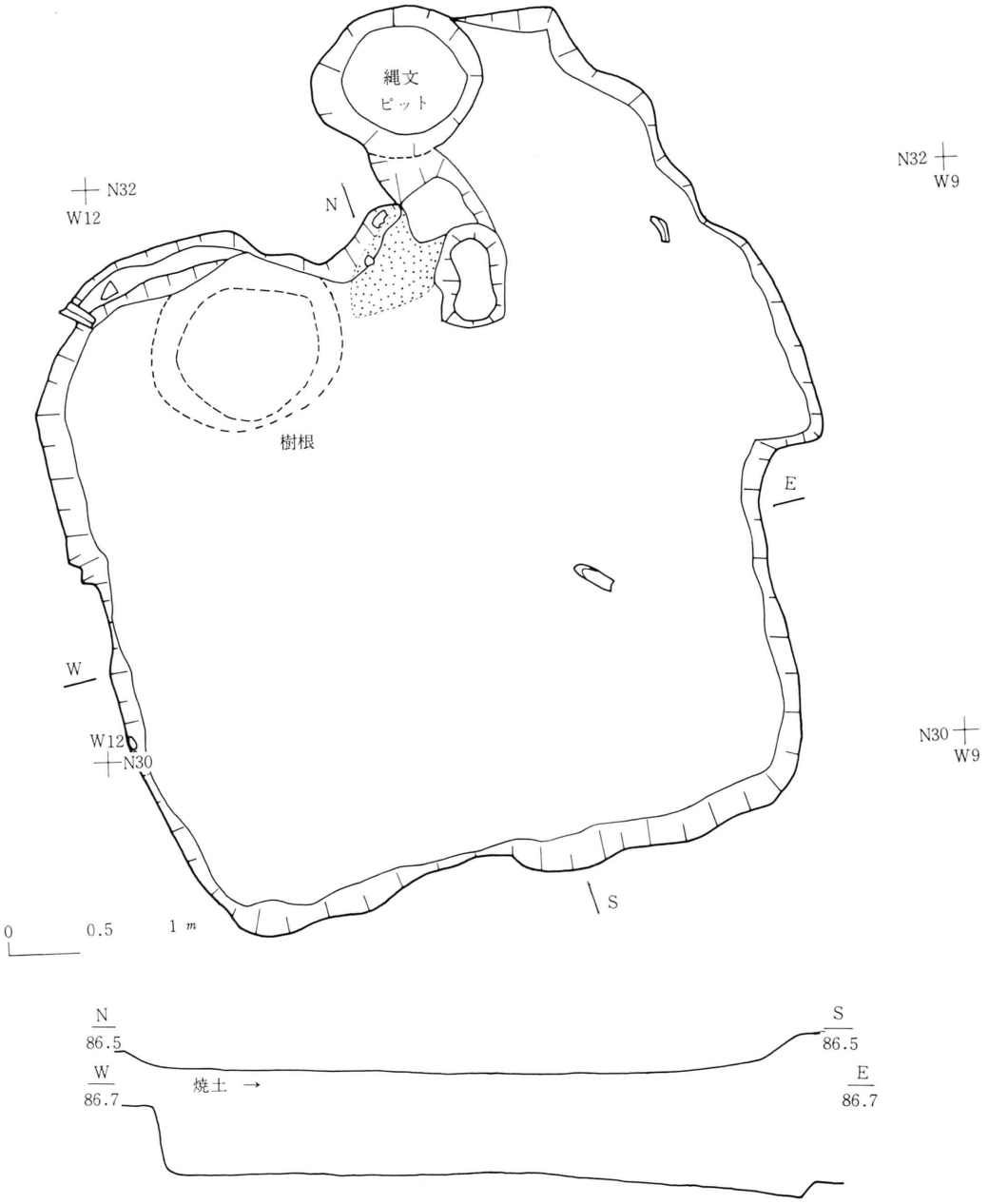
EC56 住居跡（第163、164図・図版65）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕EC56 f.p.1 他のピット群に先行する。〔増改築〕単期か。〔平面形・方向・規模〕一辺4.05m の略方形となう。軸方位はN95°Eとも測れる。〔堆積土〕中位に所謂粉状パミスのブロックが少量分布するのが注意される。一応自然堆積と見做しておく。〔壁〕ほぼ垂直に立ち上がり、現高0.1m 程度である。〔床面〕ほぼ平坦であるが、西壁中央からやや南寄りに粘土ブロックが貼りつく形で分布する。北半に若干量の礫も分布。〔柱穴等〕深さからするとＰ．1（0.35m）、Ｐ．2（0.6m）の二個にその可能性があるが、配置の規則性は無い。Ｐ．2 は貯蔵穴的な位置にあるともいえる。〔周溝〕その記載は無い。〔カマド他〕東壁中央からやや南寄りに付され、本体間口1.1×奥行0.6m 。袖部のつくりは不明。燃焼部底は皿状に凹む。焚口部前方が段をなくて高くなる。煙道・煙出しは本体の軸方位からははずれ東南方に屈曲する。東壁との角度は約130°（60°）をなし、長さは0.3m と短かい。〔貯蔵穴〕既述のＰ．2 にその可能性もあるが、不明としておく。〔その他の施設〕記載は無い。〔年代決定の資料〕床面上出土の土器類であり平安時代か。

ED27住居跡（第165図・図版65）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕EF27 f.p. 他のピット群に後続する。〔重複〕単期か。〔増改築〕その記載は無い。〔平面形・方向・規模〕東端部のみであり詳細不明だが、南北長5.8m で、壁方位はN5°Eである。〔堆積土〕実測図を欠き不明。〔壁〕傾斜しつつ立ち上がるらしいが、凹凸に富む。〔床面〕異常なほど凹凸に富み、かつピット類・焼土・遺物類も存在する。〔柱穴等〕Ｐ．1〜8までのものがあるが、深さのみをとるとＰ．2・7等にその可能性がある。いずれも東壁に寄った位置にあることになる。〔周溝〕その記載は無い。〔カマド他〕床面上の焼土 3 の分布を見る程度で、調査範囲内ではその存否は不明。〔その他の施設〕記載は無い。〔年代決定の資料〕焼土Ｐ．1 の土器類であり平安時代か。

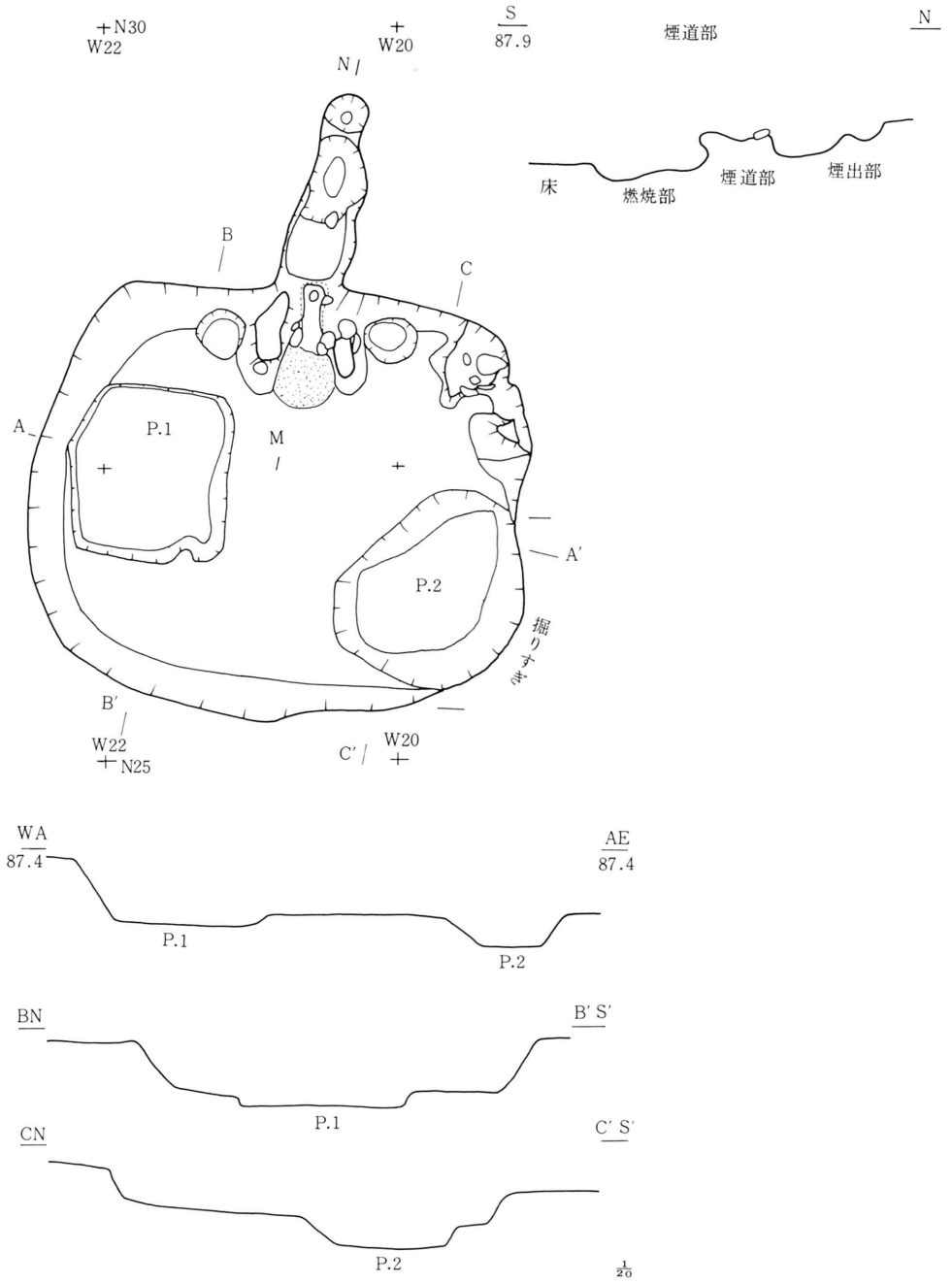
EE50 住居跡（第166図・図版66）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕ED53 f.p.1 他のピット群と

近世墳墓周溝に先行する。〔増改築〕単期か。〔平面形・方向・規模〕長辺2.9×短辺2.3m の略長方形で、軸方位はN50°Eとも測れる。〔堆積土〕自然堆積と見做しておく。〔壁〕傾斜しつつ立ち上がり現高0.7〜0.4m で、北側が深い。現状は凹凸に富む。〔床面〕ほぼ平坦で、中央部に焼土・炭化木材・礫・土器片等が検出されている。〔柱穴等〕その記載は無い。〔周溝〕同前。〔カマド他〕北東面壁中央に付され、本体間口1.0×奥行0.6×高さ0.2m 。焚口部と燃焼部底が若干凹む。煙道との境界に段がつく。袖部は土砂積みにより築かれ。左側袖に土師器甕が埋置される。煙道は詳細不明だが、煙出し部に向けてやや深くなる可能性がある。〔その他の施設〕特に記載は無い。既述の焼土・炭化材等の量は、焼失家屋を想定させるほどの大量のものではない。〔年代決定の資料〕袖部他検出の土器類であり、奈良末か。

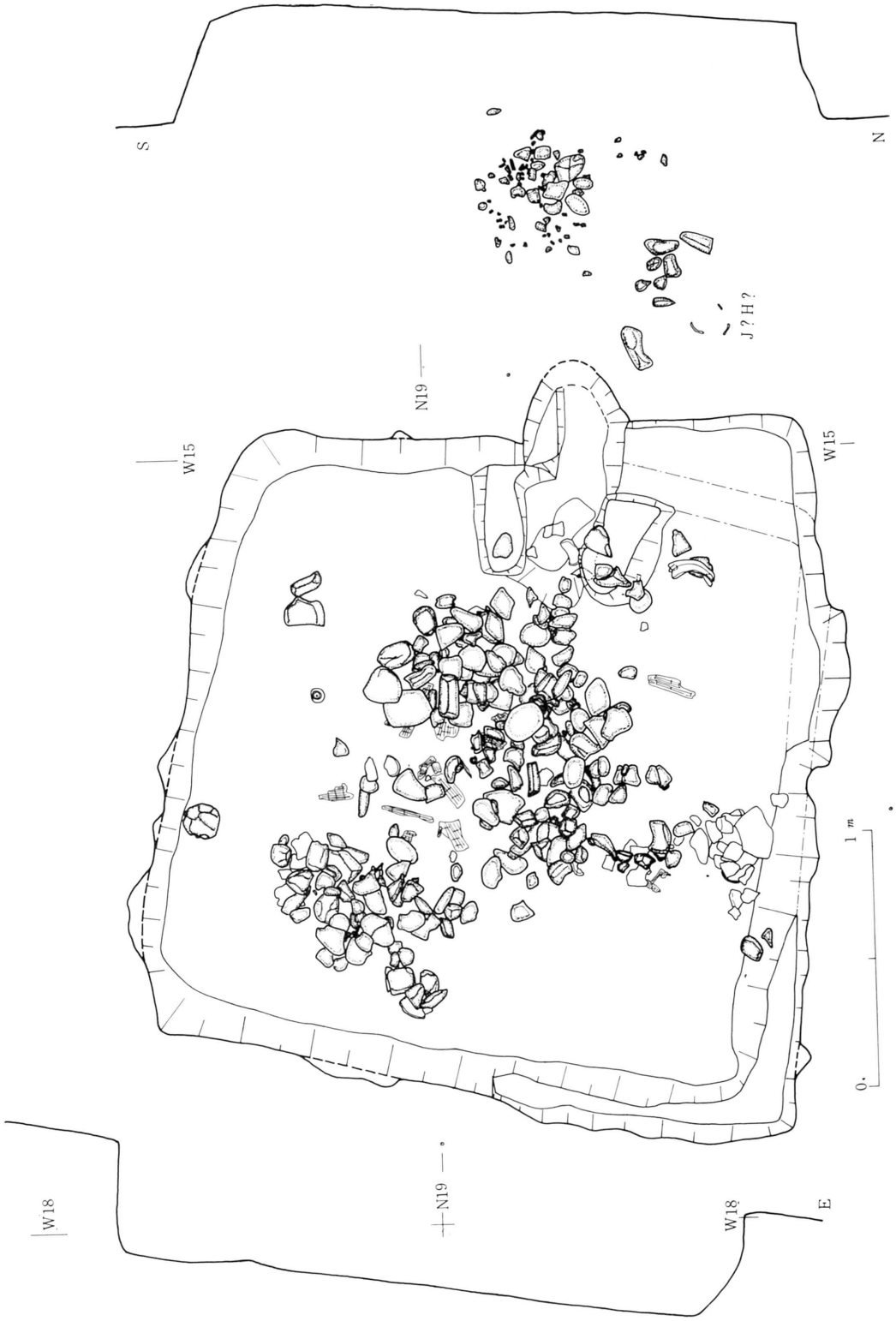
EI62 住居跡（第167図・図版66）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕EJ59 p. 他のピット群に先行する。〔増改築〕単期か。〔平面形・方向・規模〕長辺3.1×短辺2.8の略長方形をなし、軸方位はN20°Eである。〔堆積土〕遺構全体のそれの実測図を欠き不明。〔壁〕ほぼ垂直に立ち上がり、現高0.4〜0.1m で、北部が深い。〔床面〕基盤に沿って南へ傾斜する。炭化木材・土器片の若干が分布する。〔柱穴等〕その記載は無い。〔周溝〕同前。〔カマド他〕北東面壁中央に付され、間口0.8×奥行0.7m の規模である。袖部の築成状況は不明だが、地山削り出しではなさそうである。煙道は巾0.4×長さ0.6×深さ0.3m 前後となり、壁（燃焼部）際が浅い。煙出しは径0.3×深さ0.7m としっかりしたものである。なおカマド本体と煙出し部付近に礫の集積があり、何らかの関係をカマド他ともつものであろうが註記は無い。〔その他の施設〕記載は無い。〔年代決定の資料〕床面出土の土器類であり、奈良末か。



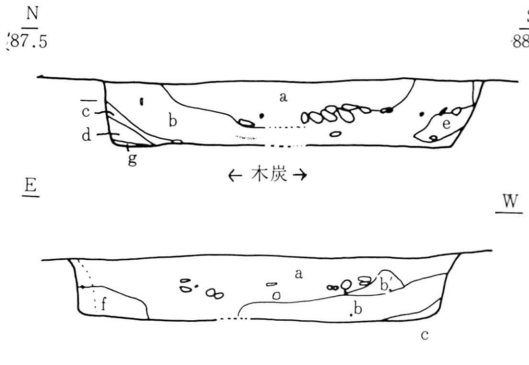
第147図　CJ12住居跡実測図

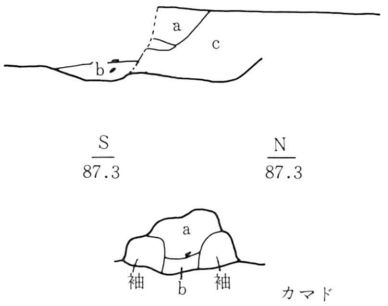


第148図　DA24住居跡実測図



第149図　DD18住居跡実測図(Ⅰ)





DD18住、堆積土

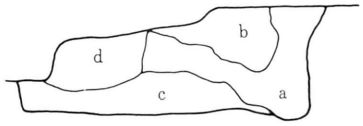
層	色調	性状	その他
a	7.5YR2/2 黒褐	腐植土と火山灰の混土。指痕つかない。粘性なし。炭化物・礫・土師、縄文片含有。	下位に炭化物。
b	7.5YR2/3極暗褐	火山灰。指痕つかず。粘性なし。明褐色火山灰混入。	礫・炭化物が中央に集中。
b'	同上	炭化物・明褐色火山灰を欠く。その他bに同じ。	ブロックか
c	7.5YR2/1 黒色	腐植土。指痕ややつく。粘性ややあり。	火山灰若干混入。
d	7.5YR3/4 暗褐	火山灰。粘性なし。	1～2cmの礫。
e	7.5YR3/3 同上	指痕つかず。同上。火山灰・土器片。	灰若干。
f	7.5YR3/4 同上	火山灰。同上。粘土・焼土若干。	1cmの礫。
g	7.5YR5/6 明褐	同上。	住居床面堀りすぎ部分か。

カマド　袖

層	色調	性状	その他
a	7.5YR5/2 黒褐	腐植土・火山灰。指痕つかず。かたくしまる。粘性なし。	火山灰・炭化物・焼土・土器混入。
b		注記なし。	
	袖	粘土・焼土の混合土。粘性なく、かたくしまる。	

カマドセクション

層	色調	性状	その他
a	7.5YR5/2 黒褐	腐植土火山灰。指痕つかない。かたくしまる。粘性なし。	火山灰混入。
a'	7.5YR2/3極暗褐	火山灰。指痕ややつく。ややかたくしまる。粘性なし。火山灰・a層土・炭化物。焼土若干混入。	cのブロックか？。
b	2.5YR3/3暗赤褐	焼土。指痕つかず。かたくしまる。粘性ややあり。若干ダンゴ状化。か	焼土・火山灰・炭化物・土器若干。
c	7.5YR3/3 暗褐	火山灰。指痕つく。若干軟い。粘性ありて、紐状化。	焼土・土器・火山灰若干。



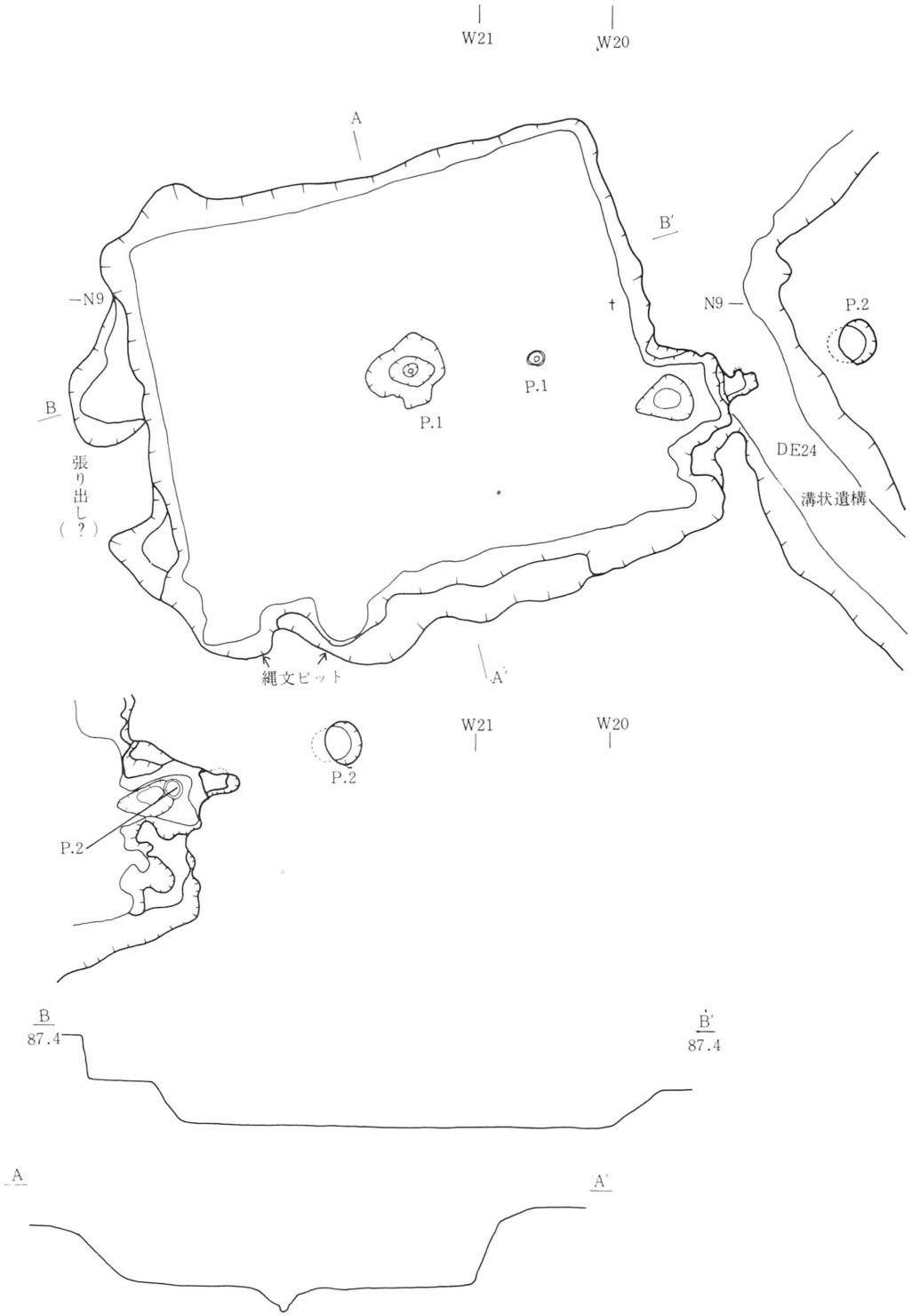
DG24住、カマド煙道

層	色調	性状	その他
a	10YR3/4 褐	腐植土。指痕つく。ダンゴ状化。	焼土若干。
b	7.5YR6/6 橙	火山灰土。指痕ややつく。同上。	
c	10YR5/6 黄褐	同上。指痕つく。同上。	パミス若干。
d	7.5YR6/8 橙	同上。指痕ややつく。同上。	焼土・炭化物若干。

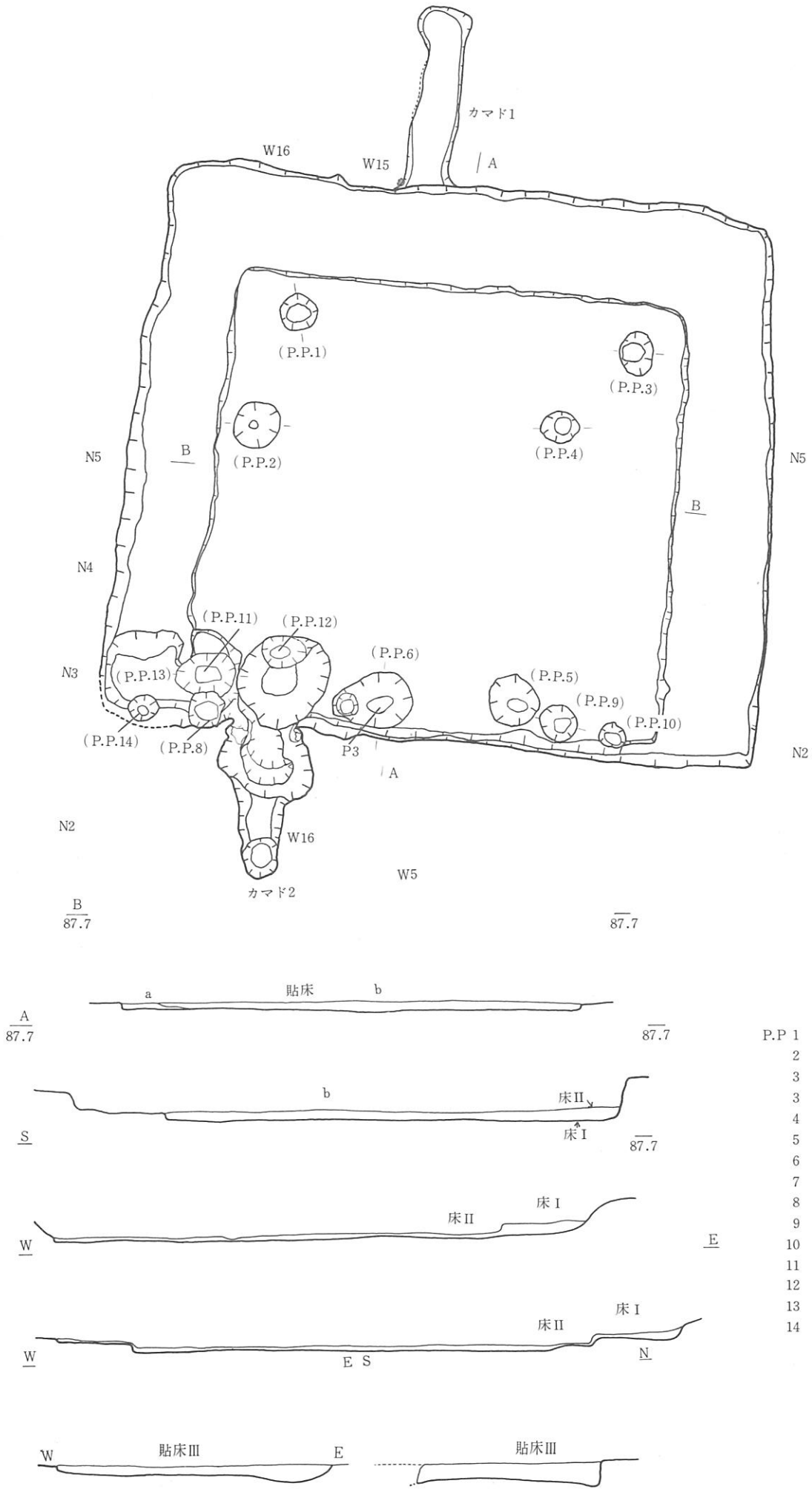
p.2

層	色調	性状	その他
a	暗褐	やや粘性あり。パミス若干。	焼土・炭化物若干。
b	黒	クロボク。火山灰ブロック・パミス微粒若干。粘性あり。	

第150図　DD18住居跡実測図(2)・DG24住居跡実測図(1)

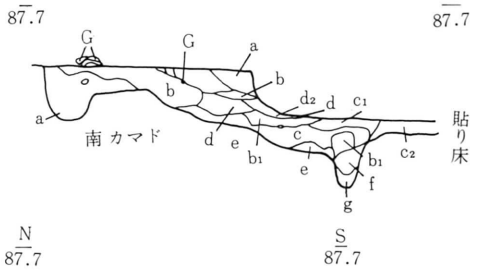


第151図　DG24住居跡実測図（２）



P.P 1	(0.46)
2	(0.2)
3	(0.44)
3	(0.44)
4	(0.5)
5	(0.23)
6	(0.3)
7	欠　番
8	(0.4)
9	(0.5)
10	(0.4)
11	(0.2)
12	(0.3)
13	記載なし
14	〃

第152図　DH18住居跡実測図（1）



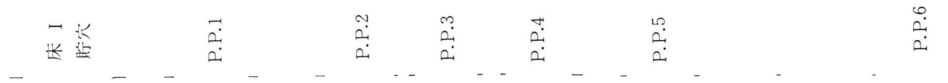
DH18住、貼床セクション

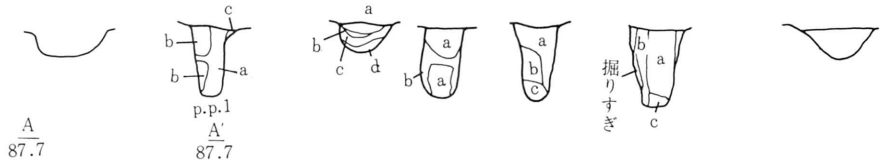
層	色調	性状	その他
a	10YR2/2 黒褐	クロボク。粘性わづか。指痕わづかに残る。	炭化物・パミス混入。
b	10YR2/3 同上	クロボクと、火山灰土の人為的混土層。粘性なし。指痕残らず。	土器・焼土・炭化物。小礫混入。

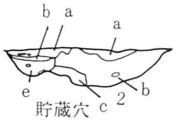
bは、張り床の構成し、クロボク・火山灰土・礫の混土からなる。
非常にかたいが、肌分れも容易にする。
aは、西側に帯状に南北にのび、bとはっきり区別しえたので特に記した。

DH18住、床pp 1 (p:t 1)

層	色調	性状	その他
a	10YR2/2 黒褐	腐植土。指入りこむ。粘性わづか、	
b	10YR2/3 同上	腐植土と火山灰の混土。指痕わづかに残り。粘性あり。	
c	7.5YR5/8 明褐	火山灰。指痕わづかに残る。コヨリ状化。	





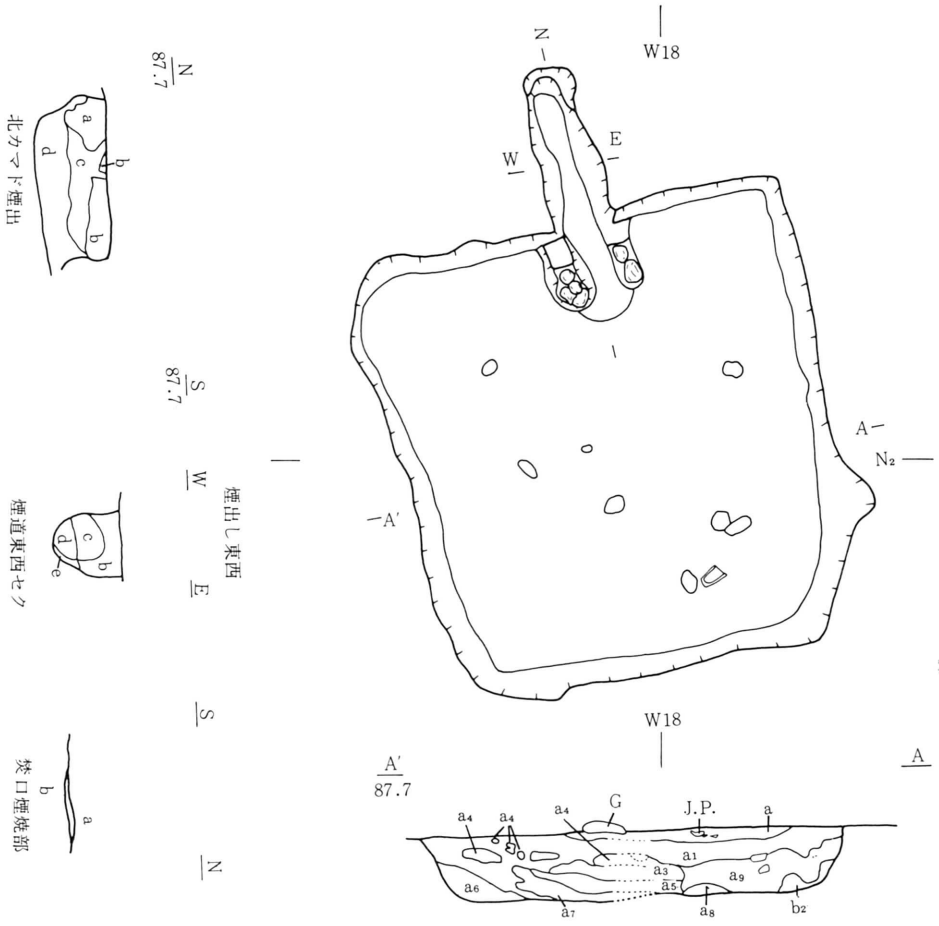


DH18住、南カマド堆積上

層	色調	性状	その他
a	7.5YR2/2 黒褐	クロボク。指痕わづか。ダンゴ状化。	焼土・炭化物・土器片若干。
a_1	10YR2/1 黒	同上。 指痕残る。 同上。	焼土・炭化物・パミス・小礫若干。
b	5YR2/3 極暗褐	焼土。指痕わづか。 同上。	炭化物・礫・クロボク若干。
b_1	5YR2/1 同上	同上。 指痕残る。 コヨリ状化。	礫・炭化物・パミス若干。
c	5YR2/2 黒褐	焼土・クロボク混土。指痕わづか。ダンゴ状化。	炭化物・焼土・パミス若干。
d	10YR3/3 暗褐	クロボク。 同上。 同上。	焼土・炭化物・青白色粘土若干。

層	色調	性状状	その他
d_1	5YR3/3 暗赤褐	焼土・クロボク混土。指痕残る。コヨリ状化。	焼土・炭化物・礫若干。
d_2	10YR3/4 暗褐	シルト・クロボク混土。同上。ダンゴ状化。	焼土・炭化物・青白色粘土若干。
e	2.5YR3/6 赤褐	焼土。指痕残らず。粘性なし。	炭化物若干。
f	5YR3/4 にぶい褐	火山灰6：クロボク4。指入りこむ。同上。	炭化物・焼土若干。
g	7.5YR3/6 褐	火山灰。指痕残る。コヨリ状化。	炭化物若干。
h	同 上	同上。指痕わづか。粘性なし。	なし。
c_1	7.5YR2/2 黒褐	クロボク。指痕残らず，同上。	炭化物・焼土多量。礫若干。
c_2	7.5YR3/2 同上	同上。 同上。 同上。	炭化物・焼土若干。

第153図　DH18住居跡実測図(2)



DJ21住、堆積土、

層	色調	性状	その他
a	10YR2/3 黒褐	指痕つく。粘性なし。	パミス・焼土・小礫。
a_1	7.5YR3/2 同上	クロボクと火山灰の混土。指痕つく。紐状化。	同上⊕炭化物。
a_2	10YR3/2 同上	同上。 指痕つく。 粘性あり。	
a_3	10YR3/2 同上	同上。 同上。 粘性あり。	小礫混入。
a_4	同 上	クロボク。同上。 粘性ややあり。	焼土混入。
a_5	7.5YR3/2 同上	同上。同上。紐状化。火山灰若干。	焼土・炭化物若干。
b	10YR3/4 暗褐	火山灰。同上。粘性あり。クロボク若干。	同 上。
b_1	10YR3/3 同上	火山灰1：クロボク1、指が入る。紐状化。	小礫若干。
a_6	10YR3/3 黒褐	クロボノ。指痕つく。紐状化。火山灰・小礫若干。	焼土若干。
a_7	7.5YR3/2 同上	クロボクに若干の火山灰が混入。指痕つく。粘性あり。パミス若干。	小礫若干。
a_8	同 上	同上。 同上。 同上。	炭化物若干。
a_9	10YR3/3 同上	クロボク土。指痕やや残る。粘性。あまりなし。パミス・火山灰・小礫若干。	焼土若干。
b_2	7.5YR3/4 暗褐	クロボク1：火山灰1。指痕ややのこる。粘性ややあり。火山灰と小礫混入。	焼土若干。

DJ21住、煙道堆積土 （南北方向）・（東西方向）

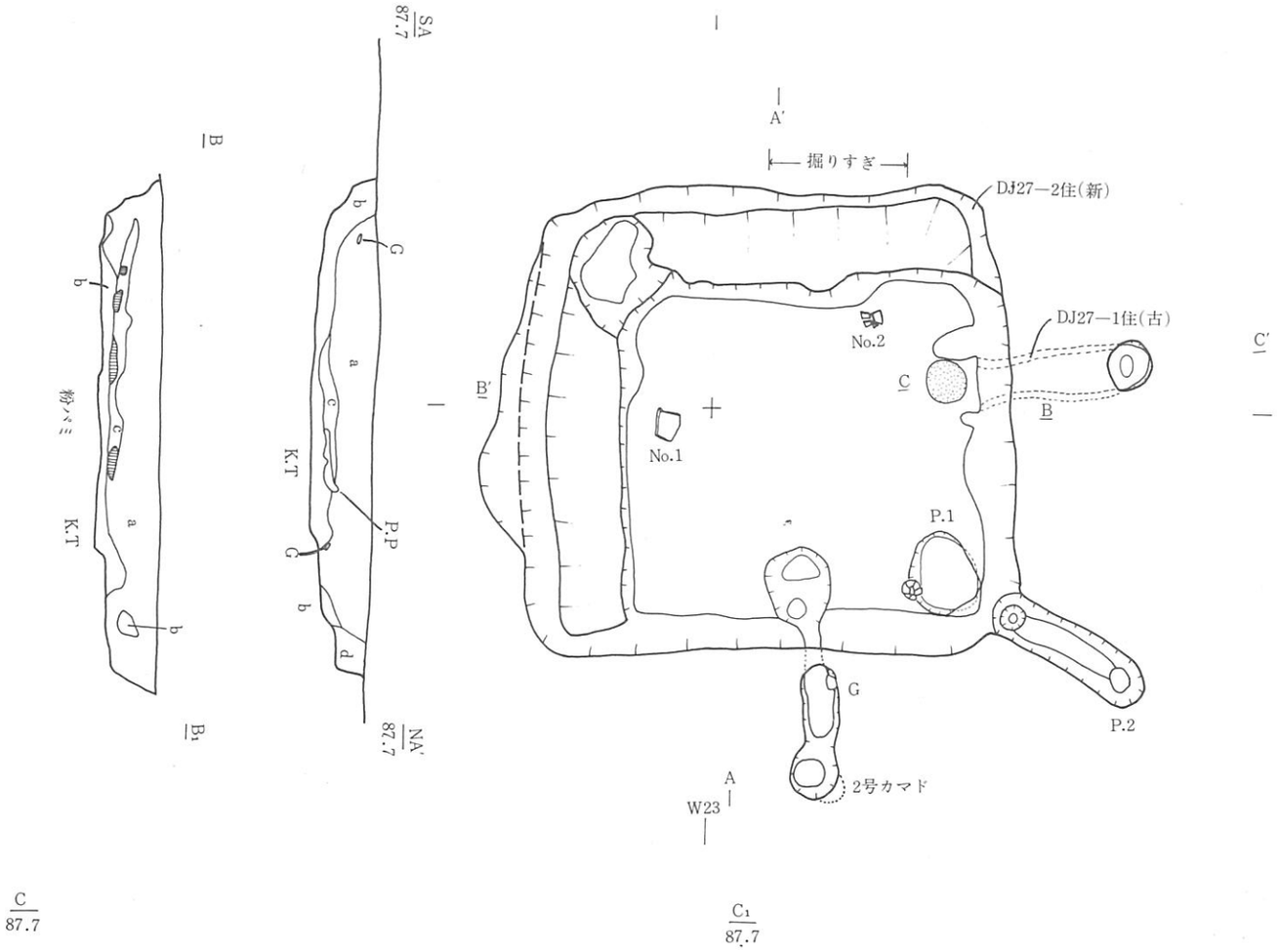
層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/4 褐	火山灰6：クロボク4。指痕つく。ダンゴ状化しない。	焼土・炭化物・小礫混入。
b	10YR3/4 暗褐	クロボク8：火山灰2。指痕つかない。ダンゴ状化せず。焼土・炭化物・小礫・パミス若干混入。	たたいて張ってある部分。
c	10YR3/3 黒褐	クロボク。指が入りこむ。粗な堆積。ダンゴ状化しない。	焼土・炭化物・小礫・土器片混入。
d	7.5YR3/3 暗褐	同上。同上。ダンゴ状化。密は堆積。	焼土・炭化物・土器片混入。
e	7.5YR3/6	火山灰。指痕つく。ダンゴ状化。	

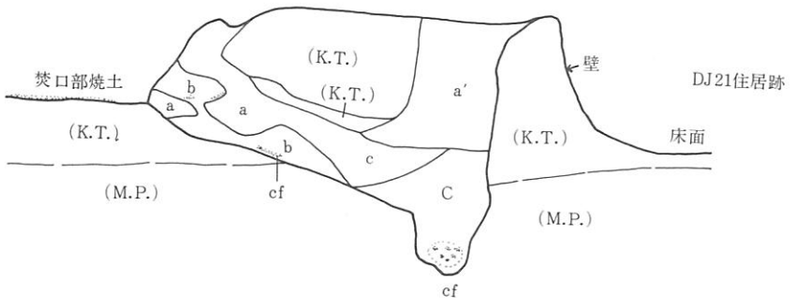
註 カマド袖部は1/3程度が破壊されていた。火山灰・クロボク混合土に小礫を加えて築いてある。

DJ21住、カマド燃焼部底（東西方向）

層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/3 暗褐	火山灰土。指痕わづかに残る。ダンゴ状化。	炭化物・焼土若干混入。
d	5YR3/3 暗褐	焼土。 同上。 同上。	炭化物多量。

第154図 DJ 21 住居跡実測図





88.0　　88.0

土層の注記なし

南東スミ貯蔵穴

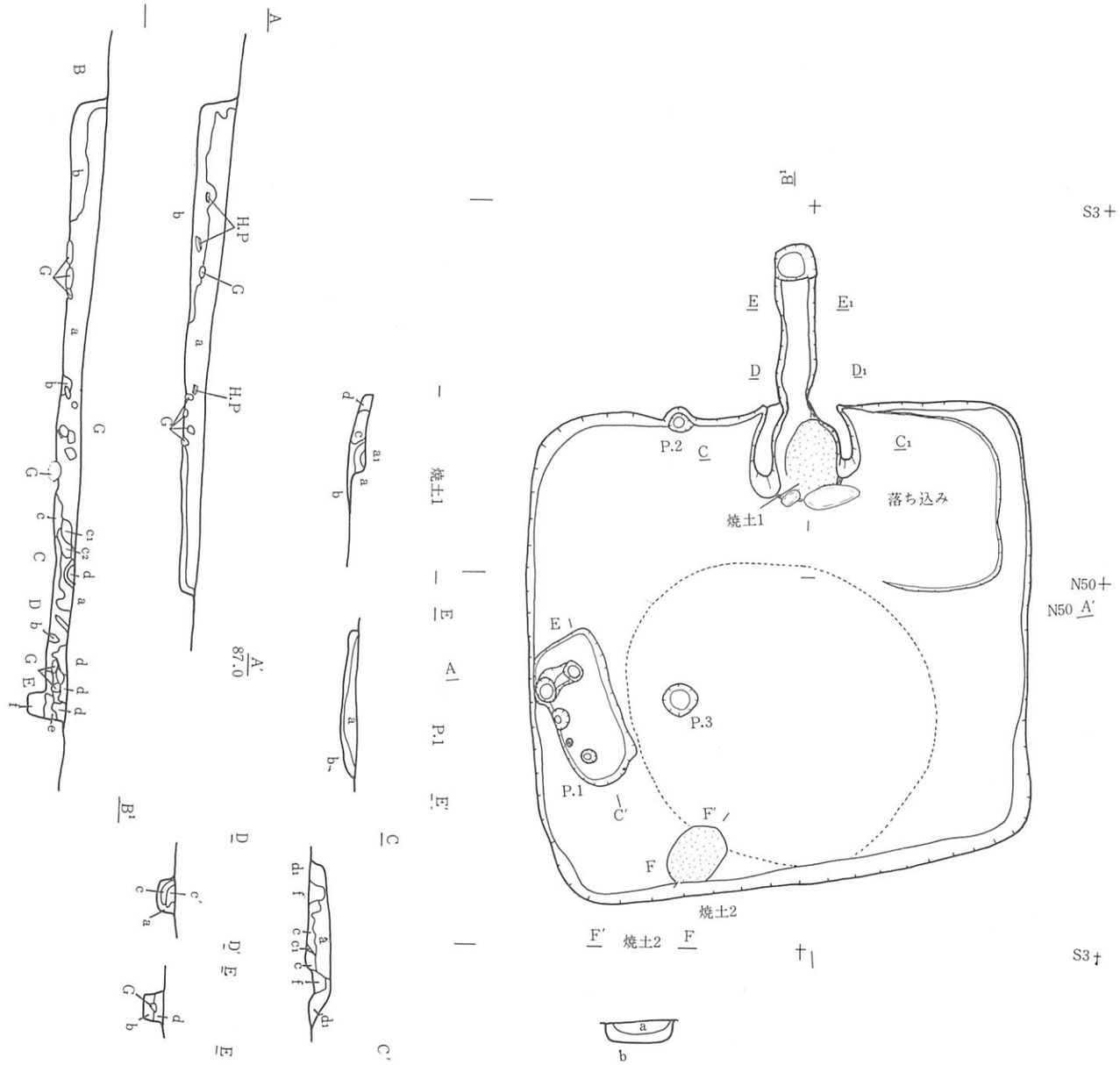
DJ27住、堆積土

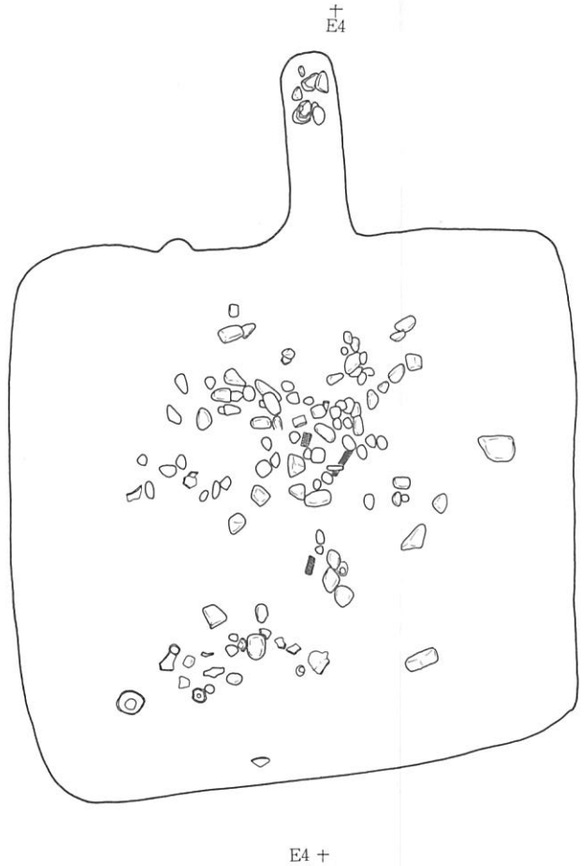
層	色調	性状	その他
a	7.5YR2/2 黒褐	腐植土質。若干ダンゴ状化。若干指痕つく。	小礫・パミス若干。焼土若干。炭化物多量。
b	7.5YR3/2 黒褐	火山灰質。同上。同上。	
c	7.5YR2/2 黒褐	粉状パミス含有。同上。指が入りこむ。	
d	7.5YR3/4 褐 粉状パミス	地山。同上。指痕つかず。	
	2.5YR7/3 浅黄	粘性なし。指痕つく。	

DJ27住、堆積土

層	色調	性状	その他
	(M.T)	煙道崩壊による。黒沢尻火山灰の崩壊層	
a	7.5YR3/4	火山灰混じりクロボク。ボソボソで指がめりこむ。	火山灰の細いブロック炭化物を多く含む。
a'	5YR1.7/1	クロボク。ボソボソ。aに比し、やや粘性ある。指がめり込む。	火山灰・炭化物をわづかに含む。
b	7.5YR3/6	ほぼ純粋の火山灰層。若干のクロボク混入。二次的に動いているのでボソボソ。	
c	10YR3/4	クロボク混じり火山灰層(1:1)。ボソボソ。煙出し下底部付近は、炭化物が多くなり、粘性に富む。	

第155図　DJ27住居跡実測図





礫分布状況

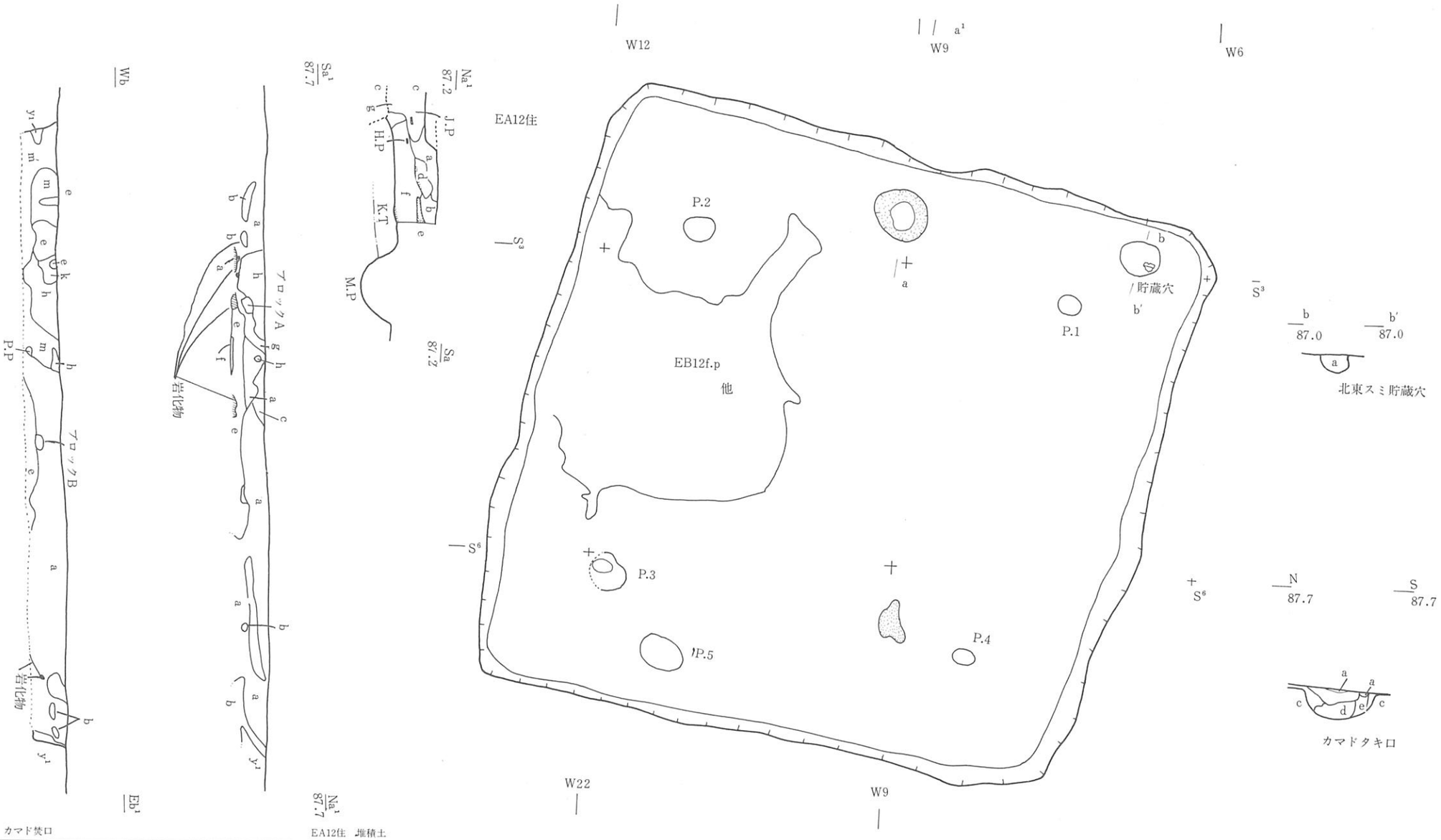
DJ50住、堆積土（含．カマド他）

層	色　調	性　状	
a	7.5YR3/2 暗褐	腐植土95%。粘性なし。	シル土ブ
b	10YR3/3 同上	腐植土6：シルト3。同上。	焼土
c	5YR5/6明赤褐	焼土層。	
d	7.5YR5/6	シルト層。95%。粘性なし。	
d_1	7.5YR3/2 褐	腐植土1：シルト質土1。同上。	
e		d_1にほぼ同じ。	
f	7.5YR3/2極暗褐	腐植土8：焼土ブロック1。粘性なし。	
g	10YR5/6 黄褐	基盤の火山灰が攪乱されたものか。	
c_1	7.5YR5/6 明褐	シルト質土の焼土。シルト80%。	
c_2	5YR3/3暗赤褐	腐植土7：焼土ブロック2。	

DJ50住、焼土1、2pit 1　堆積土

層	色　調	性　状	
a		火山灰の焼土。	
a'		きわめてかたい。焼土。	
b	記載なし。	焼土。	
c		腐植土7：シルト3の混土。	
d		基盤の火山灰土。	
ピット1			
a	7.5YR3/2 褐	腐植8：火山灰（シルト）2の混土。	粘性
b	7.5YR5/6 明褐	基盤(?)の火山灰土。粘性あり。	
焼土2			
a	5YR3/3極暗褐	腐植土7：焼土ブロック2.5.粘性なし。	炭化
b	7.5YR5/6 明褐	火山灰層。　粘性あり。	

第156図　DJ50住居跡実測図



EA12住　カマド焚口

層	色調	性状	その他
a	5YR3/3暗赤褐	ダンゴ状化。指痕つく。	焼土混入。
b	2.5YR4/6 赤褐	粘性なし。指痕つかない。	黒色土混入。
c	10YR5/6 黄褐	紐状化。指痕つく。小礫若干。	dが若干量混入。
d	7.5YR5/6	焼土・小石。火山灰の混土。粘性なしボロボロ。小礫多い。パミス少量。	
e	同上	dに似るが主体は火山灰土。	

EA12 住 柱穴埋土

層	色調	性状	その他
1	7.5YR5/4	紐状化。指が入りこむ。パミス若干。火山灰が黒色土で汚れている。	炭化物少量含有。
2		註記なし。	
3	No.1にほぼ同一	炭化物より多い。礫若干。上層部北西寄りに、床面から20cm掘りこまれた炭化材を多量に含む小ピットを伴う。	形はNo.2に似る。埋土は黒褐色。
4	No.1に同じ		
5	① 7.5YR5/6	明褐。床面から7.8cmの貼床の痕跡がある。	土師器が破片。
	②	紐状化。ほとんど乱れていない火山灰層	
	③ 7.5YR5/4	紐状化。パミス含有。指痕つく。	炭化物少量。

EA12住　堆積土

層	色調	性状	その他
a	10YR3/2 黒褐	シルト質土。粘性ほとんどなし。指痕つく。炭化物・小礫混入。	土師器片・焼土混入。
b	10YR3/2 同上。	同上。ダンゴ状化。指痕若干つく。aに黒色土が多量に混入。	焼土混入。
c		全体にAに同じ。	Aより黒っぽい。
d		同上。	焼土・シルト・炭化物が多量に混入。
e	7.5YR3/2 黒褐	シルト質土。紐状化。指痕つく。炭化物多量。	焼土混入。
f	7.5YR5/6	焼土。ダンゴ状化。指痕つく。	焼土混入。
g	10YR3/2 黒褐	腐植土。同上。同上。	
h	同上	同上。同上。指が入りこむ。	土師器・小礫混入。
j	7.5YR4/4 黒褐	粘土質土。紐状化。指痕つく。	黒色土で汚れている。
k	10YR3/2 同上	シルト質土。ダンゴ状化。指痕つかない。	焼土若干混入。
l	同上	同上。紐状化。指痕つく。	
m	10YR3/3 同上	同上。ダンゴ状化。同上。	焼土若干混入。
m	同上	同上。	シルトがmより多い。
A	10YR3/2 同上	腐植土。紐状化。指が入りこむ。	
B	7.5YR5/6	同上。指痕つく。	

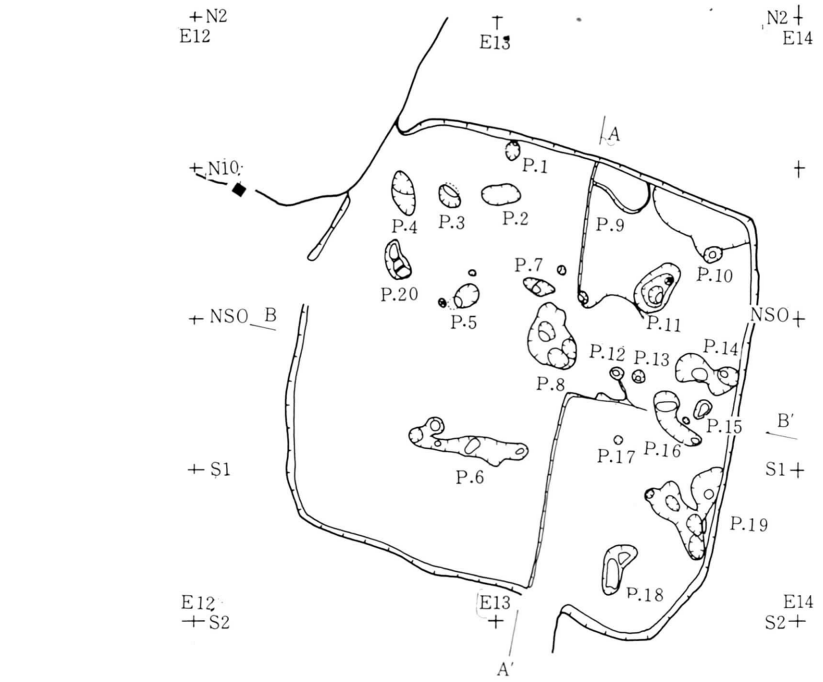
EA12住　カマド・煙道

層	色調	性状	その他
a	黒褐	クロボウと少量の火山灰の混土。小豆大の礫微量。粘性なくやや固くしまる。指圧痕ややつく。	
b		クロボウ。微量のパミスの微細粒を含む。粘性なく固くしまる。	指圧痕はつかない。
c	茶褐	縄文時代の遺物包含層乃至はフラスコピットの埋土。クロボクと火山灰が数次にわたって混合されて形成された層と思われる。	縄文土器片・火山灰微細ブロックを含む。若干の粘性があり、軽く指圧痕がつく。
d	暗褐	火山灰の成分が強いクロボク若干との混土。ボソボソで軽く指圧痕がつく。	最下部はガリガリの焼土をなす。
e	赤褐	ガリガリの焼土と若干のクロボクが混入。	dとともに煙道の天井部を構成するものであろう。
f	黒褐	煙道内部の埋土と思われる。粘性なく指圧痕がやや深くつく。	土師器片の他に焼土、パミス微細粒、火山灰微細ブロックを多量に含み、a～d層とは明確に区別される。
g	黄橙	火山灰。ほぼ純粋であるが、二次堆積層。	eを埋土とするフラスコピットの壁の上部をなしているものと思われる。

貯蔵穴

層	色調	性状	その他
a	7.5YR5/4 褐	ダンゴ状化。指痕つく。	炭化物・土師器混入。

第158図　EA12住居跡実測図

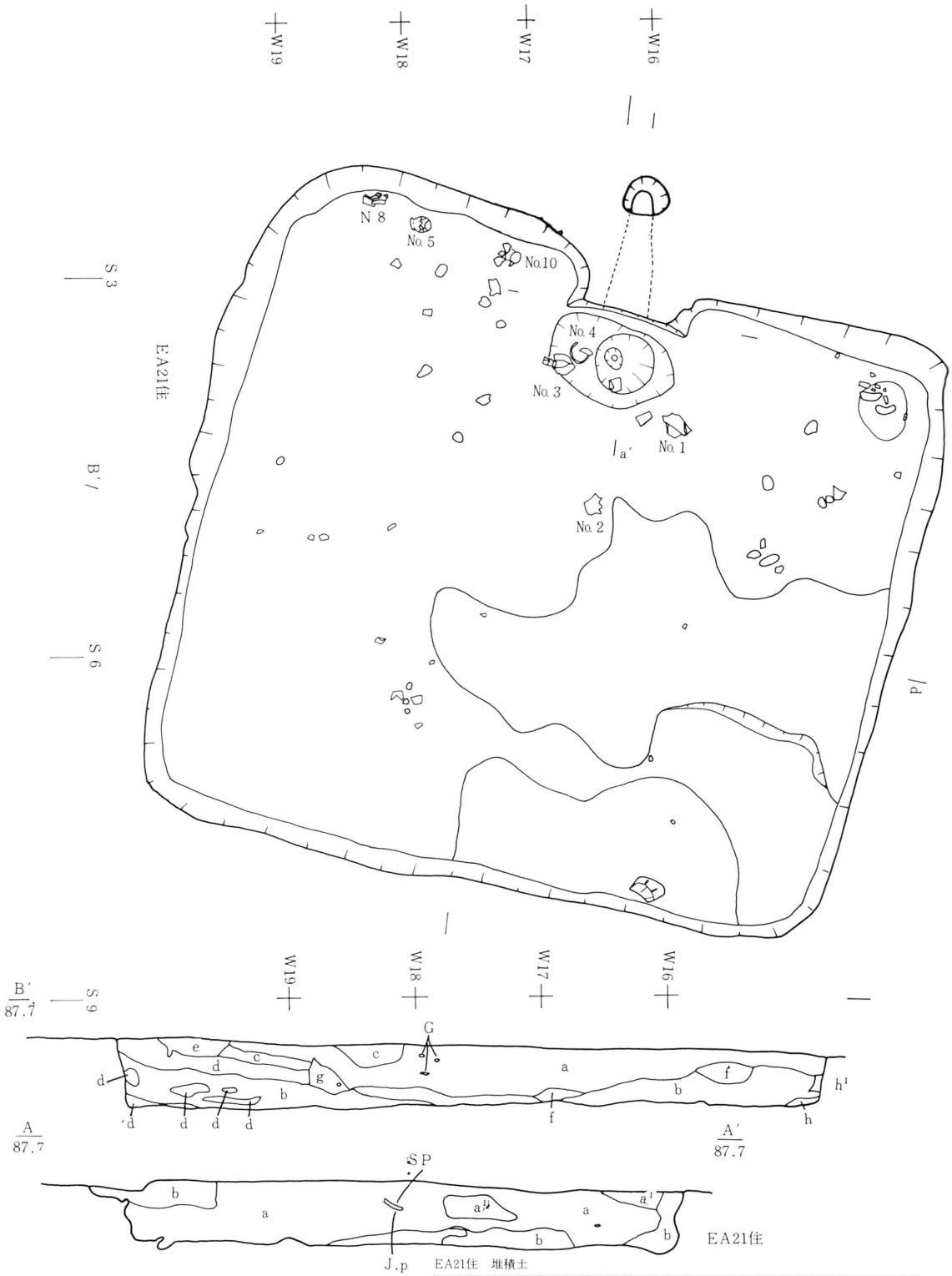


P 1	(0.13)	11	(0.35 / 0.51)
2	(0.06)	12	(0.05)
3	(0.25)	13	(0.1)
4	(0.21)	14	(0.13 / 0.43)
5	(0.19)	15	(0.01)
6	(0.07 / 0.13 / 0.09)	16	(0.07 / 0.09)
7	(0.19)	17	(0.01)
8	(0.41 / 0.27)	18	(0.25 / 0.13)
9	(0.05)	19	(0.3 、0.4 / 0.18 0.2)
10	(0.04 / 0.12)	20	(記載なし)

DJ62住　堆積土

層	色　調	性　状	そ の 他
a	7.5Y R2/2　黒褐	腐植土。指痕つかず。粘性なし。	炭化物・土器片・火山灰若干混入。
b	7.5Y R4/6　褐	火山灰土。指痕ややつく。ダンゴ状化。かたくしまる。	炭化物若干。
c	7.5Y R3/1　黒	火山灰と黒色土の混土。指痕ややつき、粘性なし。	炭化物若干。

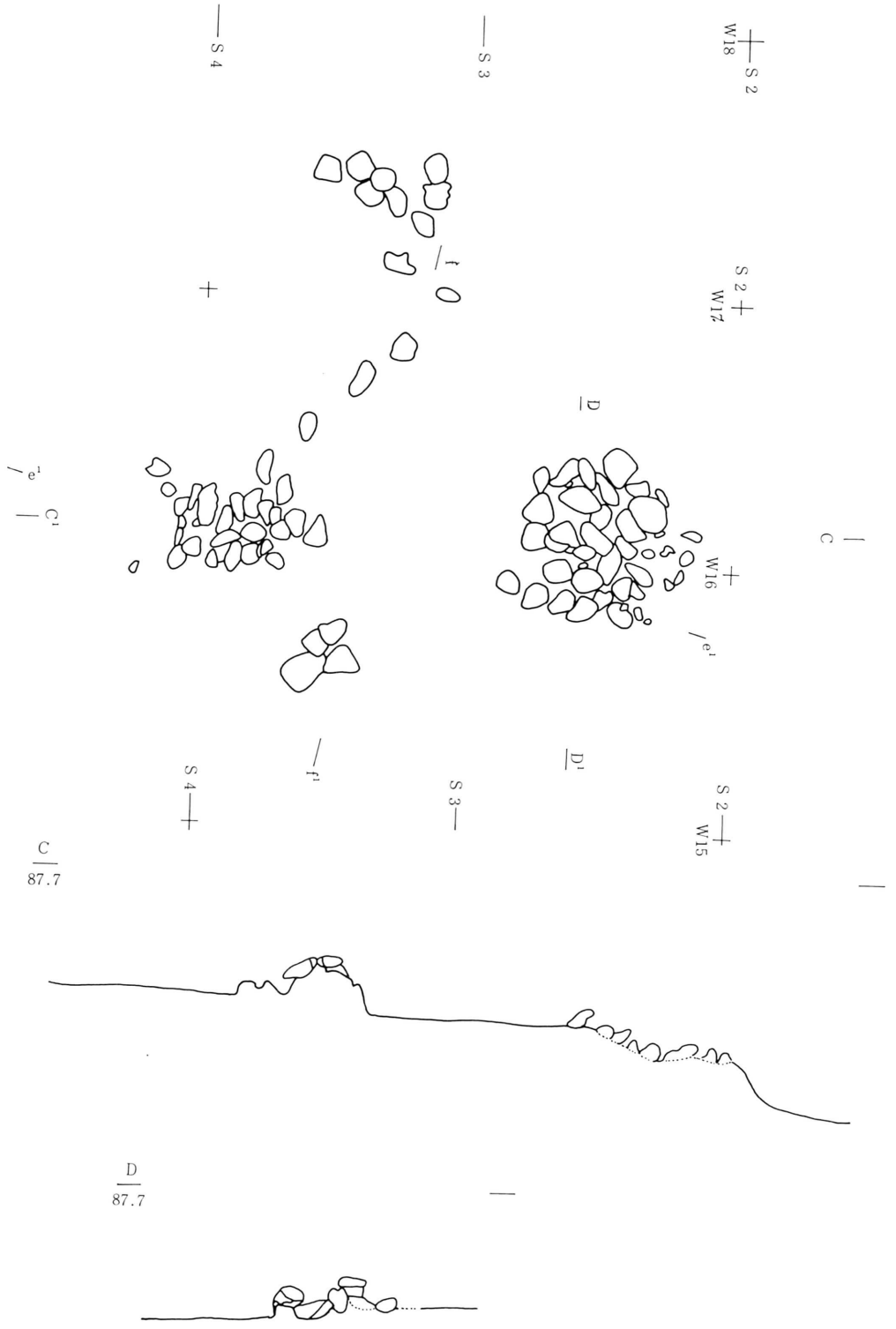
第157図　DJ62住居跡実測図



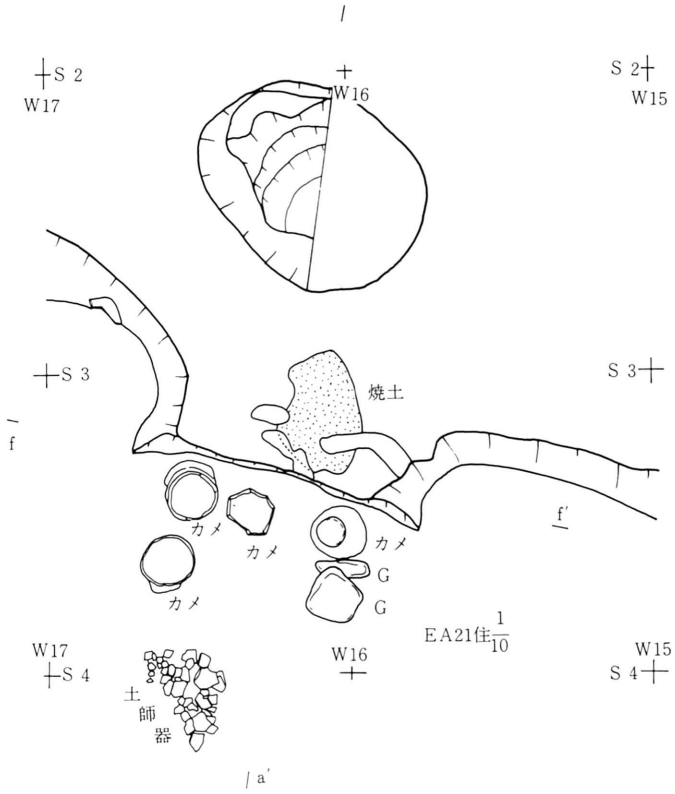
EA21住　堆積土

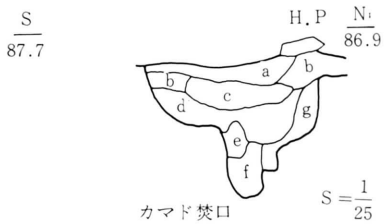
層	色　調	性　　状	その他
a	7.5YR2/3極暗褐	ややダンゴ状化。やや指痕つく。パミス若干3%。	土器片。
a′	同　上	同　上。同　上。パミス2%。	
b	7.5YR3/4　暗褐	同　上。同　上。パミス若干。	炭化物。
c	7.5YR2/3極暗褐	同　上。同　上。同　上。	炭化物・焼土。
d	同　上	同　上。同　上。パミス10%。	炭化物。
e	7.5YR4/6　褐	同　上。指痕つかず。パミス3%。	焼土・これがc・eとベルト状に分布。
f	7.5YR4/4　褐	同　上。指痕つく。パミス15%。	
g	7.5YR2/1　黒	同　上。同　上。パミス3%。	礫。
h	7.5YR6/8　橙	同　上。同　上。	
h′	10YR4/6　褐	同　上。同　上。	

第159図　EA21住居跡実測図（1）



第160図　EA21住居跡実測図（２）



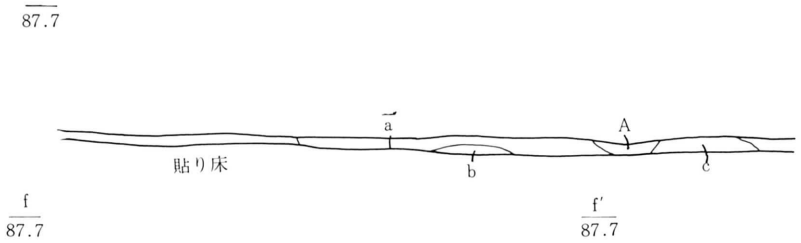


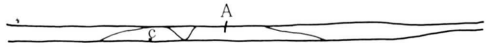
EA21住　カマド焚口

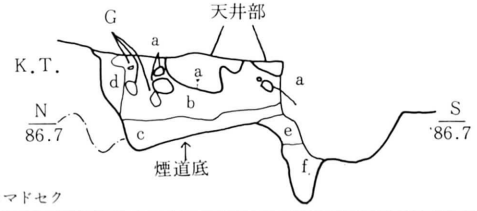
層	色調	性状	その他
a	7.5YR5/6 褐	若干ダンゴ状化。若干指痕つく。パミス若干。	焼土若干。
b	5YR5/6 赤褐	粘性わづか。　同上。	焼土。cよりは焼けていない。
c	2.5YR5/6 赤褐	粘性なし。ボロボロ。　パミス若干。	強くやけた焼土層。
d	7.5YR5/6 褐	同上。同上。パミス若干、礫多い。	
e	同上	同上。dよりしまる。同上。同上。	dに似るが、細かい。
f	7.5YR5/6 明褐	紐状化。若干指痕つく。	焼土若干。dに似る
g	7.5YR5/6 褐	粘性ほとんどなし、同上なるも崩れやすい。1～2cm径のパミス。	同上。同上。

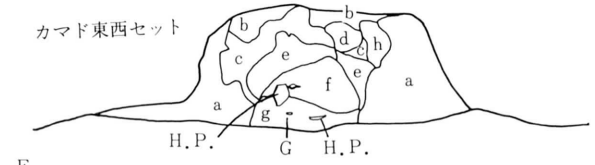
（炭化物検出できず。焼土中には小粒のパミス混入。fの掘り込みは支脚痕と思われる。セクションが中央から、より西寄りに設定されたため、全体的に層の厚さは実際には、増していくだろうと考えられる。）

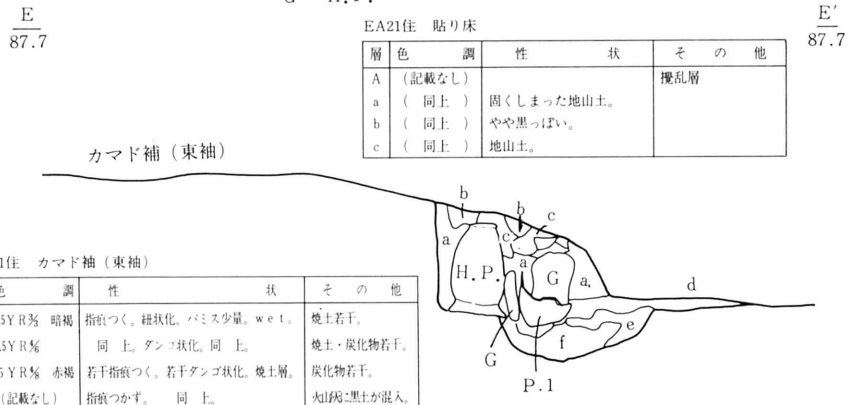
第161図　EA21住居跡実測図（3）











EA21住　貼り床

層	色　調	性　状	そ　の　他
A	（記載なし）		攪乱層
a	（　同上　）	固くしまった地山土。	
b	（　同上　）	やや黒っぽい。	
c	（　同上　）	地山土。	

EA21住　カマド袖（東袖）

層	色　調	性　状	そ　の　他
a	7.5YR3/3　暗褐	指痕つく。紐状化。パミス少量。wet。	焼土若干。
b	7.5YR4/6	同　上。ダンゴ状化。同　上。	焼土・炭化物若干。
c	5YR4/8　赤褐	若干指痕つく。若干ダンゴ状化。焼土層。	炭化物若干。
e	（記載なし）	指痕つかず。　同　上。	火山灰に黒土が混入。
f	7.5YR3/4　暗褐	若干指痕つく。　同　上。パミス若干。	炭化物若干。

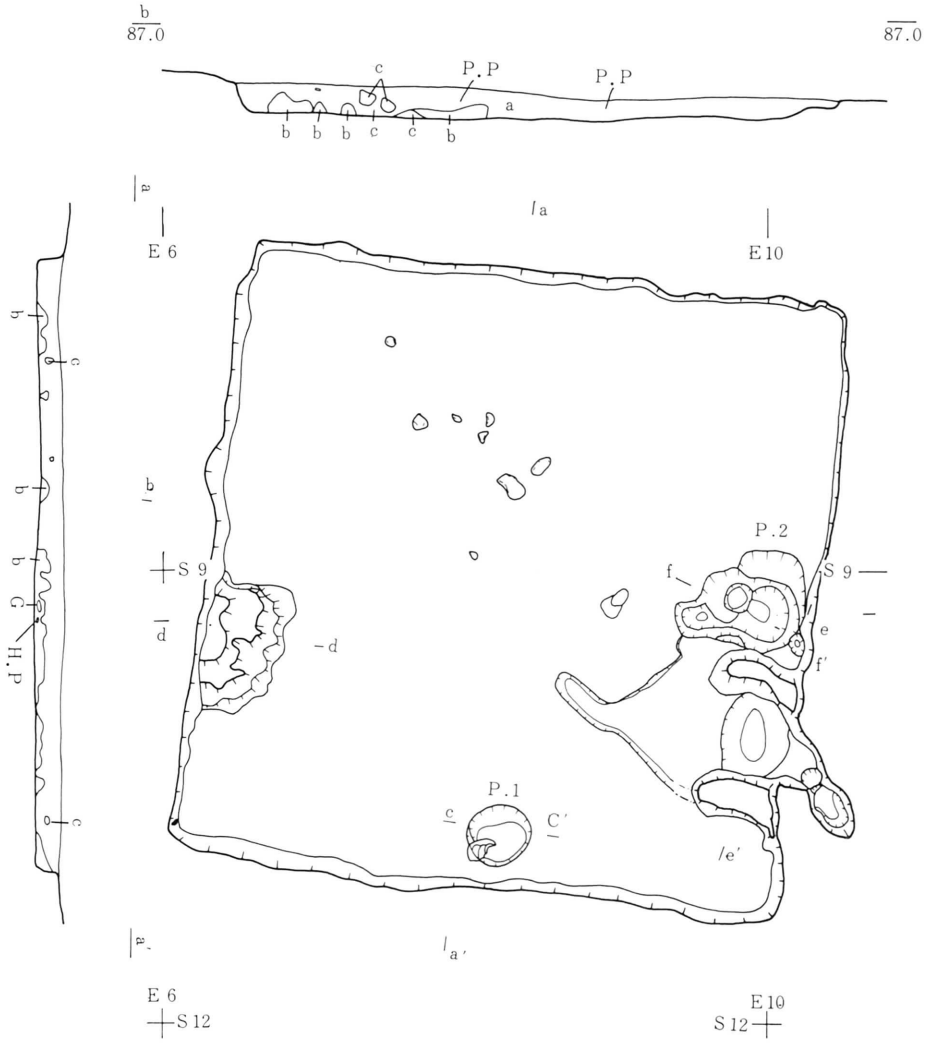
EA21住　カマドセク

層	色　調	性　状	そ　の　他
a		煙道部の上部を構築した火山灰層。不規則なクラックが入りボロボロ。煙道よりの多くの部分はガリガリの焼土。	b内のブロックは、aの崩壊したもの。
b	黒～黒褐	クロボク。ボソボソ、指がめりにむ。こぶし大の亜円礫を煙出しに含む。焼土・炭化物の微細粒を少量含む。	焚口寄りに土師器カメ破片。
c	黒～黒褐	パミス・クロボク混土。焼けたパミス。M、Pが火熱をうけ、火道内に遊離したものとも考えられる。	
d		崩壊火山灰。	カマド本来の壁が崩れたものと思われる。
e		二次的に盛られた汚れたパミス。	
f		パミスに掘られたpitの埋土。汚れた二次的な火山灰。	

EA21住　カマド東西セク

層	色　調	性　状	そ　の　他
a	7.5YR4/6　褐	指痕つかず。若干ダンゴ状化。礫若干。	下位にパミス・礫多し。
b	10YR3/4　暗　褐	指痕つく。ダンゴ状化。	炭化物・焼土
c	5YR2/4　極暗赤褐	指痕つかず。粘性ほとんどなし。	焼土層である。
d	7.5YR3/4　暗　褐	同　上。同　上。	同　上。
e	2.5YR4/6　赤　褐	同　上。同　上。	同　上。
f	10YR2/3　黒　褐	指が入りこむ。紐状化。火山灰若干。	炭化物・焼土・土師器片混入。
g	7.5YR4/4　褐	同　上。ダンゴ状化。　同　上。	焼土・火山灰混入。
h	7.5YR2/2　黒　褐	指痕つかず。粘性ほとんどなし。	焼土ブロック混入。
		補火力のうけ具合（強）e＞c＞d＞h	

第162図　EA21住居跡実測図（4）



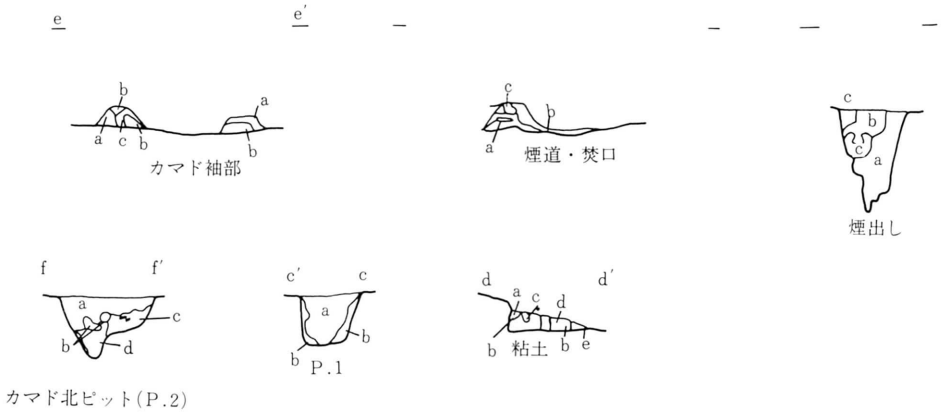
EC56住　堆積土（東西）

層	色調	性状	その他
a	10YR3/3　黒褐	腐植土。指が入りこむ。粘性なし。	礫・炭化物・焼土・パミスを混入。
b	同上	指痕わづかに残る。粘性なし。	
c	7.5YR5/6　明褐	指がやや入る。粘性わづかに有り。	火山灰土。

EC56住　堆積土（南北）

層	色調	性状	その他
a	10YR3/3　黒褐	腐植土。指が入りこむ。粘性なし。	礫・炭化的・パミス・焼土混入。
b	同上	同上。指痕わづかに残る。同上。	同上。
c	10YR4/4　褐	指がやや入る。粘性なし。	炭化物混入。

第163図　EC56住居跡実測図（1）



EC56住　粘土塊

層	色調	性状	その他
a	10YR3/3 黒褐	指が入りこむ。粘性わづか。	炭化物・パミス混入
b	10YR7/6 黄橙	指痕わづか。粘性あり。	粘土質土。
c	10YR7/1 灰白	粘土質土。指痕わづか。粘性あり	
d	10YR3/3 黒褐	指が入りこむ。粘性なし。	炭化物。
e	10YR4/6にぶい黄褐	粘土質土。指痕わづか。粘性わづか。	同　上。

EC56住　煙出1

層	色調	性状	その他
a	10YR3/4 暗褐	指が入りこむ。粘性あり。	炭化物・焼土。パミス混入。
b	10YR3/2 黒褐	同　上。同　上。	パミス・焼土。
c	10YR4/6 褐	同　上。同　上。全体的にボサボサし、崩れやすい。	パミス。

EC56住内　pit.1

層	色調	性状	その他
a	10YR3/3 黒褐	腐植土。指が入りこむ。粘性あり。	炭化物・焼土・パミス混入。
b	10YR3/4 暗褐	同　上。同　上。同　上。	同　上。

EC56住　カマド北pit

層	色調	性状	その他
a	10YR3/3 黒褐	腐植土。指痕つく。粘性ややあり。	炭化物・焼土・パミス混入。
b	10YR4/6 暗褐	粘土質土。指が入りこむ。同上。	炭化物・焼土。
c	7.5YR4/4 褐	同上。指痕つく。同上。土器片。	同　上。多量。
d	10YR3/4 暗褐	腐植土。指が入りこむ。粘性あり。	炭化物・焼土。

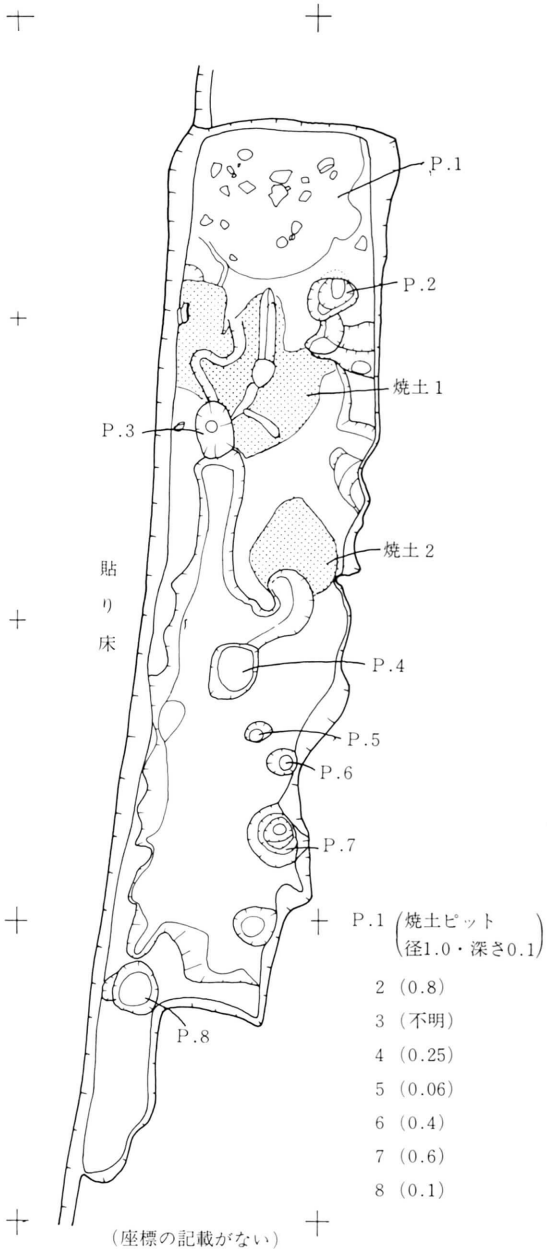
EC56住　カマド袖部

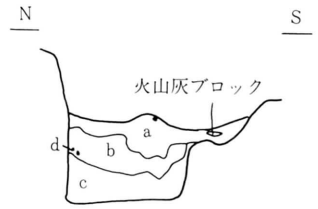
層	色調	性状	その他
a	10YR4/4 褐	指痕わづか。粘性なし。	炭化物・焼土混入。
b	10YR5/6 黄褐	指痕つかず。同上。	炭化物・焼土・パミス
c	10YR3/4 暗褐	指痕つく。同上。	焼土多い。炭化物
d	同　上	指痕つかず。粘性わづか。	同　上。
a	10YR3/4 暗褐	指痕つく。粘性あり。	炭化物・焼土。
b	10YR3/3 黒褐	同　上。同　上。	同　上。

EC56住　煙道・焚口

層	色調	性状	その他
a	10YR4/6 褐	指痕わづか。粘性わづか。	炭化物。
b	7.5YR3/4 暗褐	指が入りこむ。粘性なし。	焼土・炭化物。
c	10YR4/6 褐	指痕わづか。同　上。	焼土多い。炭化物。

第164図　EC56住居跡実測図（2）





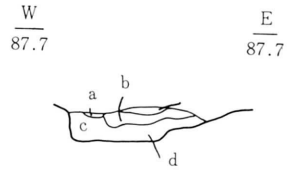
ED27P.（住）

ED27住　pit.1

層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/4暗褐	指痕つかず。粘性なし・火山灰・パミス若干	焼土・炭化物若干。
b	7.5YR4/4・褐	指痕つく。指がめりこむ。パミス若干。火山灰多い。	同上。
c	7.5YR3/4 暗褐	同上。同上。パミス・火山灰若干。bより軟かい。粒状化。	
d	7.5YR4/3・同上	同上。同上。ダンゴ状化。パミス・火山灰若干。	aの黒味ある土も混入。

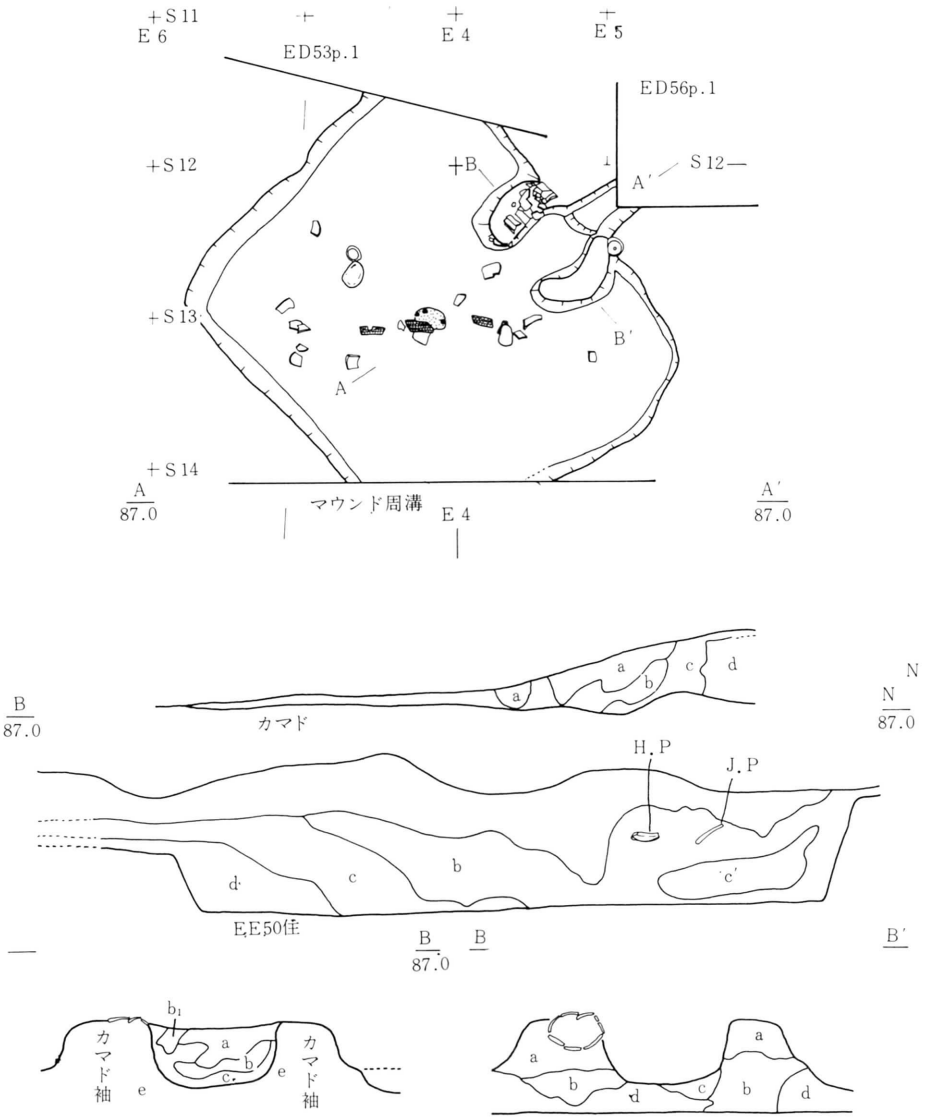
ED27住　焼土1

層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/4 暗褐	指痕つかず。粘性なし。火山灰若干。	焼土・炭化物若干。
b	2.5YR3/4暗赤褐	同上。同上。火山灰・小礫若干。パミス若干。焼土である。	炭化物若干。
c	7.5YR5/6 明褐	同上。粘性ややあり。礫若干。	
d	7.5YR4/6 褐	ボロボロ。粘性なし。礫多い。パミス若干。	



焼土1

第165図　ED27住居跡実測図



EE50住　堆積土

層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/3極暗褐	腐植土。パミスブロック・焼土ブロック若干あり。粗で粘性なし。	
b	7.5YR3/3　暗褐	火山灰土。パミスブロック若干あり。粗で粘性ややあり。	
c	7.5YR3/2　黒褐	腐植土7：火山灰土3。パミスブロック若干。粗で粘性ややある。	
c′	同上	火山灰土8：腐植土2。パミスブロック若干。粗で粘性ややある。	
d	7.5YR3/3　暗褐	火山灰土8：腐植土2。密で粘性・パミスブロック若干ある。	

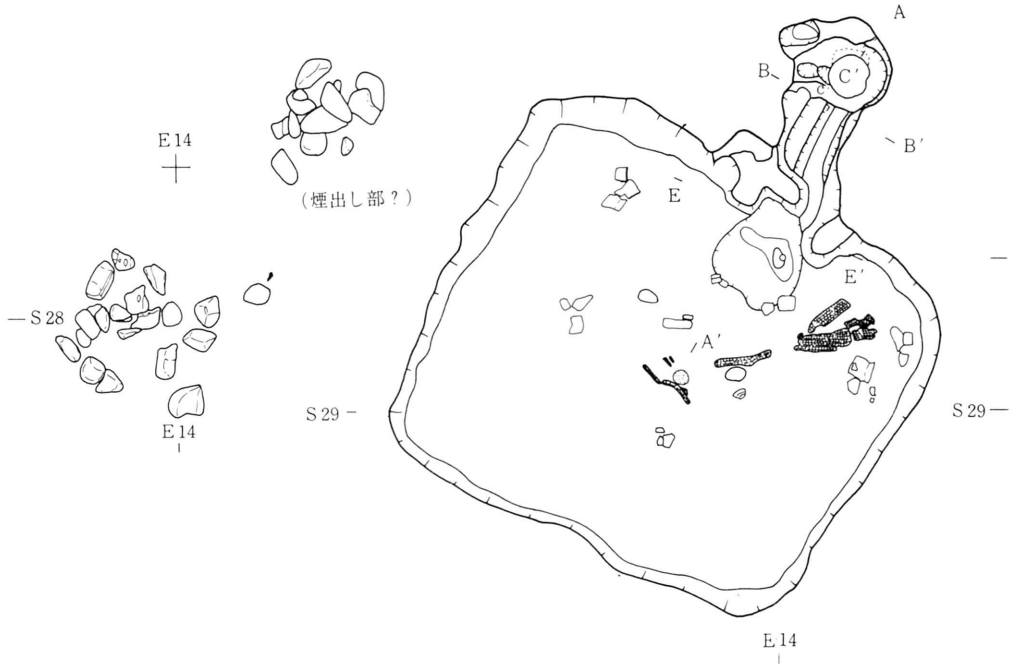
EE50住　カマド燃焼部堆積土

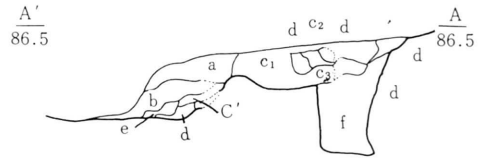
層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/3　暗褐	腐植土。パミス・焼土ブロック若干。粘性なし。	粗
b	10YR3/3	腐植土8：焼土2。　〃　〃。	
c	7.5YR極暗褐	腐植土。　〃　〃。	
d	7.5YR3/3　暗褐	腐植土1：火山灰1。パミスブロック若干。　〃	

EE50住　カマド袖部

層	色調	性状	その他
a	7.5YR3/2極暗褐	腐植土。粗で粘性なし。	
b	7.5YR4/4　褐	火山灰と腐植土の混土。炭化物・パミスブロックややある。密で粘性ややある。	
c	7.5YR4/6　褐	火山灰・腐植土・焼土の混土。パミス若干あり。密で粘性なし。	
d	10YR5/6　黄褐	パミス8：腐植土2。密で粘性若干あり。	

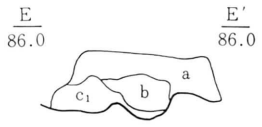
第166図　EE50住居跡実測図





EI62住　カマド、煙出堆積土

層	色　調	性　状	その他
a	10YR3/2　黒褐	腐植土。粘性わづか。指痕明確。パサパサ。	パミス・炭化物・礫混
b	10YR3/3　〃	同　上。　同　上。　同　上。aよりしまる。	パミス・炭化物。
c_1	10YR3/4　暗褐	同　上。　同　上。　同　上。aに似る。	同　上。
c_2	10YR4/6　褐	火山灰砂土。同　上。指入りこむ。同　上。	炭化物。
c_3	10YR3/4　暗褐	同　上。粗になる。同　上。　しっとりする。	パミス。
d	10YR6/6明黄褐	火山灰土。粘性わづか。指痕つく。かたくしまる。	炭化物・パミス。
e	5YR4/6　赤褐	焼土。　粘性なし。指痕わづか。しっこりしまる。	パミス・炭化物・礫
f	10YR3/3　黒褐	腐植土。粗になる。指が入りにむ。ポサポサ。	混入。パミス・礫も焼けている。



カマド

煙出し

第167図　EI62住居跡実測図

(b)ピット類（実測図は、縄文時代のピット類の中に示した。）

EB12 p〔第78図・図版29〕〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕EB12 f.p.、EB15 f.p. に後続する。EA12 住居跡とは記録を欠き先後関係不明である。少なくとも両者は古代に属してはいる。〔平面形〕長方形か楕円形基調か。〔縦断面形〕金ダライ状に浅く、Eの仲間とした。〔規模〕(2.2±×？)・(×)・(1.8±×？)・(0.45±～？)〔堆積土〕所謂〝粉状パミス〟が見られる。〔床面〕重複のため詳細不明。〔年代決定の資料〕埋土出土のものを用いると古代（奈良末～平安初）かそれ以降のものと考えられる。

EE24 p.1（第103図・図版41）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕EE24 p.3 に先行する。〔平面形〕楕円形基調。〔縦断面形〕ビーカー型でありE－1の仲間としておく。〔規模〕(2.2±×1.7±)・(×)・(2.0±×1.5±)・(0.37±～0.24±)〔堆積土〕自然堆積と思われる。〔年代決定の資料〕埋土出土のものを援用すると、ロクロ使用の土師器坏（内面黒色処理）をとると平安時代と思われる。

EE24 p.2（第103図・図版41）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕EE24 p.3 に後続。〔平面形〕楕円形基調としておく。〔縦断面形〕浅いフラスコ型でありE－2とみておく。〔規模〕(1.8±×1.4±)・(×)・(1.5±×1.3±)・(0.46±～0.2±)〔堆積土〕ⓑは人為的措置の可能性がある。〔床面〕北部にP．1が存在するのみ。〔年代決定の資料〕良好な資料を欠くが、重複関係を援用すると、古代のものである可能性をもつ。

EE24 p.3（第103図・図版41）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕EE24 p.1 に後続し、、EE24 p.2 に先行する可能性がある。〔平面形〕楕円形基調。〔縦断面形〕A－1に似るが、小規模にすぎる。〔規模〕(0.5±×0.25±)・(×)・(0.28±×0.18±)・(0.51±～？)〔堆積土〕一様な土が堆積するが、性格不明である。〔床面〕特記事項無し。〔遺物〕良好なそれを得られなかったが、重複関係を援用すると、古代の可能性がある。

EE27 p.（第101図・図版41）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕EF27 f.p. と重複するが実測図を欠く。遺物を比較すると、それが先行する可能性がある。ED27 住居跡とは、遺物に時期差を見出しがたい。〔平面形〕未完掘ではあるが、円形基調か。〔縦断面形〕ビーカー型に近いと思われ、A－2の仲間とした。〔規模〕(1.6±×？)・(×)・(1.3±×？)・(0.25±～？)〔堆積土〕焼土・粘土等の存在は、人為的なものを感じさせる。〔床面〕P．1と、壁上にP．2があるのみ。〔年代決定の資料〕埋土出土のものを用いると古代か、それ以降の可能性がある。なお本遺構にはED27 住居跡P．2なる名称も与えられており、該住居跡の附属施設の可能性もある。

EI50 p.2（第132図）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕近世墳墓墳丘下位にくる。〔平面形〕円形基調。〔縦断面形〕完掘時はE－1の仲間とした。〔規模〕(1.25±×1.2±)・(×)・(0.95±×0.8±)・(0.23±～0.19±)〔堆積土〕実測図を欠く。〔床面〕ほぼ平坦以外の特記事項は無い。

〔年代決定の資料〕埋土出土ものを援用すると、古代の可能性をもつ。

(b)溝状遺構

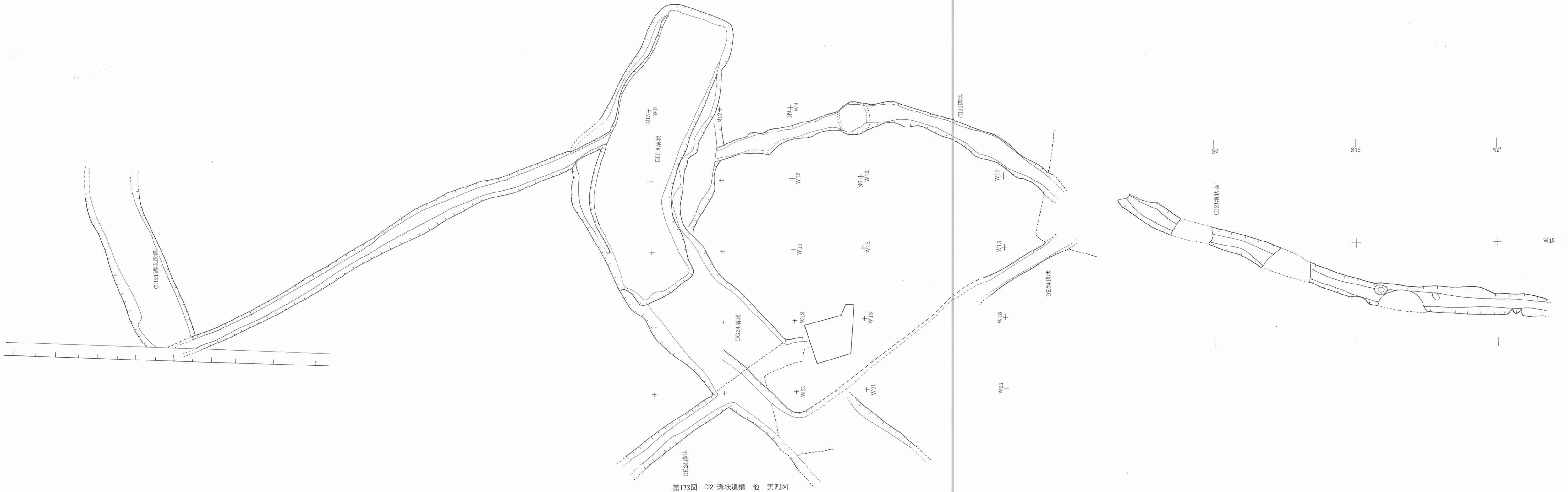
DG24溝状遺構（第　図・図版　）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕DE18 溝状遺構、DG24 住居跡に重複するが、記録を欠く。〔縦断面形〕金ダライ型。〔規模〕(3.8±×10.0±)・(×)・(3.2±×9.8±)・(0.28±)〔堆積土〕詳細不明。〔床面〕東北方向へ援く傾斜する。〔年代法定の資料〕埋土出土のものを援用すると、十代以降となろう。

DE24 溝状遺構（第　図・図版）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕DG24 溝状遺構・DG24 住居跡・EA12 住居跡と重複。後二者より新規か。〔縦断面形〕浅鉢～金ダライ型。〔規模〕(1.0±×20.0±)・(×)・(0.3±×19.8±)・(0.2±～0.26±)〔堆積土〕詳細不明。〔床面〕南へやや傾斜。〔年代決定の資料〕埋土出土ものを援用すると、古代以降のものとなろう。

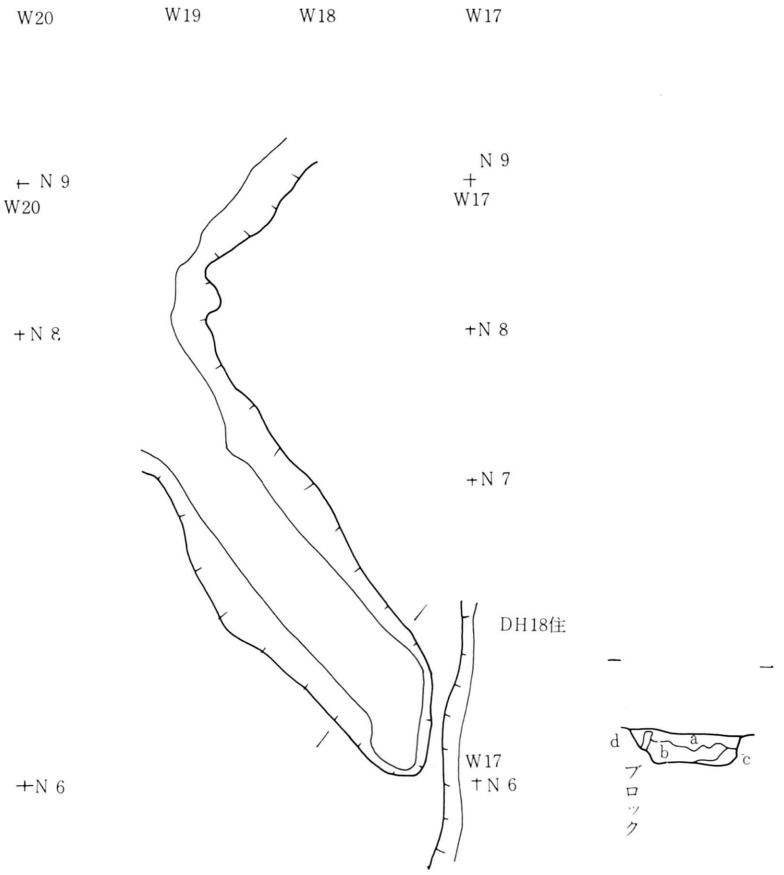
DE18溝状遺構（第　図・図版　）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕DE18 住居跡に後続する。CI21・DG24 溝状遺構とは記録を欠く。〔縦断面形〕浅鉢～金ダライ型。〔規模〕(3.4±×12±)・(×)・(3.0±×11.8±)・(0.506～0.439)〔堆積土〕詳細不明。〔床面〕南へ援く傾斜する。〔年代決定の資料〕埋土出土のものを援用すると古代遺構のものとなろう。

CH21 溝状遺構（第　図・図版）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕CI21 溝状遺構と重複するが記録を欠く。〔縦断面形〕浅鉢～金ダライ型。〔規模〕(2.1±)・(×)・(1.84±)・(0.35±)〔堆積土〕詳細不明。〔床面〕東へ緩く傾斜する。〔年代決定の資料〕埋土出土のものを援用すると、古代以降のものと思われる。

CI21 溝状遺構（第　図・図版　）〔検出面〕K.T. 層中か。〔重複〕CH21 溝状遺構、DE18 溝状遺構、EA21 住居跡と重複。EA21 住居跡には後続か。その他とは記録を欠く。〔縦断面形〕浅鉢～金ダライ型。〔規模〕(1.0±～0.7±)・(×)・(0.37±～0.5±)・(0.234～0.201)・(全長56m±)〔堆積土〕詳細不明だが自然堆積か。〔床面〕基盤層に沿って南へ傾斜する。〔年代決定の資料〕良好なそれは得られていない遺物としては前期末他の縄文土器他があるが、重複関係からすると古代以降のものであろう。



第173図　CI21溝状遺構　他　実測図



第174図　DE24溝状遺構実測図

（C） 近世以降

近世墳墓（第168～172図・図板　～　）

墳墓は調査地の南端、E区にあり小河川によって開析された標高87～88mの村崎野段丘の南縁で、突出した台地の東端部に位置している。南側水田面とは7～8mの比高差をもつ。当遺構は杉木立の中にあって現状でも墳丘状の高まりが捉えられ、その周囲に方形状の凹みが認められる。墳丘中央部にはかつて稲荷神社が祀られていたが、調査時には路線外（東方）に移築されていた。

全体形は方形台状を呈す。その軸線は東西方向をとるが、東で若干南に偏している。周溝を含んだ規模が東西約27m、南北約17mで、墳頂部は西半が僅かな高まりをなすがほぼ平坦で、約20×8mの隅丸長方形をなす。高さは旧表土面から0.3～0.8mで、周溝底部からは1.7～27mを計測する。西半を中心に丸味を有する長径50cmの大型のものから拳大の川原石が散在する。それらの礫は表土層に多く認められ、積土の中にはほとんど含まれない。葺石状を呈している。中には密集する部分も見られ、配石遺構と思われるものも存在する。まとまりは26例捉えられるが、しかし立木等によって左右されるものもあって必ずしも遺構のみではなさそうである。

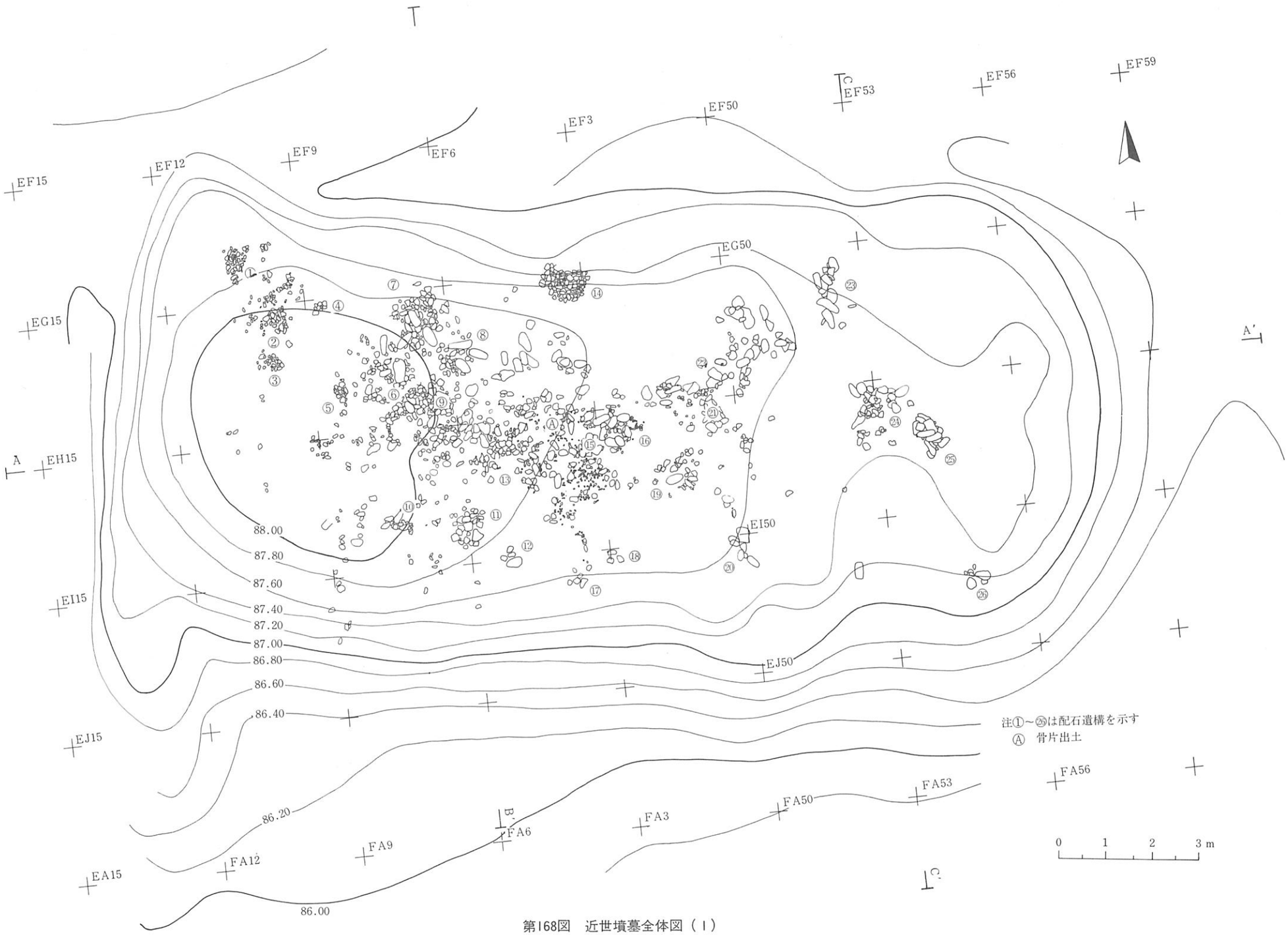
配石遺構を形態で分類すると次のようになる。

①円形あるいはそれに近い形に配石されたもの。12例（①～④、⑪～⑭、⑰、⑱、㉔、㉖）。このうち④、⑫、⑰、⑱、㉖の5例は、構成礫が数個から10個内外で、直径50cm以内の小規模なものである。第12配石遺構では礫がほぼ水平に配されている。①、②、③、⑬の4例は小さな礫が比較的多いもので、その規模は直径0.7m前後である。⑬を除いてまばらな配置である。⑪、⑭、㉔は構成礫が多く直径1m前後である。⑪は比較的大き目の礫を利用し、ややまばらな配置であり、⑭は北半が木根のため変形しているがほぼ円形で、小型の礫が密集し中央部に向って積み重ねられている。上面はほぼ水平である。

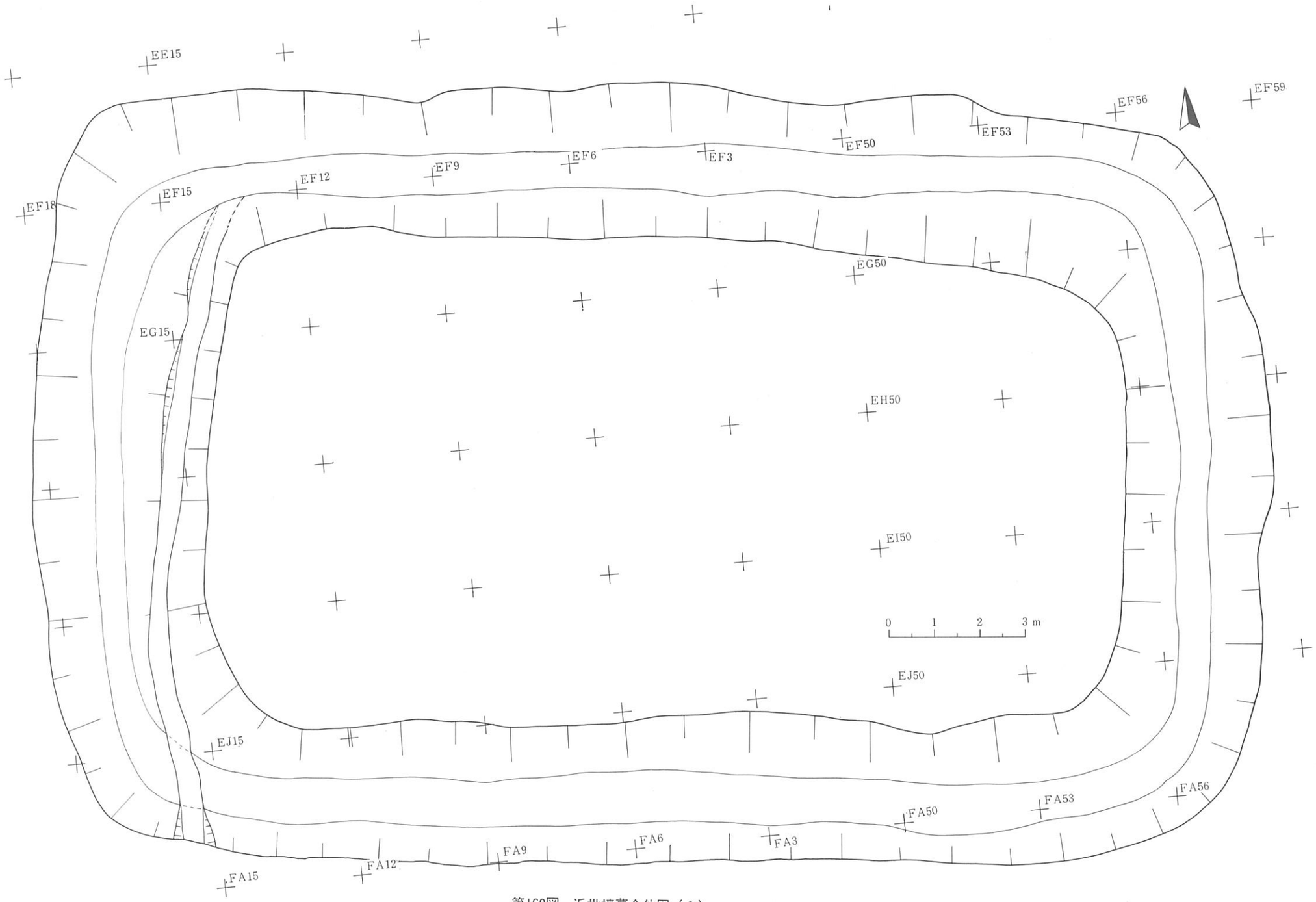
②環状に配置されたもの。4例（⑨、⑮、⑯、㉑）。中央部が空間となっているもので円形をなす⑮、⑯、方形に近い⑨、㉑の両者が存在する。⑯は比較的大き目の川原石を利用している。

③大石を中心に円形あるいは環状に配置されたもの。4例（⑥、⑦、⑧、⑲）。⑦は大石が上位となっているが、他は同レベルにある。いずれも大石をとりまいている礫はそれほど整然としたものではない。

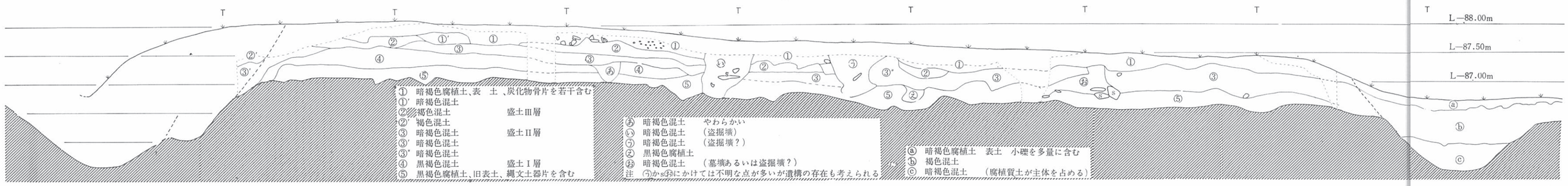
④直線状に配置されたもの。6例（⑤、⑩、⑳、㉒、㉓、㉕）。このうち⑤、⑩、⑳の3例は臨接して木根を有するもので、根元に集積されたもののようである。㉓は長さ1.5mに達するもので、北半が約30cm下位に位置している。㉕は大き目の礫を厚さ約50cmの範囲に積み重ねたもので、中央部が高くなっている。㉒は矩形に折れ曲がるもので、外側のものが下位にあり、基

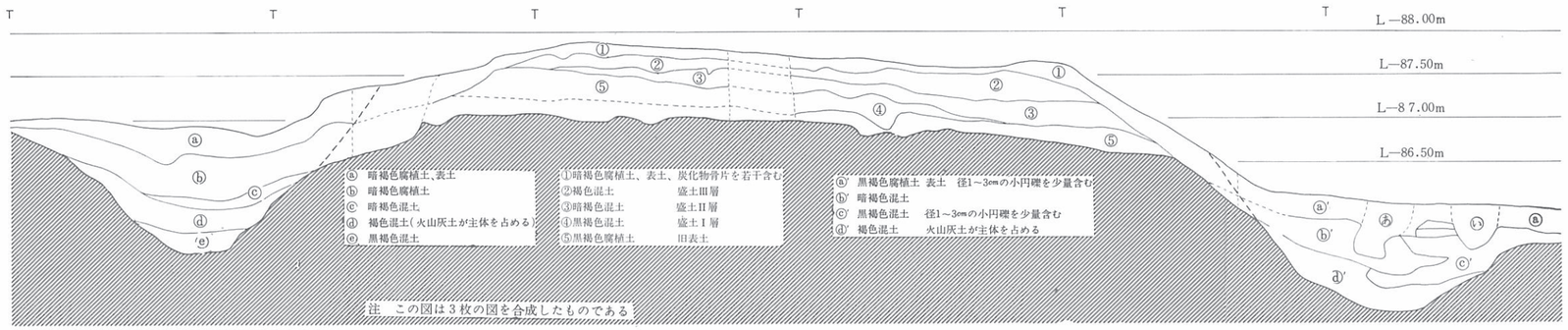


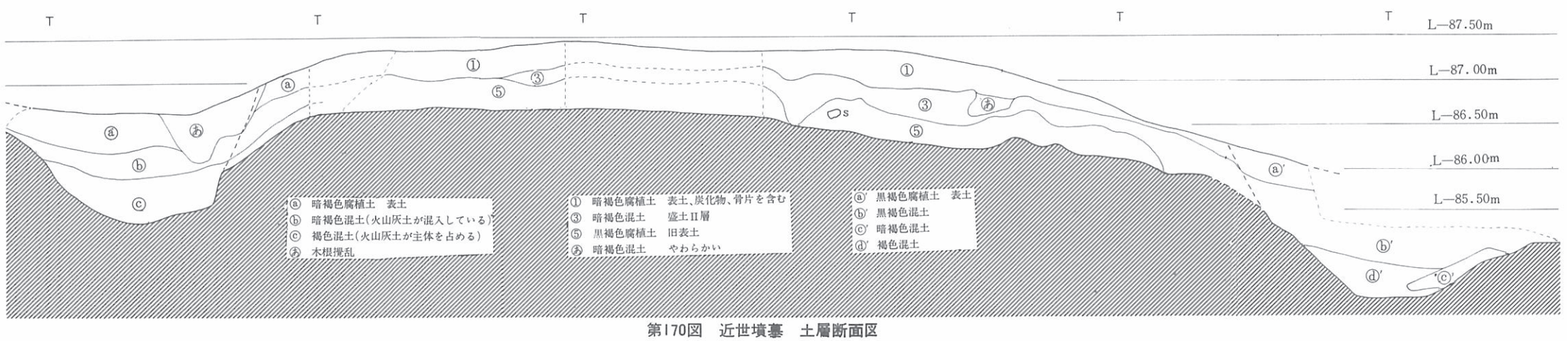
第168図　近世墳墓全体図（1）



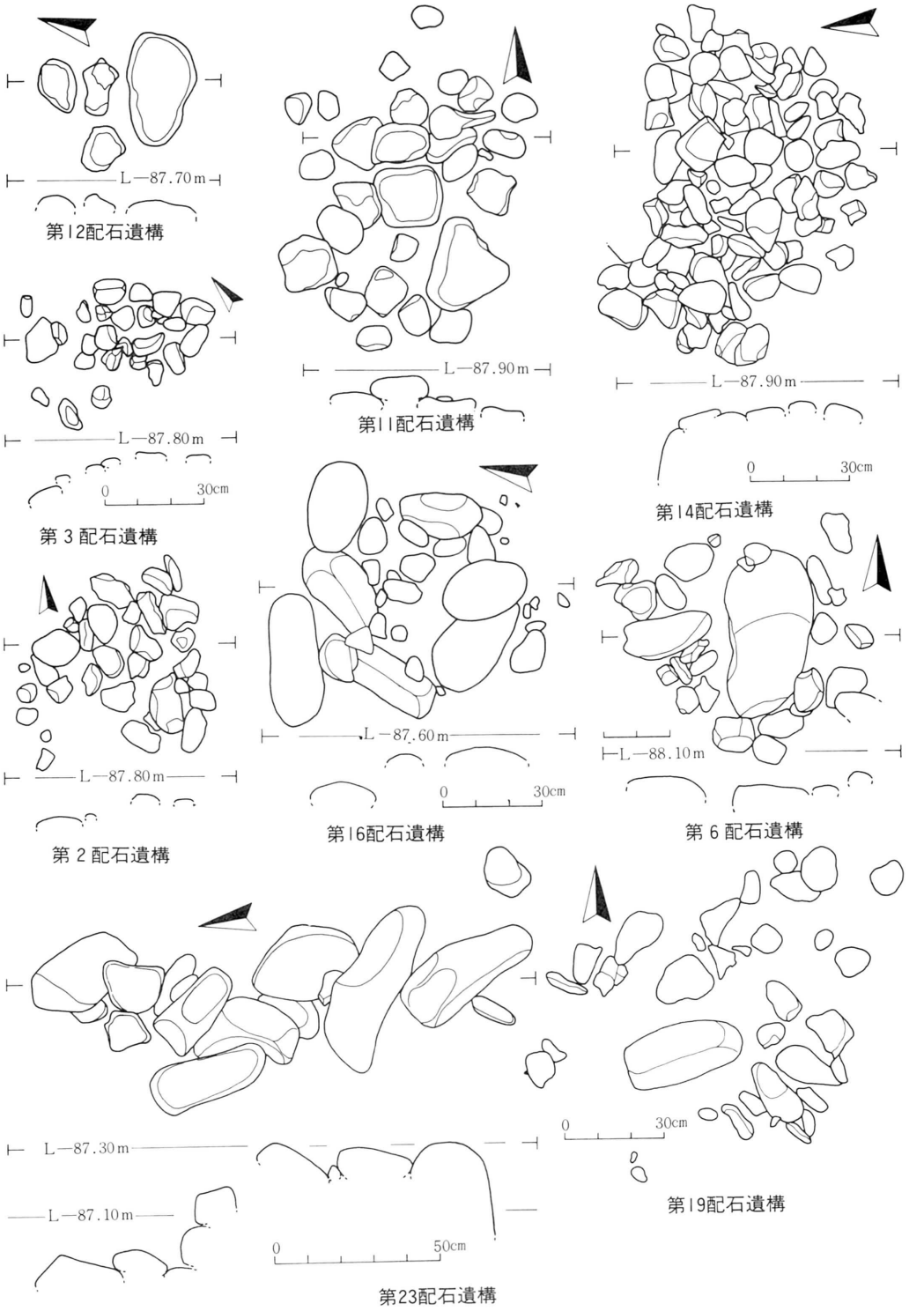
第169図　近世墳墓全体図（２）







第170図　近世墳墓　土層断面図

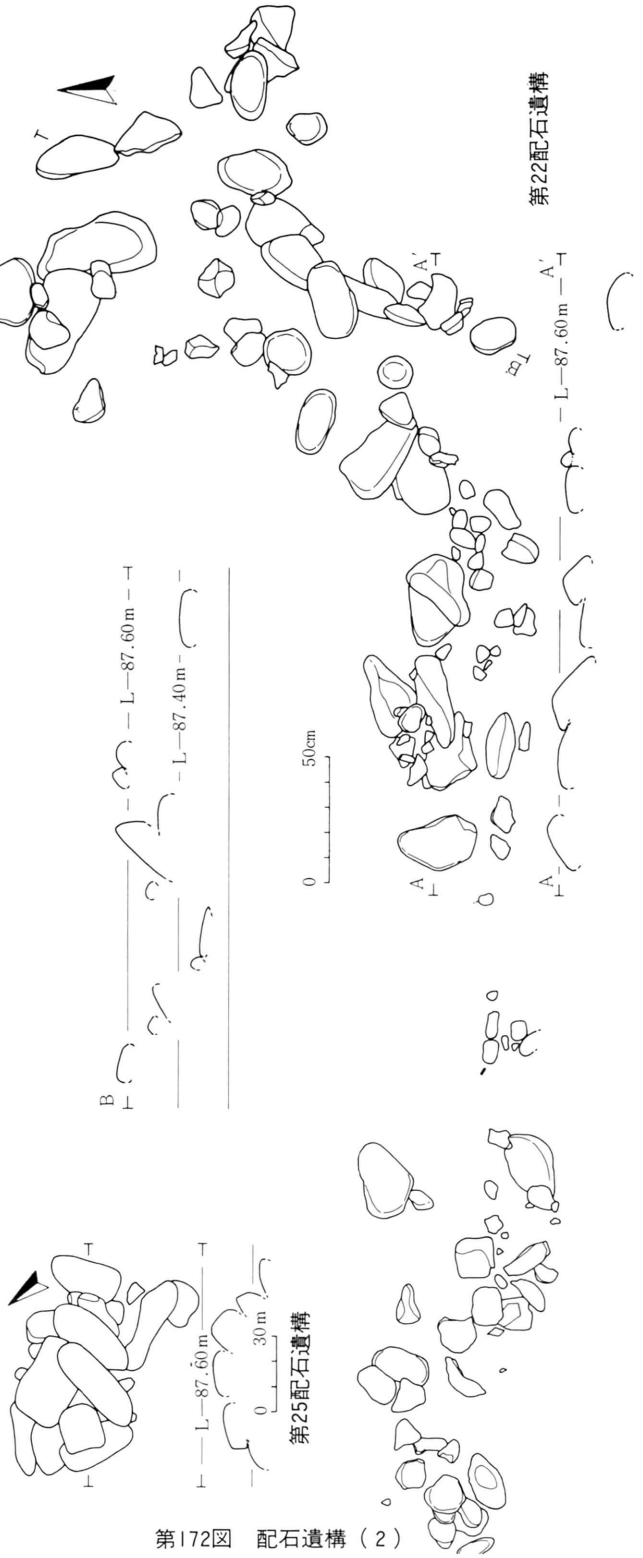

L—87.70m
第12配石遺構
L—87.90m
第11配石遺構
L—87.90m
0
30cm
第14配石遺構
L—87.80m
0
30cm
第 3 配石遺構
L—87.80m
第 2 配石遺構
L—87.60m
0
30cm
第16配石遺構
L—88.10m
第 6 配石遺構
L—87.30m
L—87.10m
0
50cm
第23配石遺構
0
30cm
第19配石遺構

第171図　配石遺構（1）

盤を構成するものと見られる。内側にはほとんど礫は見られなく、移転した稲荷神社の基壇と考えられるものである。

封土は基本的には腐植土を主体とする黒褐色混土(盛土Ⅰ層)、腐植土と地山火山灰土の攪乱した暗褐色混土(盛土Ⅱ層)、地山火山灰土を主体とする褐色混土（盛土Ⅲ層）の３層からなり、全体的に表土が覆っている。表土には前述の如く西半を中心に礫が含まれており葺石状を呈している。なお、東半では盛土Ⅰ層及びⅢ層が見られなく、高さも減じている。

周溝はほとんど埋没しているが若干凹んでおり、僅かにその痕跡をとどめている。それは墳丘を一周するもので、旧表土面における幅が2.5～３ｍ、深さが１～1.5mで箱薬研堀的である。埋土は地点によって若干異なるが、下位から褐色混土、暗褐色混土、黒褐色土である。但し、北側から西にかけては最下層に黒褐色混土が認められる。埋土はいずれも地山の黄褐色火山灰土と黒色腐植土からなる混土で、写真図板　一　によると中位層に礫が散在しており、周溝壁面の崩落と封土の崩壊堆積土と見られ、人為的に埋められたものではない。



第172図　配石遺構（２）

なお、西溝の内側斜面には小さな溝が確認されており、造り替えがなされたようである。断面図がなく断定できないが、現状地形（傾斜変換点が溝内に及んでいる）等から墳丘を取りまいている現状のものが新しいと見られる。

埋葬施設は明らかに遺構として認定されたものはない。但し、出土遺物の中には、まとまって発見されたものがあり（後述）何らかの施設を伴っていたと推定される。なお、地山面において構築された土壙は発見されていない。

発見された遺物は小刀、毛抜、古銭（５種11点、不明銭１点）、陶器４点である。なお、遺物はいずれも表土及び封土内から発見されたもので、出土地点及び層位は記録されていない。中には埋葬施設に伴うものも含まれていると推測されるが、上記の理由から特定できない。

まとめ

今回発見された墳墓は、比高８ｍの村崎野段丘の南縁東端に位置している。調査前は杉木立の中にあって墳丘状の高まりとほとんど埋没した周溝が確認される。墳丘中央部には稲荷神社が祀られており、古来聖域と考えられていた地域である。調査の結果次のことが判明している。

①東西に長い方形台状を呈し、周溝と葺石状（？）の配石を伴う高塚墳墓である。規模は27×17m で高さが0.3～0.8m である。

②墳丘の構築は、旧表土の上に黒褐色混土、暗褐色混土、褐色混土を積み重ねた後に、西半を中心に円形、環状、大石中心の環状、直線状等に川原石を配したものである。

③周溝は１周するもので幅が2.5～３ｍ、深さが１～1.5m の箱薬研掘状をなす。埋土は壁面の崩落、封土の崩壊によると見られる自然堆積である。

④発見された遺物は小刃、毛抜、古銭、陶器等で、埋葬施設としての遺構は確認されていない。

第3部　分析・鑑定結果

和賀川流域の地形について

岩手県立大船渡農業高校　　佐藤　二郎

I．はしがき

約185万前に始まり現世におよんでいる第四紀は、地球表面の諸形態・模様を形成した時代である。この時代の産物は、俗に土、砂、砂利と呼ばれるものを主体とする。それらは、その根源物質の種類と性質、地域の古地形環境、古気候、古植生および地殻の変動などの相互作用のもとに形成され、それぞれがもっとも安定した空間に定着する。ところで、このような性格を有する第四紀の産物のうち、比較的新しいものは、その安定空間を段丘というかたちでとる。段丘とは、段丘面と呼ばれる平坦面と、段丘崖と呼ばれる崖を構成要素とする地形をいうが、それはまず、面を平坦化する作用によって、つぎにそれを段化させる働きによってつくられる。この面の平坦化作用、段化作用を支配するものとして、第一義的に流水および海水準があげられる。

上記のことから、段丘地形の研究は、その対象が狭小であるとしても、可能な限り広汎な視野にたつ地質学的手法によらなければ心もとない。[1)、2)、3)] この地域を含む北上川中流域の地形学的研究はかなり以前から[4)、5)]なされているが、上記のような理念のもとに行われだしたのは1960年代以降のことである。

筆者がここに述べる内容は、1960年代初期から[6)、7)]1970年前後にかけておこなった、この地域の地下地質の研究成果の一部に、最近の研究の成果を加えたものである。

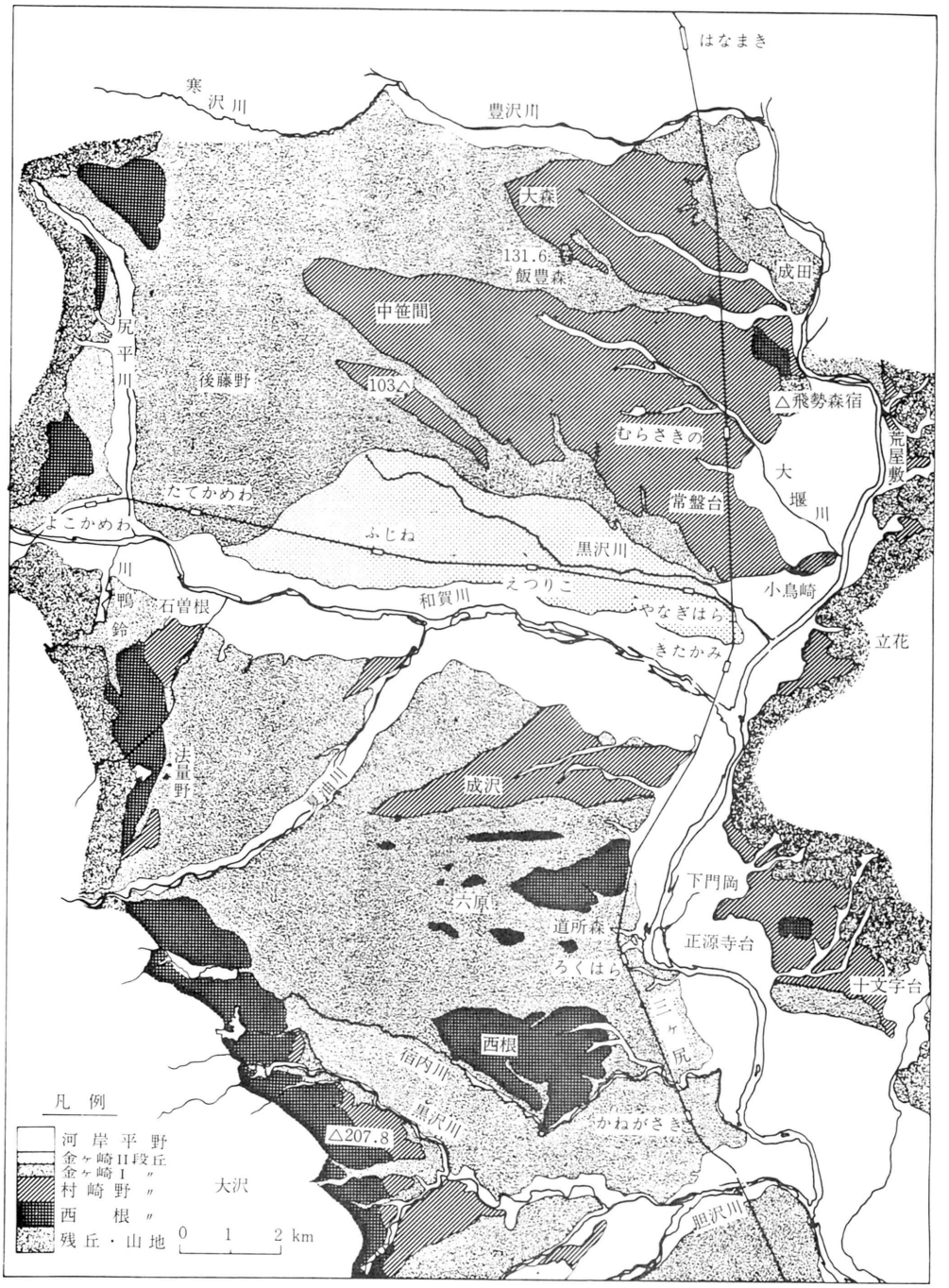
II．地形区分

北上川中流域は、北上山地と奥羽山地の境界に発達した起伏に富む低湿帯に埋積した土砂によって形成された、扇状地性段丘群の集合体といえる。そのため、その基盤の頂部が著しく高かった場所が、ときとして残丘となって露出することがある。

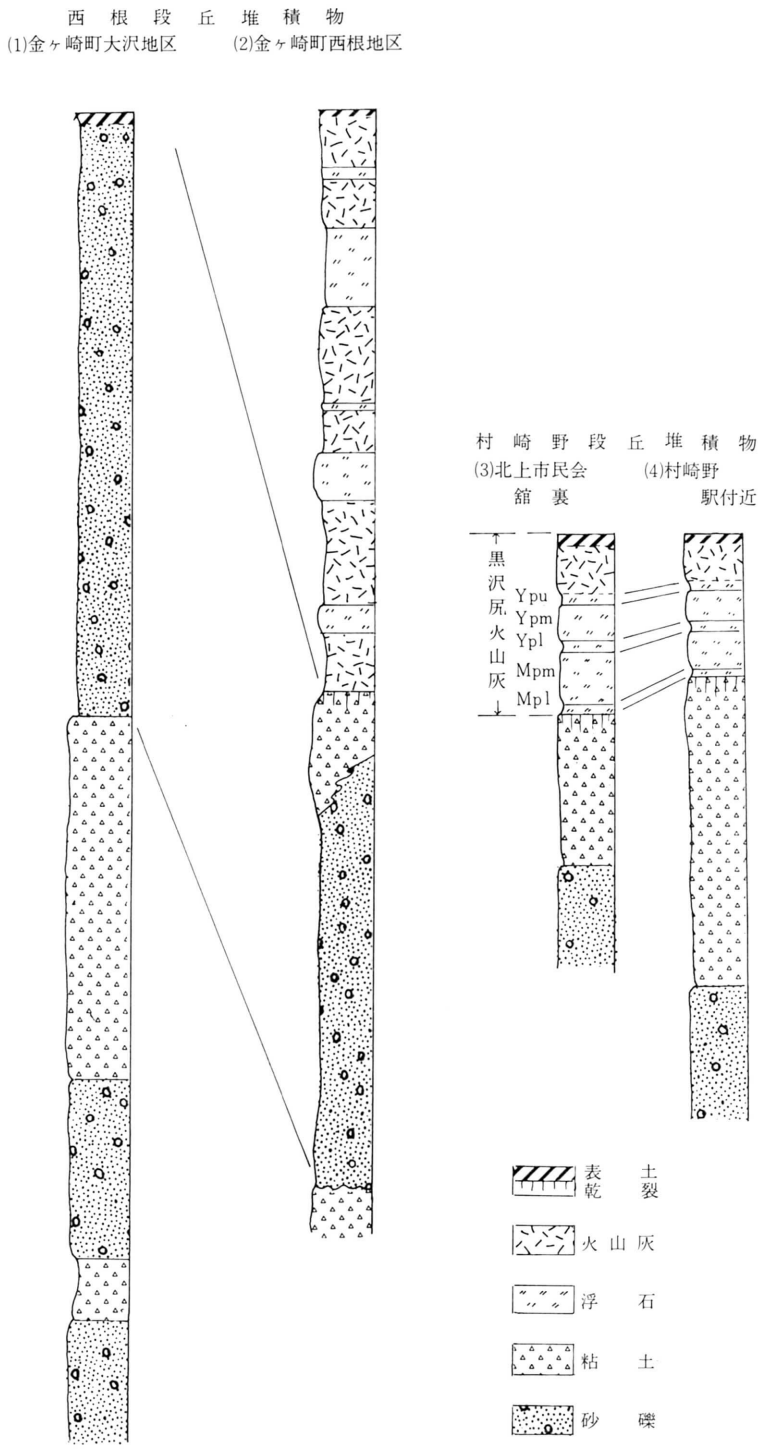
この地域の河岸段丘は、第1表のように区分され、それらは日本の第四系標準地域である南関東地域のそれと、同表のように対比される。これらの分布を第1図に示す。

第1表　和賀川下流域段丘対比表

年代＼地域		南関東	和賀川流域
沖積世		海岸平野	河岸平野
洪積世	後期	立川段丘	金ヶ崎II段丘
		武蔵野段丘	金ヶ崎I段丘
	中期	下末吉段丘	村崎野段丘
		多摩II段丘 多摩I段丘	西根段丘


はなまき
寒沢川
豊沢川
大森
131.6
飯豊森
成田
中笹間
尻平川
後藤野
103
△飛勢森宿
むらさきの
荒屋敷
大堰川
たてかめわ
よこかめわ
常盤台
ふじね
黒沢川
小鳥崎
鴨川
石曽根
鈴
和賀川
えつりこ
やなぎはら
きたかみ
立花
法量野
成沢
下門岡
六原
道所森
正源寺台
ろくはら
十文字台
西根
宿内川
黒沢川
尻
かねがさき
△207.8
大沢
胆沢川
凡例
河岸平野
金ヶ崎II段丘
金ヶ崎I 〃
村崎野 〃
西根 〃
残丘・山地
0 1 2 km

第1図　地形区分図


西根段丘堆積物
(1)金ヶ崎町大沢地区
(2)金ヶ崎町西根地区
村崎野段丘堆積物
(3)北上市民会館裏
(4)村崎野駅付近
黒沢尻火山灰
Ypu
Ypm
Ypl
Mpm
Mpl
表土
乾裂
火山灰
浮石
粘土
砂礫

第2図　段丘堆積物

III. 地形各説

1．先第四系の残丘

北上市二子町宿の西方の飛勢(とばせ)森、同市飯豊町飯豊森の2箇処に、小規模に分布する。ともに新第三系中新統下部の稲瀬層からなる。前者の地区では、後述の黒沢尻火山灰に覆われている。

2．段　丘

(1)　西根段丘　　金ヶ崎町の西方、西根地区を標式地とする。和賀川以南においては、和賀町石曽根から岩崎新田にわたる地区と六原扇状地の南縁沿いに、さらに六原扇状地の東半部を占める西根地区と六原町から相去町にかけて残丘状に分布する。これに対して同川以北では、尻平川沿岸の脊梁山地東縁部に、また、北上川東岸においては、わずかに江刺市正源寺台東部に分布するにすぎない。

西根段丘はかなり開析され、段丘面の頂部は、原形を失うまでに侵蝕されている。

この段丘の分布地域である金ヶ崎町西部の台地は、近年著しく開発されてきたが、すべて農用地であることから自然斜面に沿う土地造成が主となっている。そのため、この段丘堆積物の露出がきわめて少ない。金ヶ崎町細野の南方女夫坂附近での段丘崖の観察、同町大沢地区の深井戸資料（第2図(1)）によれば、その主体は、約10m に達する大・巨礫大の著しく風化した安山岩円礫層である。これと同じ風化円礫は、六原町道所森や西根工業団地の切割りでも見られる。花巻市尻平川部落および尻平川南岸の脊梁山地東縁に分布する段丘堆積物は、中・大礫を主体とする砂礫層を主とし、間に砂質粘土層をはさんでいる。

西根段丘の上位には、層厚10m におよぶ赤褐色火山灰、浮石および火山灰質粘土が重なる（第2図(2)）。中川他（1963）は、北上川中流域の火山灰層を古期のものから一首坂火山灰、前沢火山灰および黒沢尻火山灰の3層に区分したが、最近の金原（1981）の研究によると、この段丘の堆積面上は、これらすべての火山灰層におおわれているところが多いという。

(2)　村崎野段丘　　北上市村崎野地区を標式地とする。和賀川以南の地域では、金ヶ崎町西方の台地（西根段丘）辺縁部と和賀町法量野一帯および相去町成沢地区に分布する。北上川東岸地域では、北上市荒屋敷地区から立花、下門岡を経て江刺市十文字台に至る間に飛石状に分布する。和賀川以北の地域においては、花巻市中笹間から村崎野および小鳥崎にかけて、また、花巻市大森から成田に至る範囲に連続的に広がる。

六原扇状地の南縁部を流れる黒沢川南岸に分布するこの段丘は、下位面と約20m の比高を保つ。相去町成沢地区に分布するこの段丘面と下位面との比高は、東縁部において10～15m である。中笹間から小鳥崎にわたる地域のこの段丘面の下位面との比高も、北上市常盤台附近で約20m に達する。しかし、一般に北上平野中央に張り出ているこの段丘の段丘崖は、西漸するにつれて漸次比高を減じ、ついに下位の金ヶ崎段丘面と収れんする傾向を示す。

地形面はやや開析されてはいるが、比較的新鮮で、よく原形をとどめている。

各地での露頭の観察および深井戸資料などによると、この段丘構成物の主体は、層厚20～30mの砂礫層であるが、和賀町宿附近および村崎野一帯では、その上部に層厚2～5mの白色細粒火山灰質粘土が重なり、その上面に古土壌および乾裂が発達する。これが、降下火山灰なものか二次的堆積物なのか、いまのところ不明である。この段丘構成砂礫層は、中川他（1963）により飯豊礫層と呼称されているものである。礫は比較的新鮮な大・中円礫からなり、よく分級・淘汰をうけている（第2図(3)(4)）。

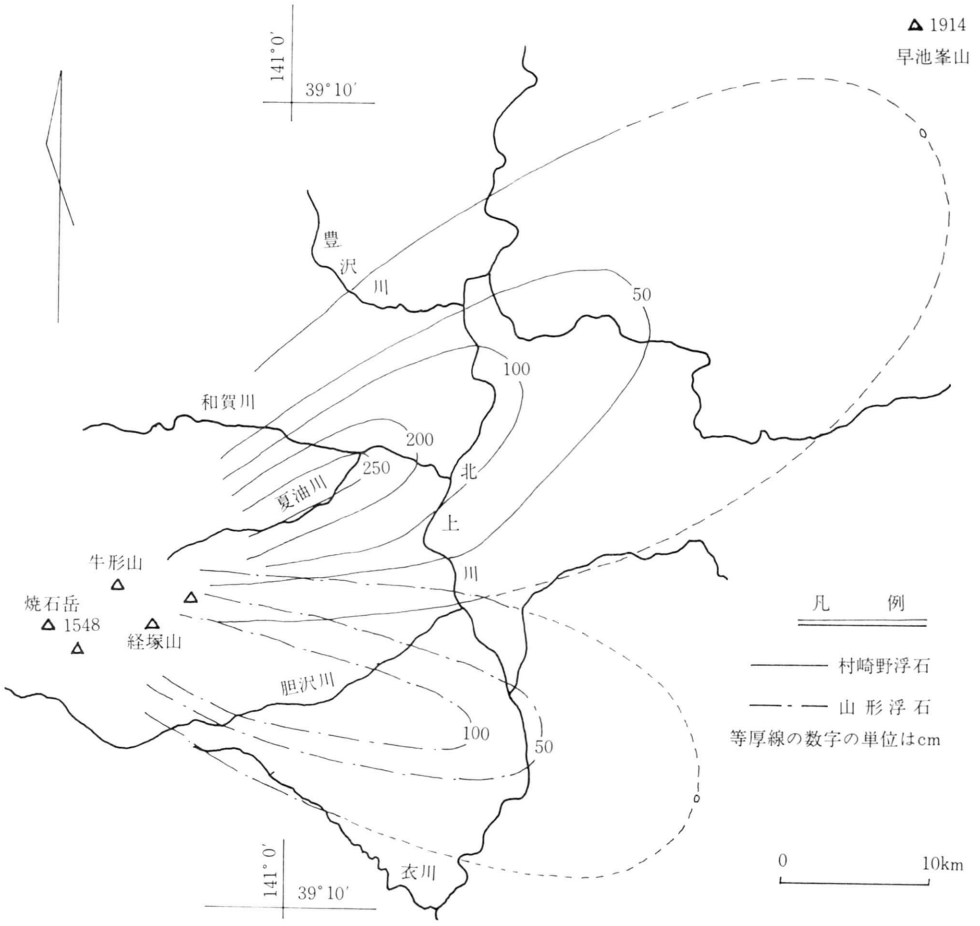
村崎野段丘の堆積面の上位には、黒沢尻火山灰（中川他、1963）と呼ばれる火山灰層がのる。同層は、上部の赤褐色火山灰と、下位の浮石（村崎野浮石）とに分けられる。これらのうち村崎野浮石は肉眼的に数層に区分しうるが、金原（1981）はこれの詳細な重鉱物分析をおこない、両輝石安山岩質の下部（再定義の村崎野浮石）と、普通輝石安山岩質の上部（山形火山灰、標式地は胆沢町山形）とに2分した。また、これら各浮石の中部層の等層線図を求め、その噴出源を牛形火山（1340m）としている（第3図）。

(3) 金ヶ崎Ⅰ・Ⅱ段丘　　金ヶ崎町市街地附近を標式地とする段丘である。この段丘は、北上川中流域中もっとも広く分布し、面はほとんど開析されていない。北上川中流域の脊梁山地東縁に頂部をおく扇状地群は、すべてこの段丘に相当する。

この段丘は、北上市街地から和賀町竪川目にかけてのびる段丘崖により、上下2段に細分される。下位段丘の分布は、この区域に限定される。この段丘崖の比高は、北上市常盤台附近で約5mである。また、下位面と河岸平野との比高は、北上市街地一帯で2～3mである。

下位の金ヶ崎Ⅰ段丘は、和賀川の南北両側において、それぞれ六原扇状地および後藤野扇状地を形成している。六原・後藤野両扇状地の比高に着目すると、河岸平野に対する前者の比高は15～20mに達するが、後者のそれは、和賀川横川目地区で10m前後である。一方、六原扇状地東縁辺の金ヶ崎町三ヶ尻地区におけるこの面と河岸平野面との比高は、10m程度である。また、夏油川下流域についてみると、岩崎地区で15m前後の比高を有するのに対し、扇状地頂部の鍋割地区では30mにもおよぶ比高となっている。これらのことがらと、本来、南東方向に流動すべき夏油川が、北東方向に流れて和賀川と合流している事実とを総合すると、この面の形成後、和賀川筋を軸とする北側への地盤の傾動がおこり、その結果、Ⅱ面が生じたと考えられる。このように、Ⅰ・Ⅱ面の間には本質的な違いはなく、局地的な存在とみられる。

金ヶ崎段丘の構成物は、瘤木礫層（中川他、1963）と呼ばれる礫層である。同層は、10～20mの層厚を有し、扇状地の末端部では淘汰・分級の進んだ新鮮な小・中礫によって構成されているが、頂部に向うにつれて次第に粒径を増し、大・巨礫を多く混えるようになる。この段丘の堆積面上に、この段丘形成期の火山灰はのらない。



第3図

(4) 河岸平野　主として北上・和賀両川沿いに分布する、沖積世に形成された平坦面で、水平的に氾濫原に移行する。この面に散在する集落は、ほとんどこの時期の砂礫を主体とする自然提防上に形成されており、周辺の面より1～2m高い。和賀川と北上川との合流点の北側には、厚さ10m余の高含水腐植土層からなる後背湿地が形成されており、いわゆる軟弱地盤地帯となっている。

これまで、金ヶ崎段丘以降の堆積物中には、火山灰層がないとみられていた。ところが1970年代後半に入り、北上川流域の各地で詳細な遺跡調査が進められてきた結果、沖積世の腐植土中に厚さ2～3cmの白色細粒火山灰が分布していることが確認されるに至った。これは1000A.D.頃の十和田火山の噴出物で、十和田aテフラと呼ばれているものである(大池；1972、町田・新井・森脇；1981)。

Ⅳ. 地形発達史

上記の各段丘の分布上の特徴を指摘すると、西根段丘面は東西方向で傾斜が急であるが、南部から北部に向うにつれて、分布面積が少くなる。村崎野段丘は比較的緩傾斜で、東側で広がる面も西方に向うにつれて次第に狭くなると同時に比高を減じ、やがて下位の金ヶ崎段丘と収れんする。金ヶ崎段丘は面の傾斜がもっとも急で、下位の村崎野・西根両段丘の侵蝕谷を広くおおい、かつ、これら分布域の奥地、さらに脊梁山地内部までくい込んだ分布形態を示す。

世界的にみると、約70万年前に始まる第四紀中期初頭は、第三紀末から続いてきた海面上昇が止み、海面の低下が始まって最初の段丘の形成が始まった時期に相当する。それが中期末に近づくにつれ、地球は再び暖化しだして著しい海面上昇がおこった。その結果、この時期に形成された段丘面は、著しく緩傾斜となっている。約10万年前に始まる第四紀後期になると、気候は再び寒冷化して海面低下がおこり、約1万8千年前にはその極に達した。この時期の海面低下は氷期を通じて最大のもので、現海面下120～180m に達する。したがって、この時期の段丘面の広がりももっとも大きく、かつ、傾斜も急である。沖積世になると、海面は再び上昇し、現在より少し高い水準に達した後、また後退して現在の海水準面となった。

この地域の4段の河岸段丘は、この第四紀中期以降の世界的な海水準変動に対して形成された、各地域の段丘地形のそれと、よくその特性が共通している。この地域の第四系ならびに地形も、上述の第四紀地史に沿うことはいうまでもない。

〔参考文献〕

1） 田山利三郎・土田定次郎、1933：北上山地の地形学的研究、其一、河岸段丘B．北上川及び馬渕川の河岸段丘、斉藤報恩会学術研究報告、№22、1～84.

2） Fujiwara,K.、1959：Geomorphological developement of the Kitakami Valley. Sci. Rep. Tohoku Univ, 7th ser, 8.8～38.

3） 若生達夫，1956：北上川中流域の表層地質による地形面区分，東北地理，9．197～211.

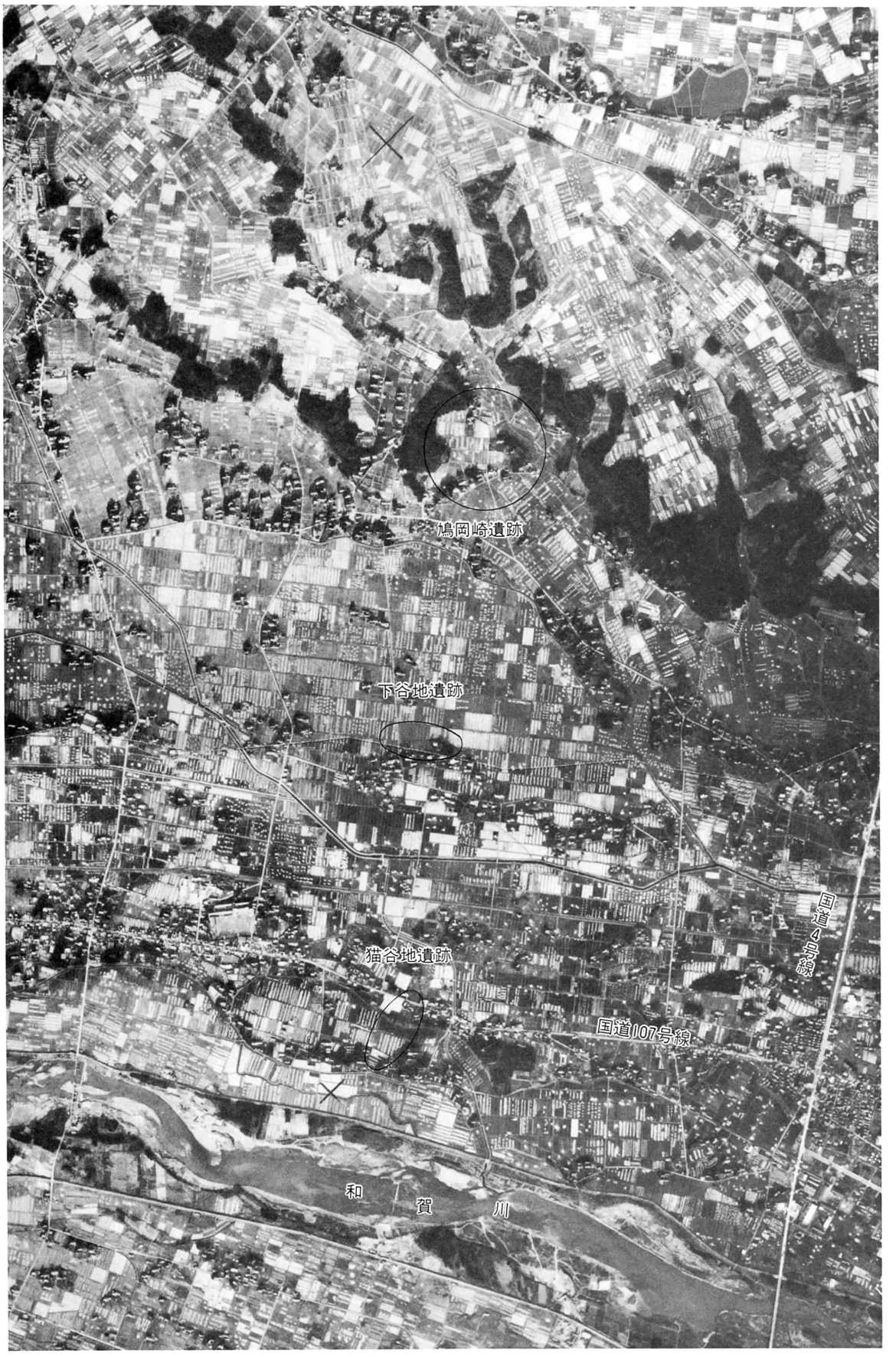
4） 中川久夫・岩井淳一・大池昭二・小野寺信吾・森由紀子・木下尚・竹内貞子・石田琢二、1963：北上川中流沿岸の第四系および地形――北上川流域の第四紀地史(2)、地質学雑誌，69．219―227.

7） 金原光男，1981：北上川低地帯に分布する第四系の応用地質学的研究――花巻・金ヶ崎――岩手大学工学部修士論文（M.S.）

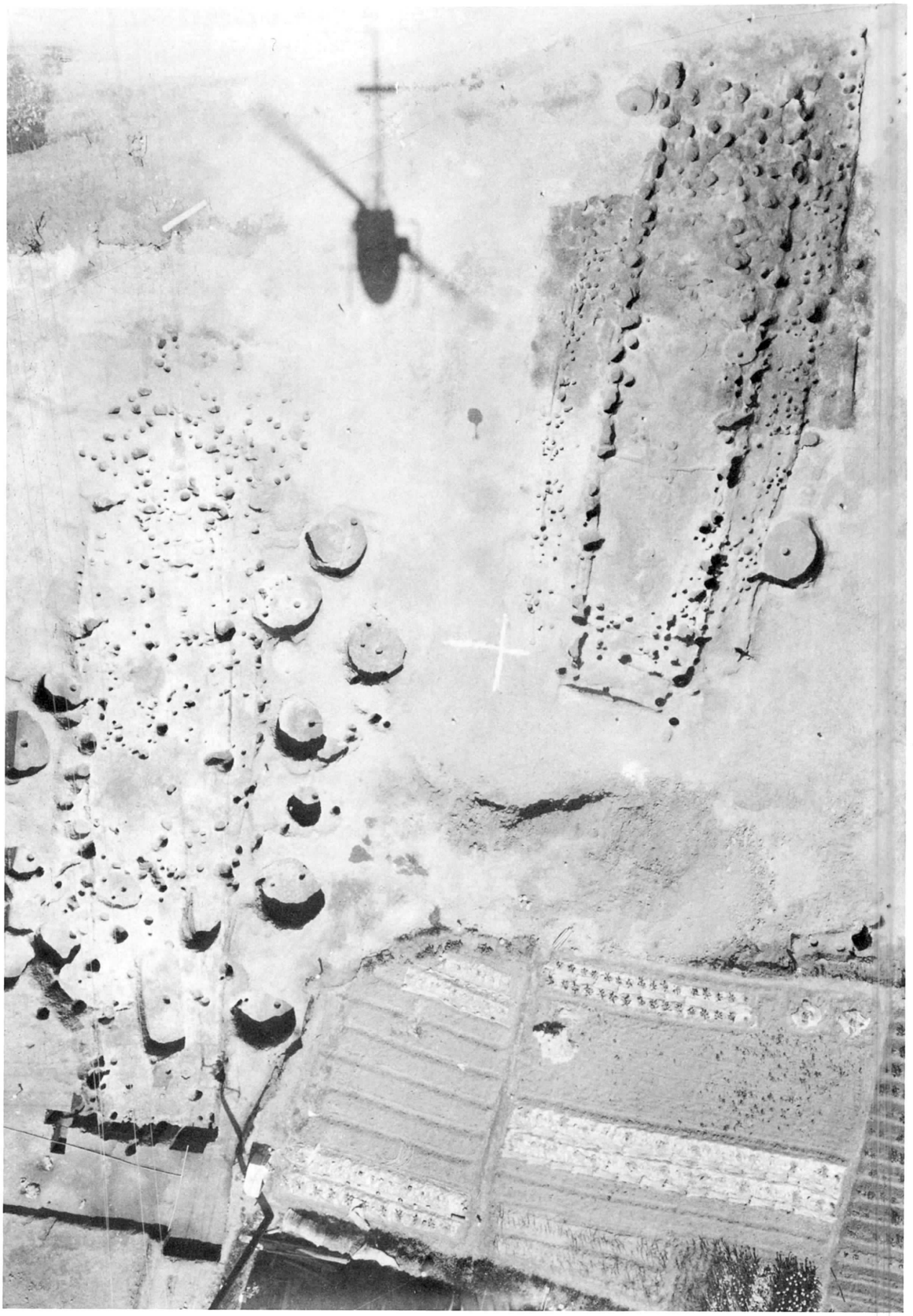
8） 大池昭二，1972：十和田火山東麓における完新世テフラの編年．第四紀研究，第11巻，第4号，228―235.

9） 町田洋・新井房夫・森脇広，1981：日本海を渡ってきたテフラ．科学．vol．51，№9．562―569.

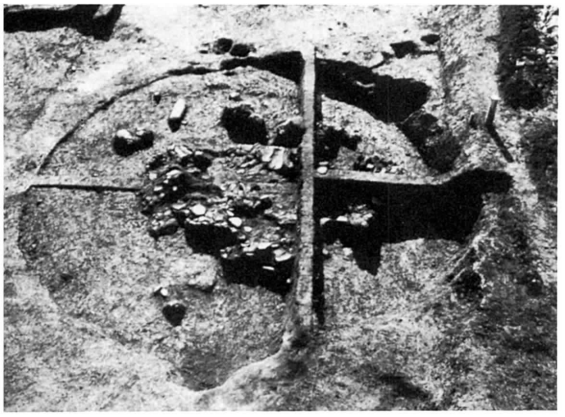
写　真　図　版

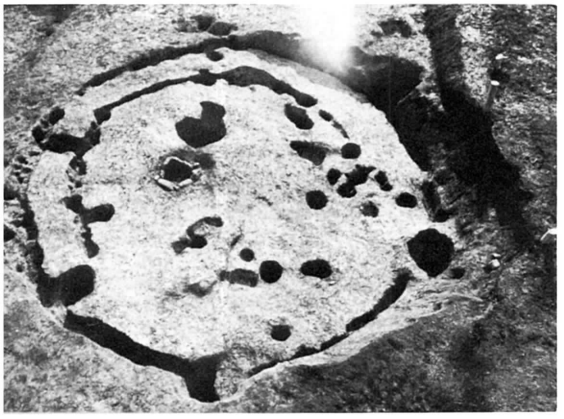


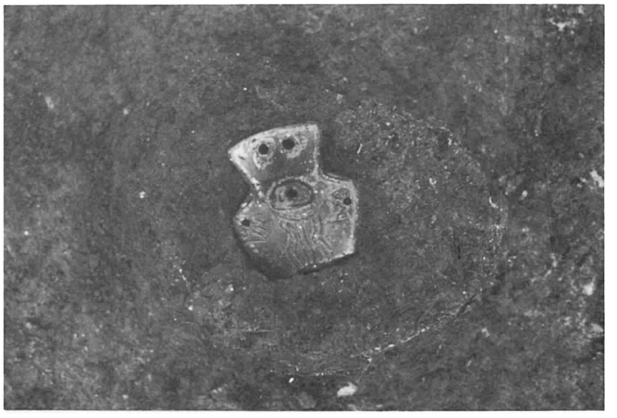
図版１　調査地周辺の航空写真

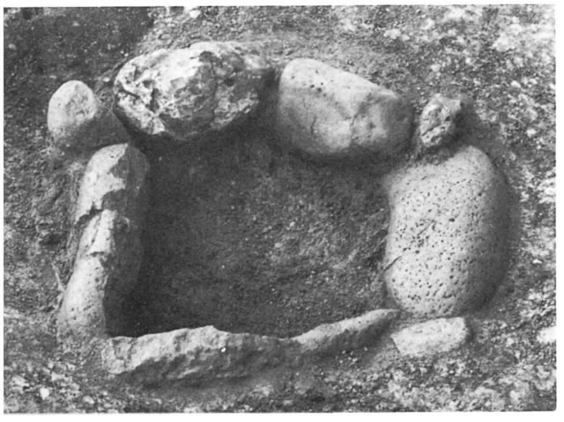


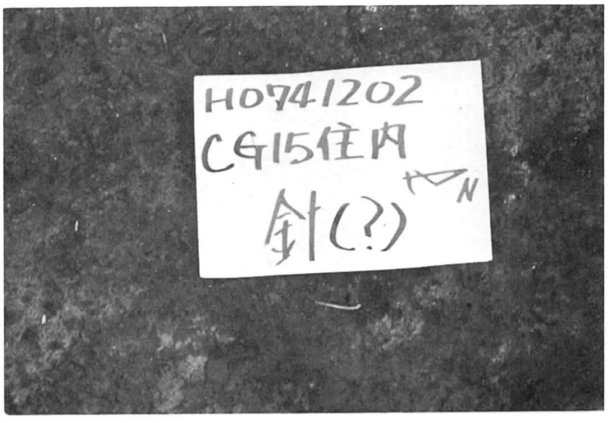
図版２　CJ24住居跡・DE18住居跡　他全景



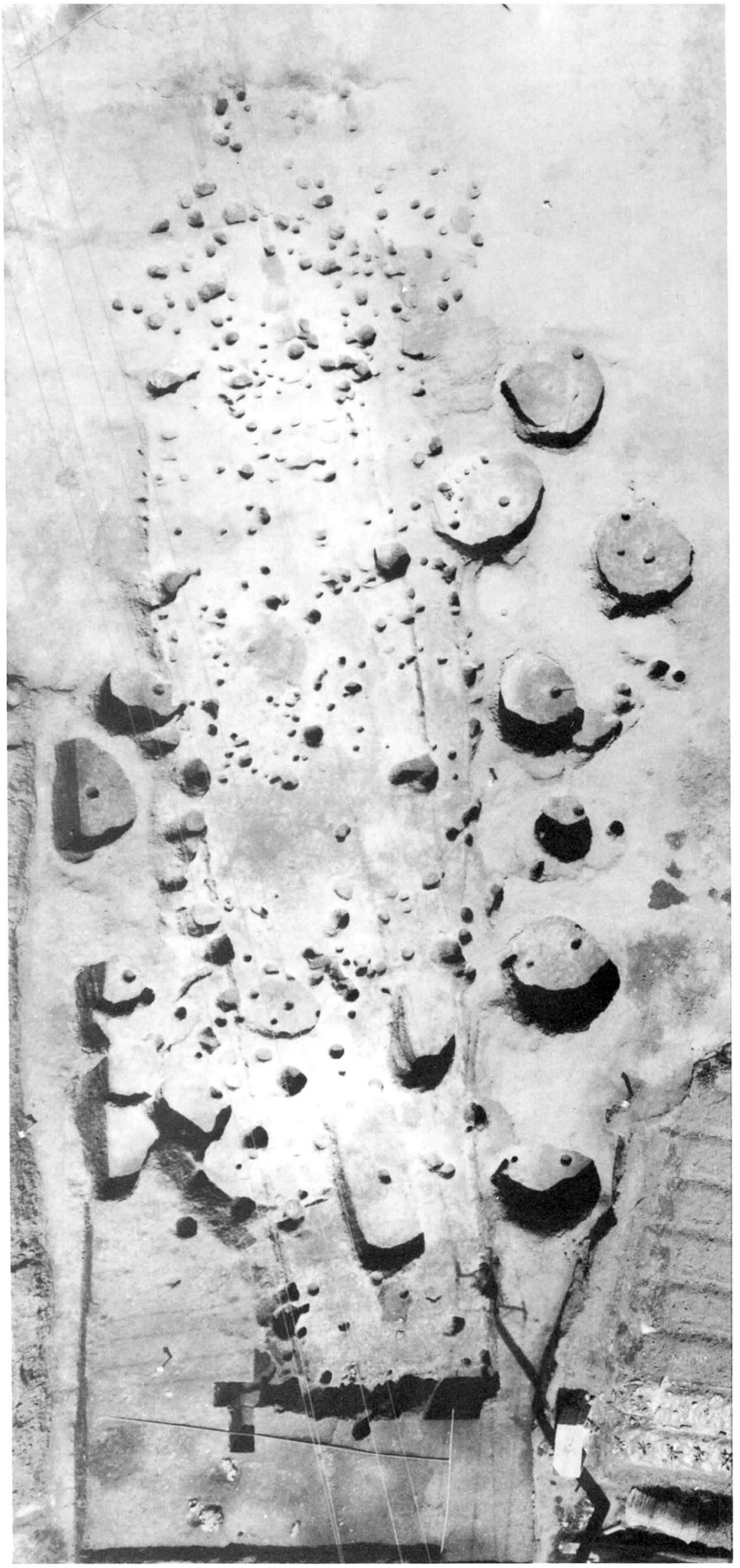








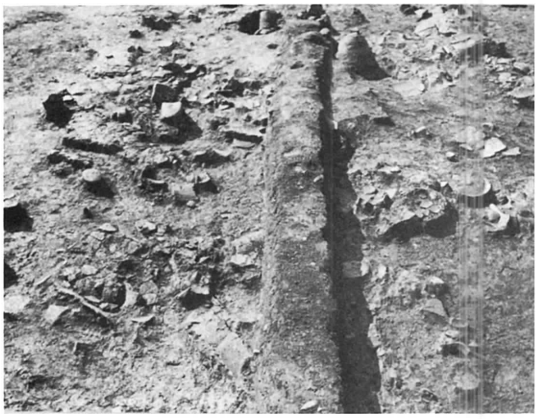
図版３　CG15住居跡　完掘前の状況、完掘後の状況、炉の細部、遺物出土状況



図版４　CJ24住居跡、CI21住居跡、CJ27住居跡他全景

全景、遺構内の状況、柱穴の状況

図版５　CJ24住居跡

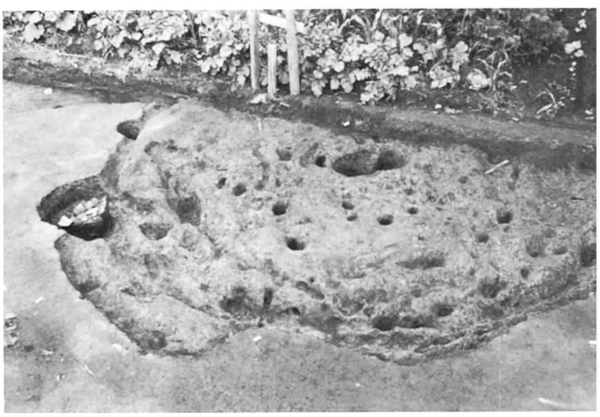


柱穴の状況、遺物出土状況

図版 6　CJ24住居跡

CI21住居跡

CJ27住居跡

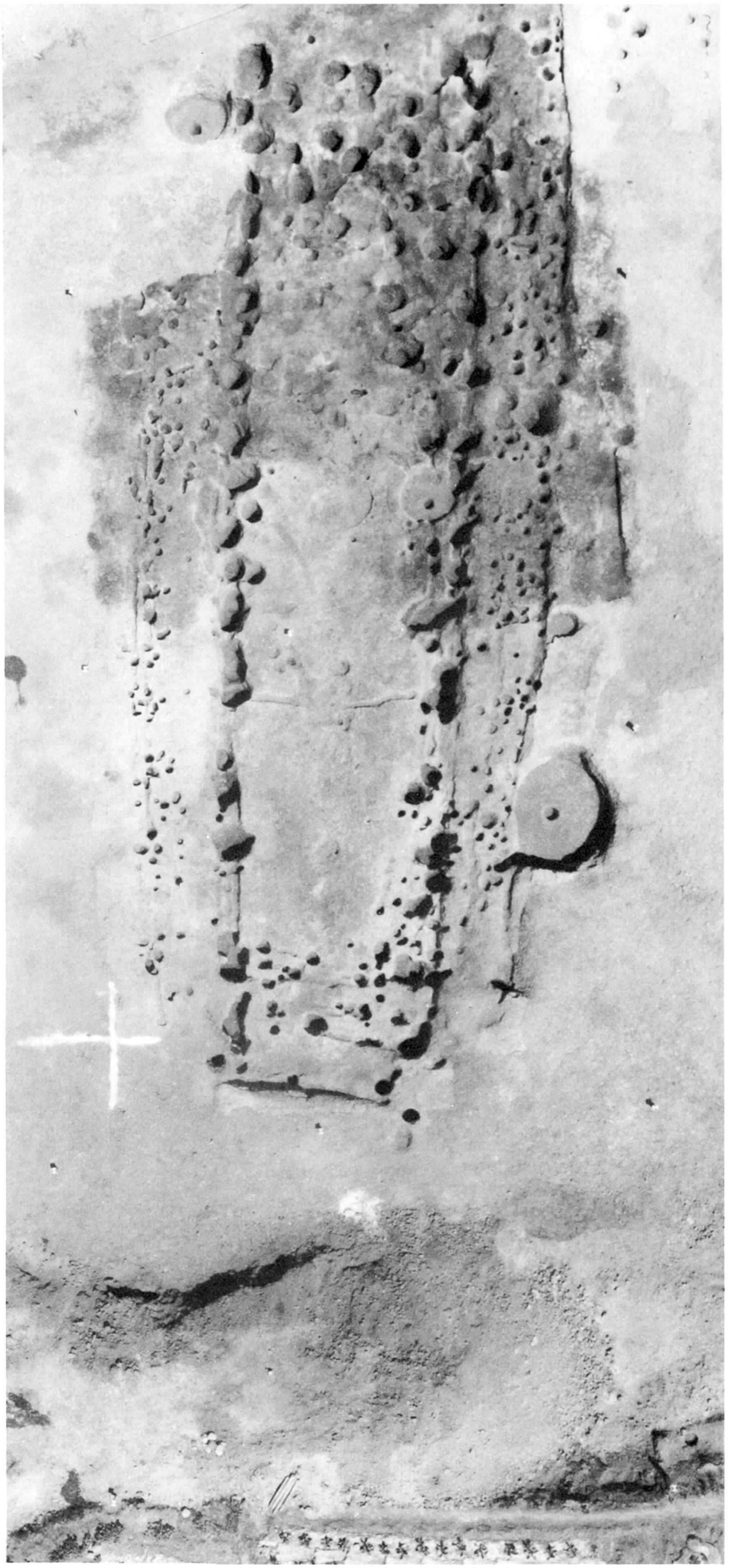


DJ68住居跡

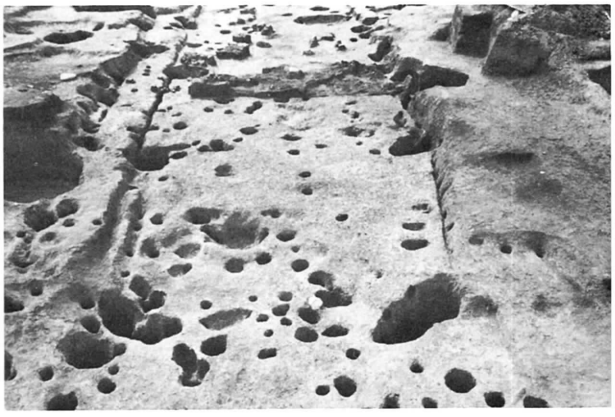
DJ53炉跡

EH50住居跡

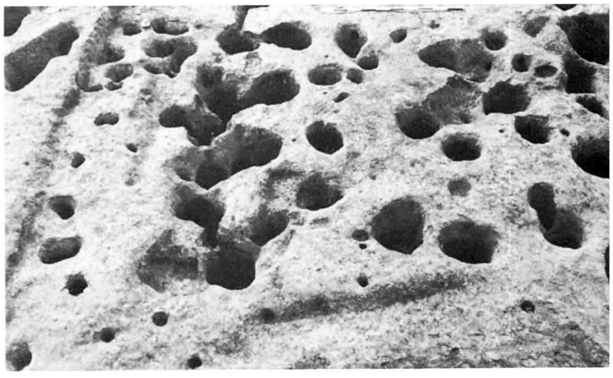
図版 7　CI21・CJ27・DJ68・EH50住居跡、DJ53炉跡



図版８　DE18住居跡他全景



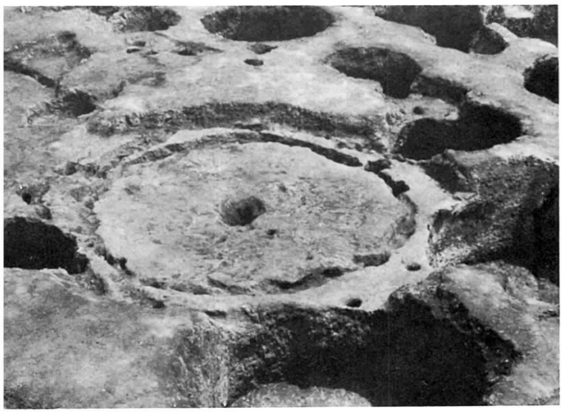
完掘前の状況、完掘後の状況
柱穴等の状況



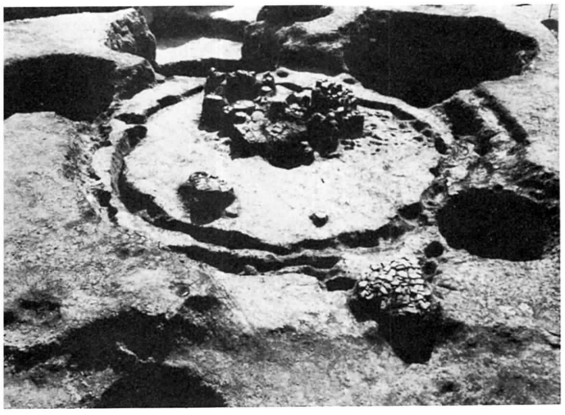
図版 9　DE 18住居跡

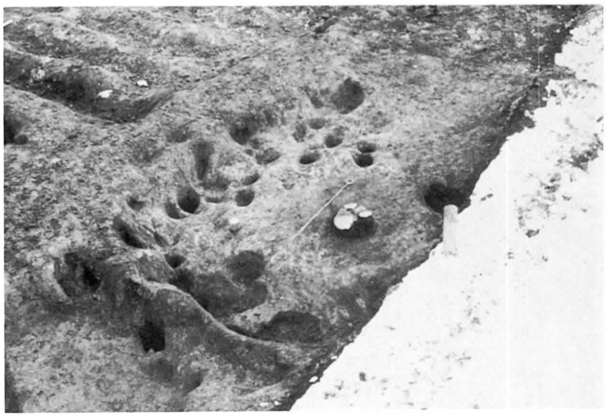
遺物（土器・土製品・石製品）出土状況

図版10　DE18住居跡

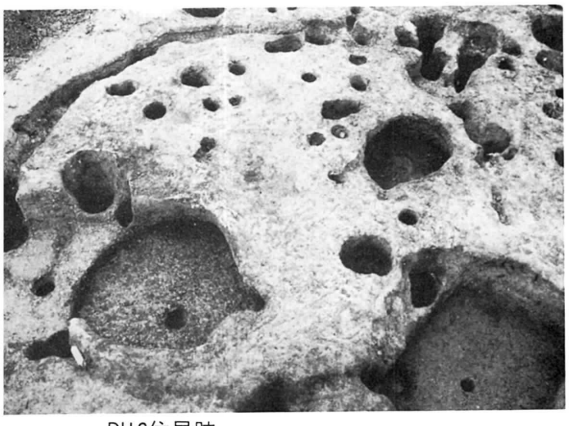


EC68遺構





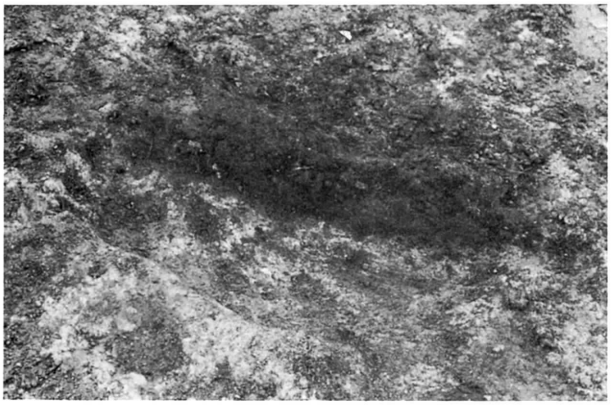
EC62住居跡



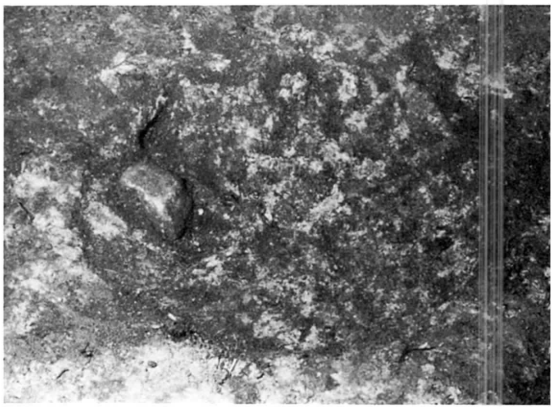
DII2住居跡

EG24住居跡

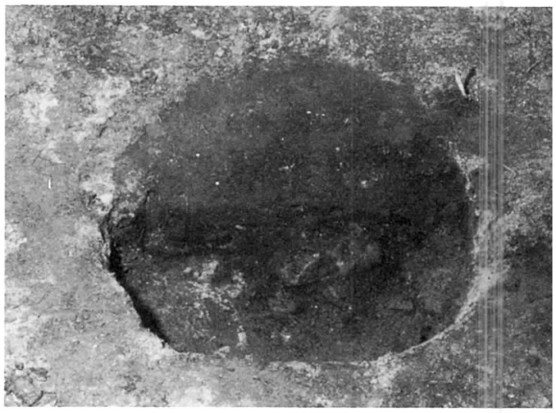
図版11　EC62・EC68・EG24・DII2住居跡

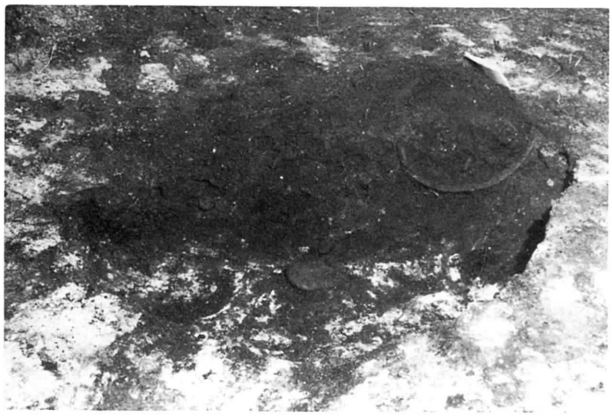


CA56p.1

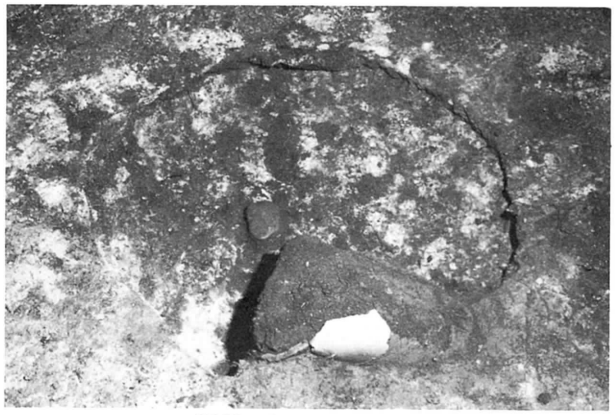


CB53p.2





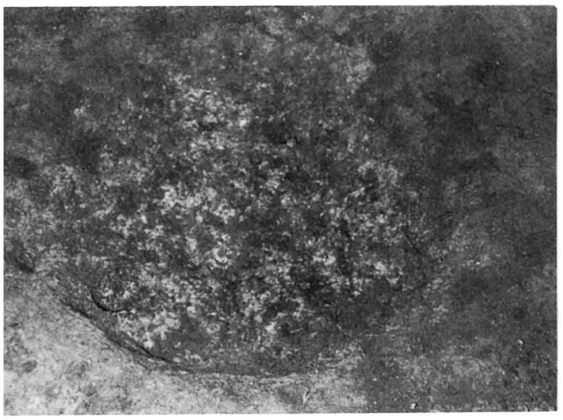
CB56p.1



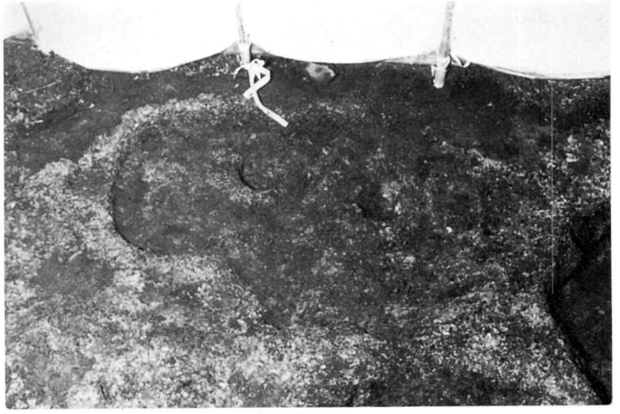
CB53p.1

CB56p.2

図版12　CA56p.1、CB53p.1．2、CB56p.1．2



CB56p.3



CB65p.2

CB59p.2

Cc65p.1

CB59p.1

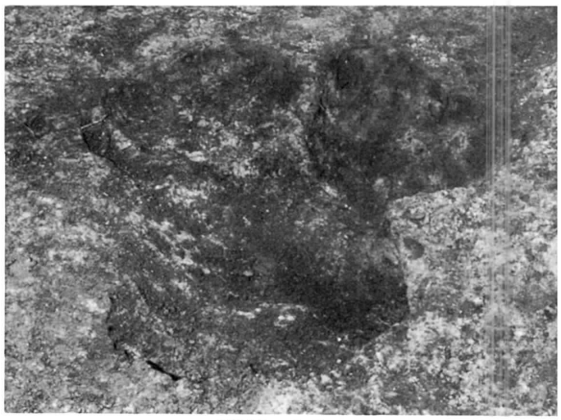
Cc59p.1

65p.1

Cc62p.1

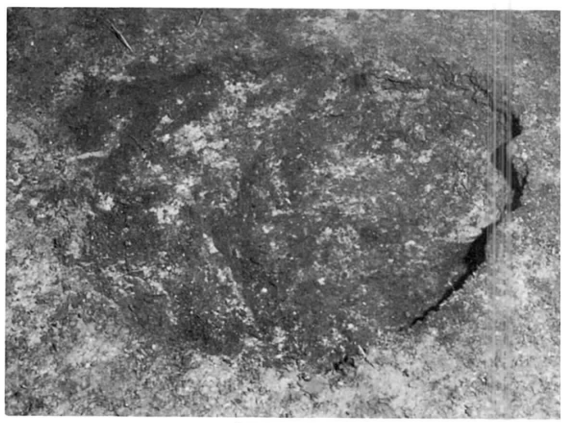
図版13　CB56p.3、CB59p.1.2　CB65p.1.2、CC59p.1、CC62p.1、　CC65p.1

Cc65p.1



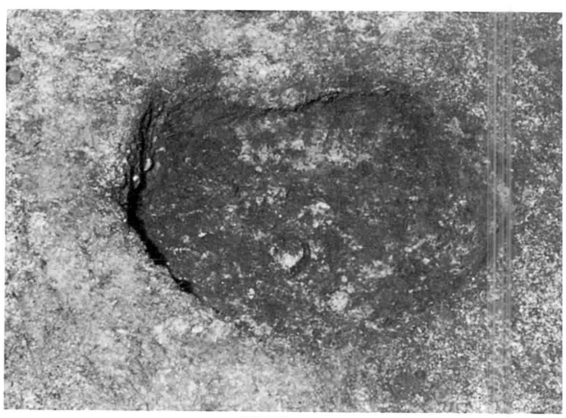
CD62p.1、2

CC65p.2、3

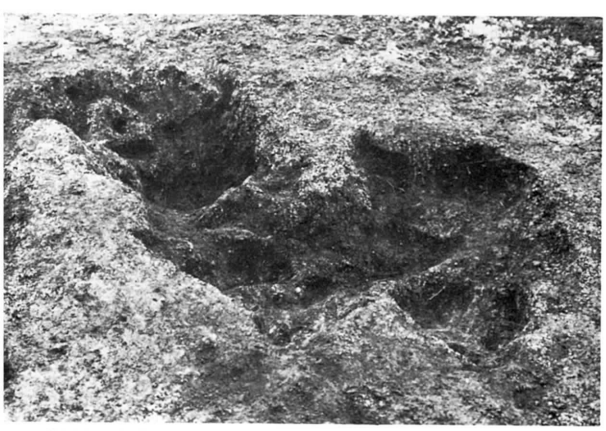


CD62p.3

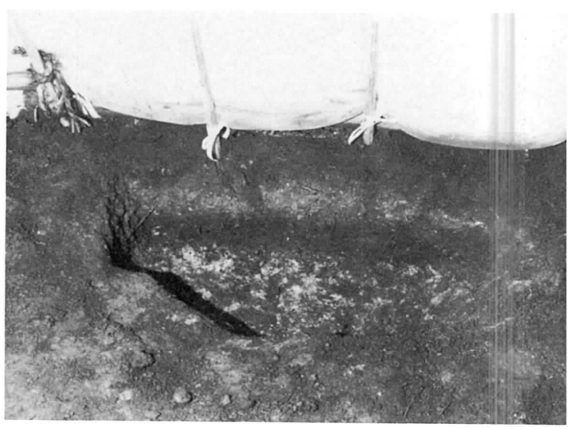
CC65p.4



CD62p.4

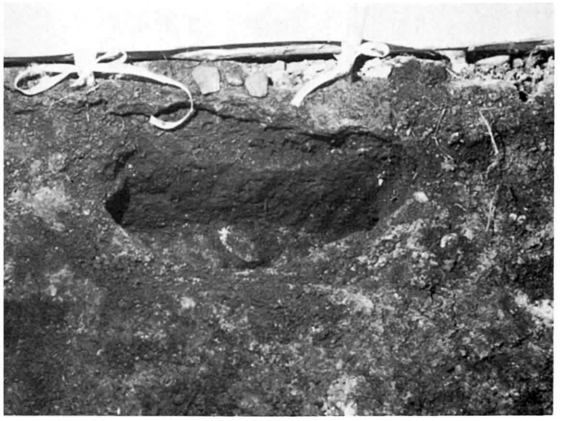


CD59p.1、2



CD65p.

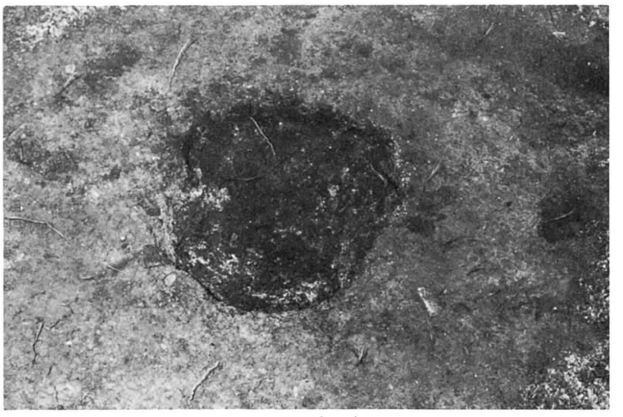
図版14　CC65p.1.2.3.4.　CD59p.1.2.　CD62p.1.2.3.4.　CD65p.1



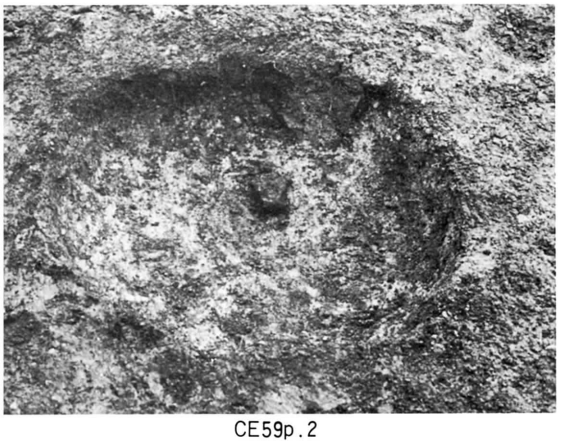
CD65p.2

CE62p.2

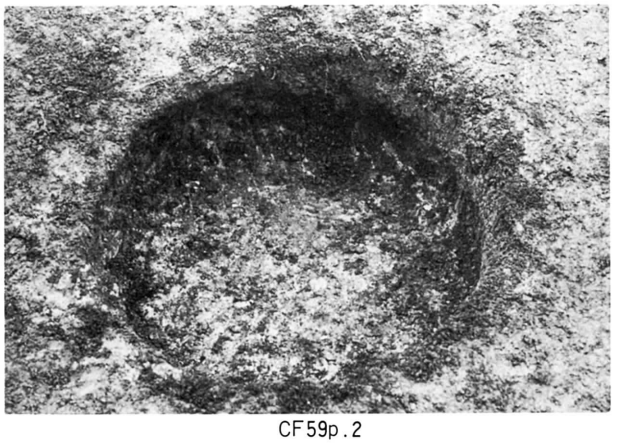
CE59p.1



CF59p.1



CE59p.2

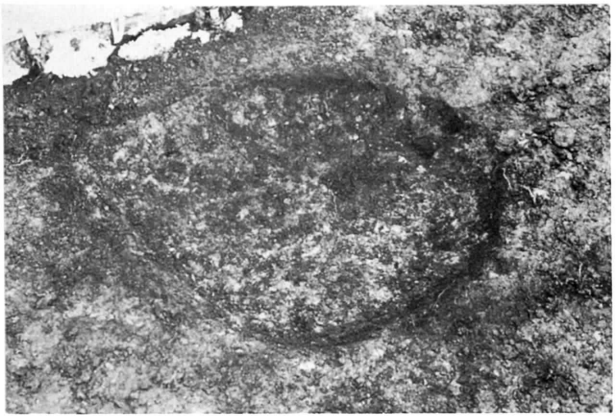


CF59p.2

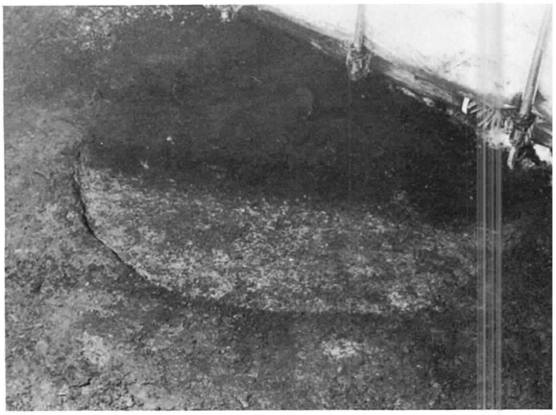
CE62p.1

CF62p.1

図版15　CD65p.2、 CE59p.1.2、 CE62p.1.2、 CH59p.1.2、 CF62p.1

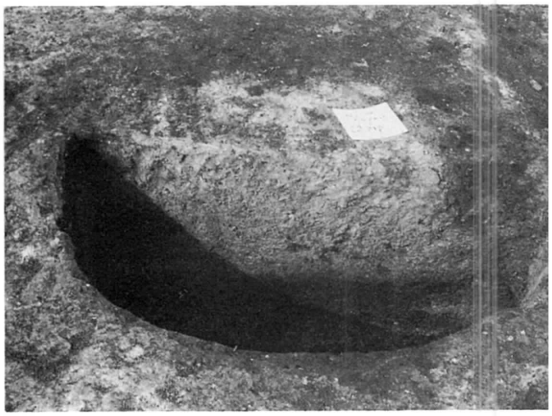


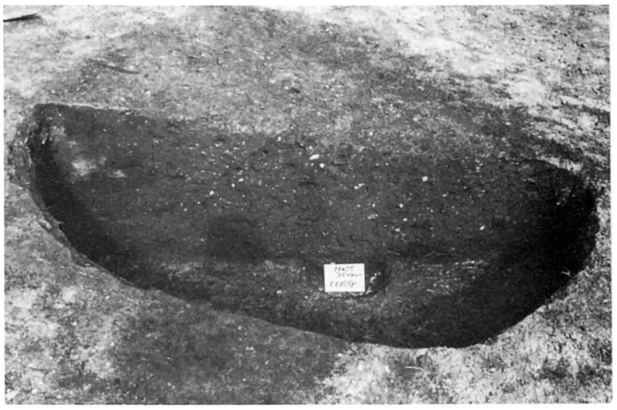
CF56p.2

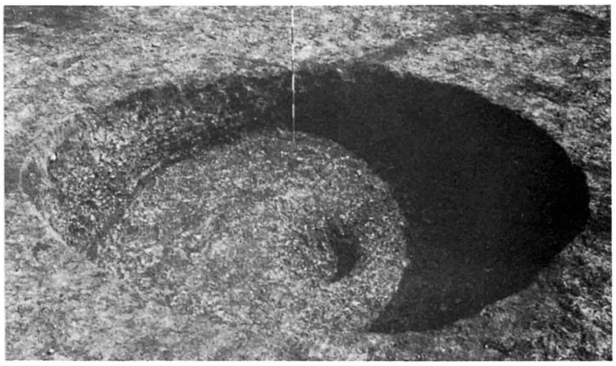


CF62p.3

CB18f.p.



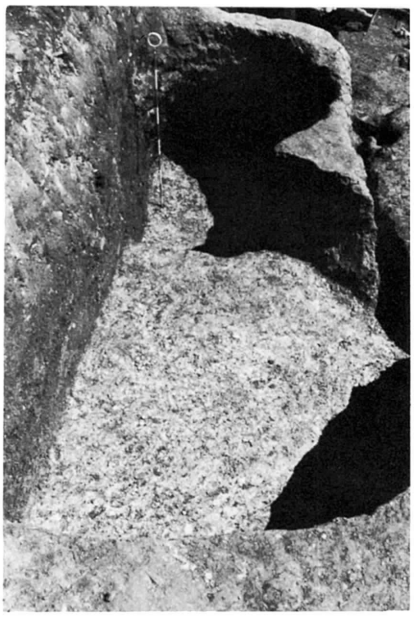




CD15f.p.

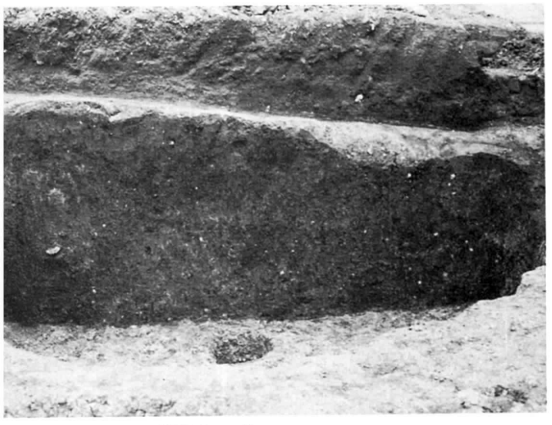
CD18f.

図版16　CF56p.2、 CF62p.3、 CB18f.p、 CD15f.p、 CD18f.p

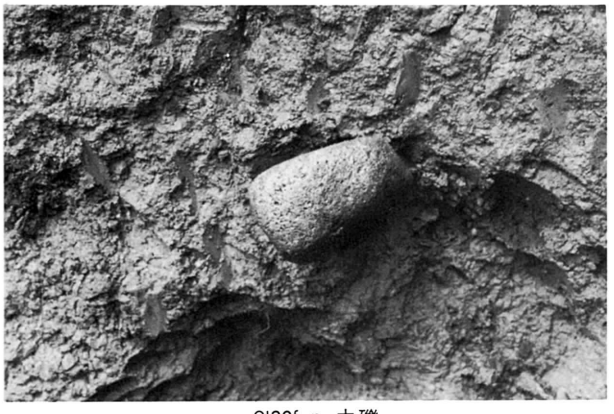


CI27f.p.1

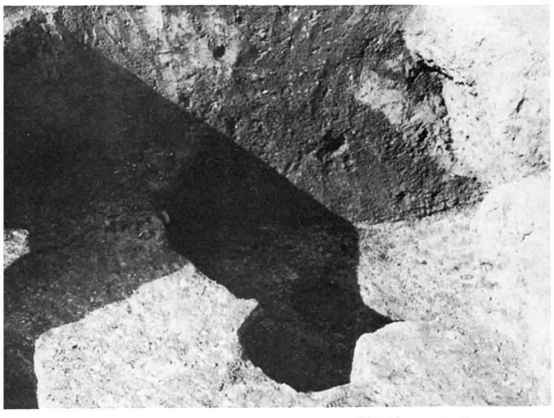
CI30f.p.



CI21f.p.2

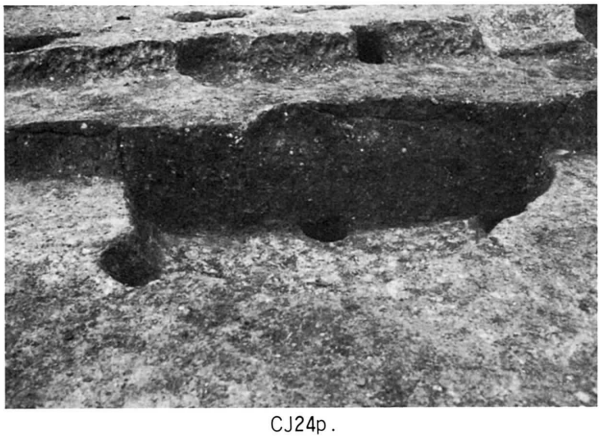


CI30f.p.中礫



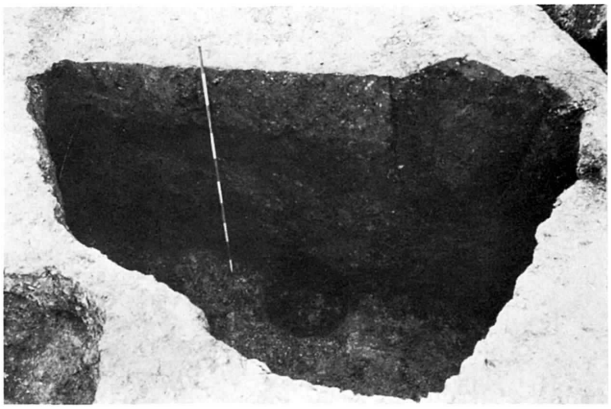
CI24f.p.1、2

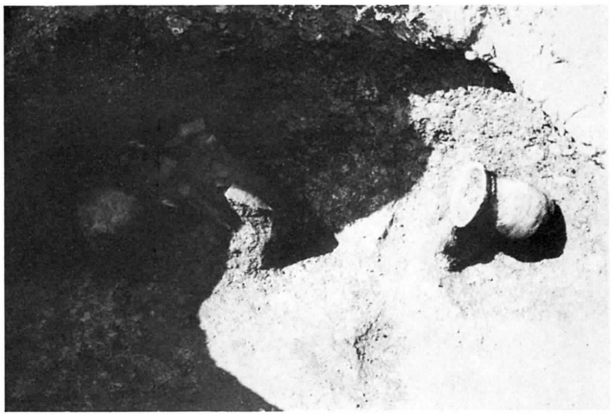
CI24f.p.2中礫

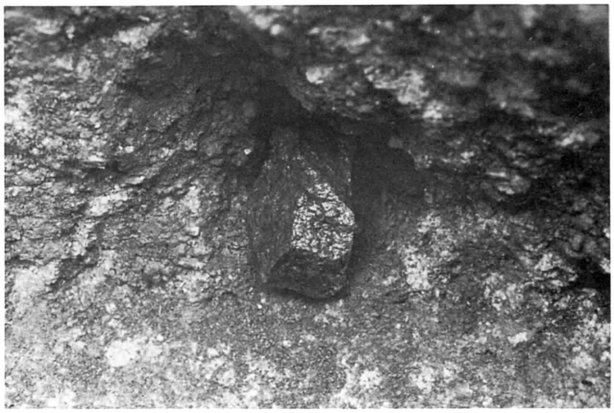


CJ24p.

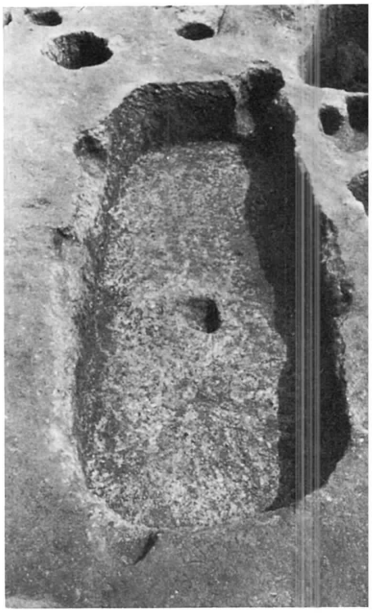
図版17　CI21f.p.1.2、 CI24f.p.1.2、 CI27f.p.1、 CI30f.p.1. CJ24p

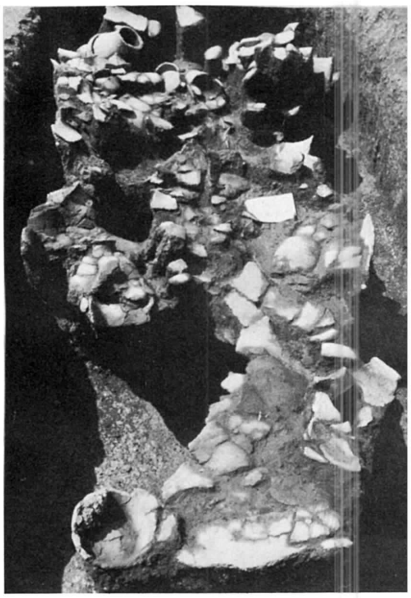






CI27f.p.2

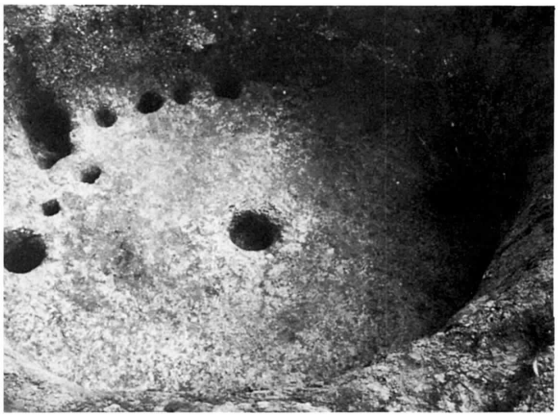


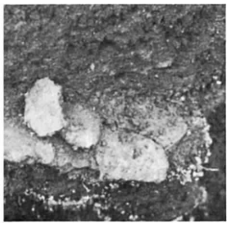


CJ30f.p.

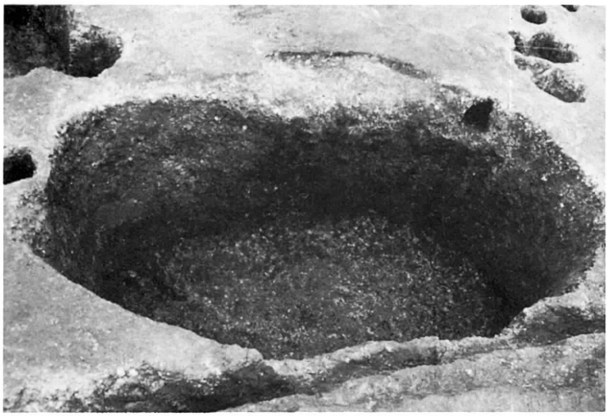
・全景、 遺物出土状況、 礫、

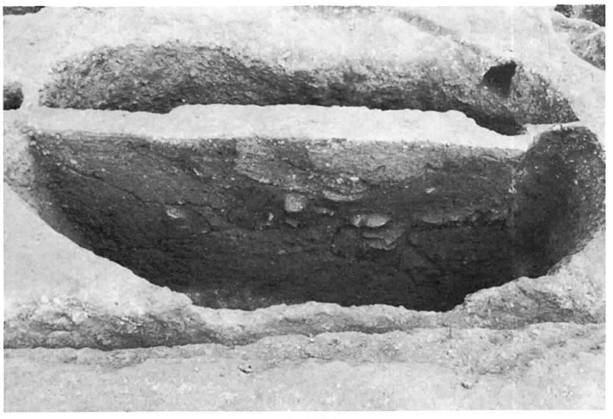
図版18 CI27f.p.2、 CJ30f.p



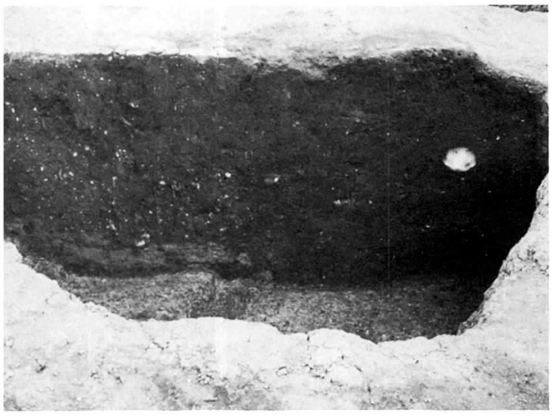


DA15f.p.

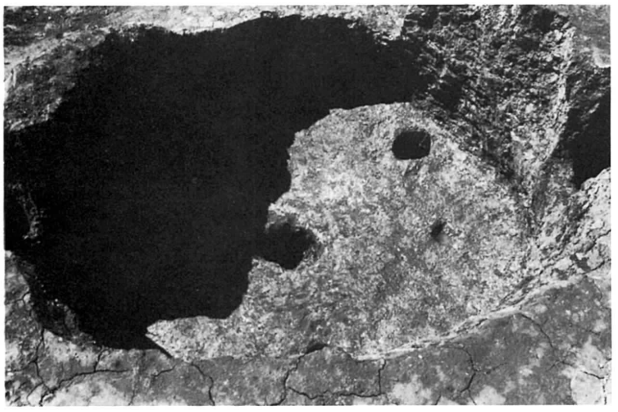


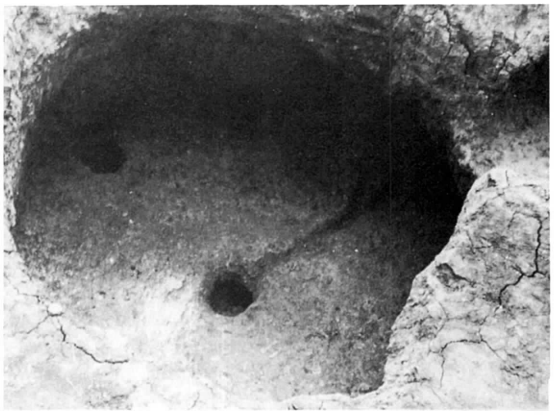


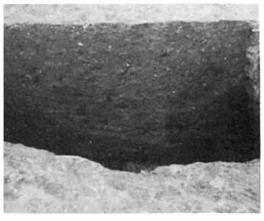
DA24p.



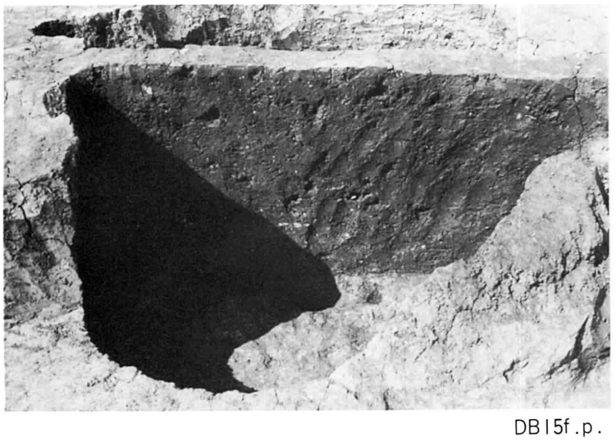
CB12f.p.1、2





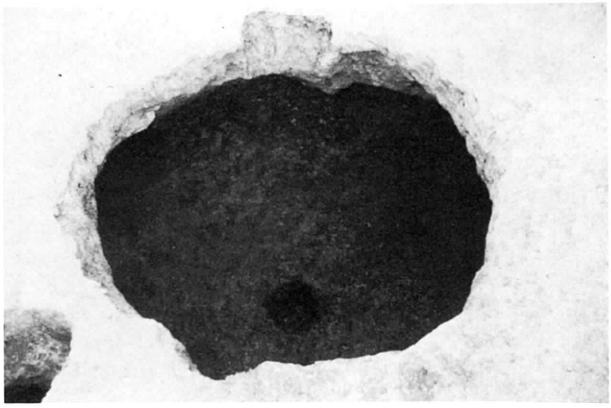


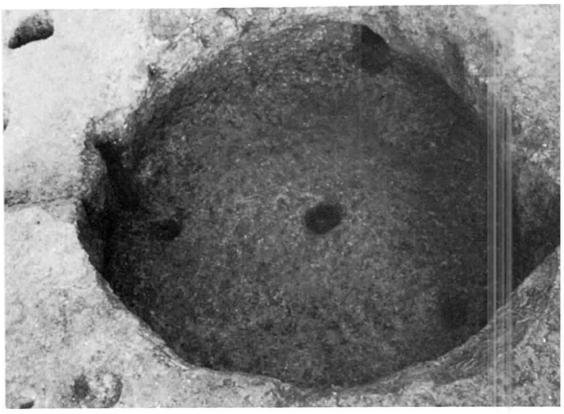
DB18f.p.



DB15f.p.

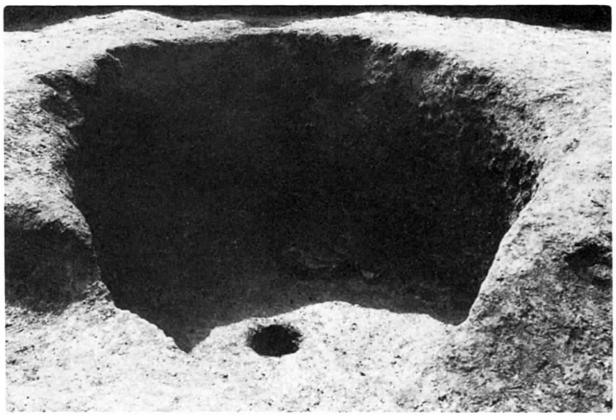
図版19　DA15f.p.、 DA24p.1　DB12f.p.1.2、 DB15f.p.、 DB18f.p.





DB21f.p、(全景と礫)

DB24f.p.

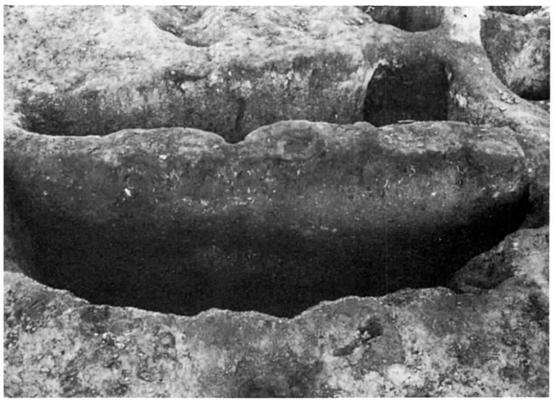


DB30f.p.

DD15f.p.

底部出土のシソ種実出土状況

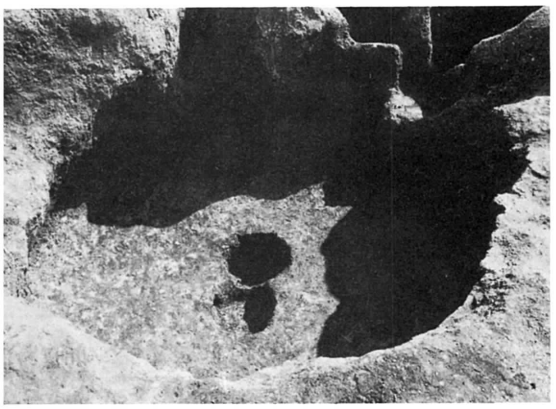
図版20　DB21f.p.、DB24f.p.、DB30f.p.、DD15f.p.



DH15f.p.3

DH06f.p.

DH15f.p.1



DH24f.p.

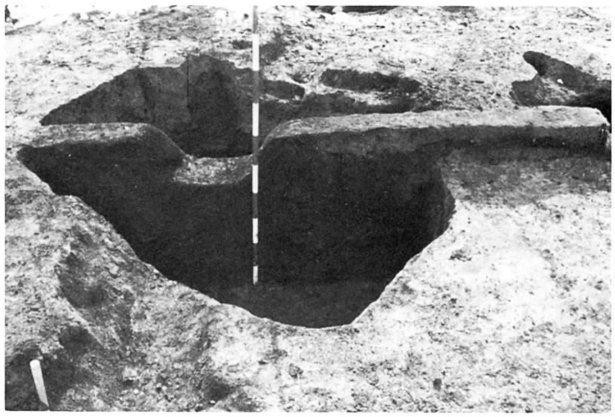
DH50f.p.

DJ50p.1

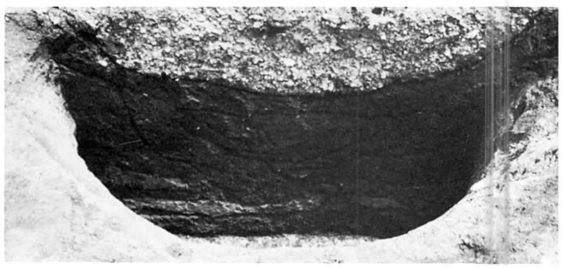
図版21

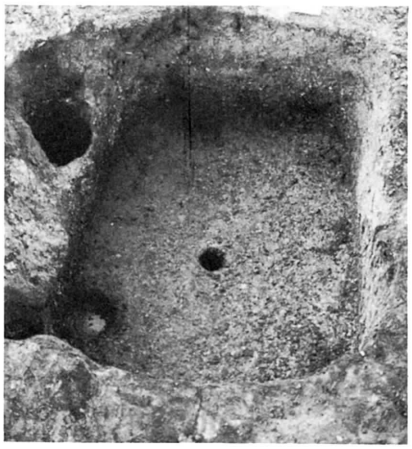
DI03f.p.

DI06p.



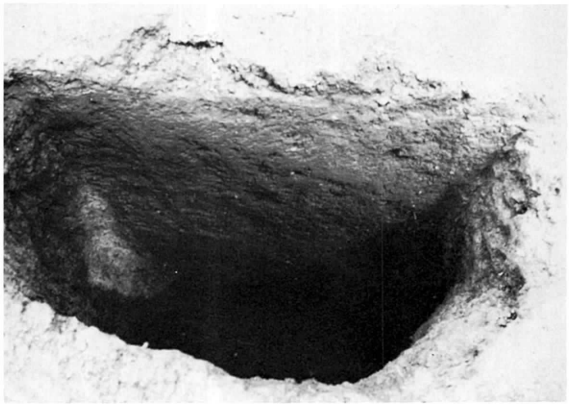
DI62f.p.





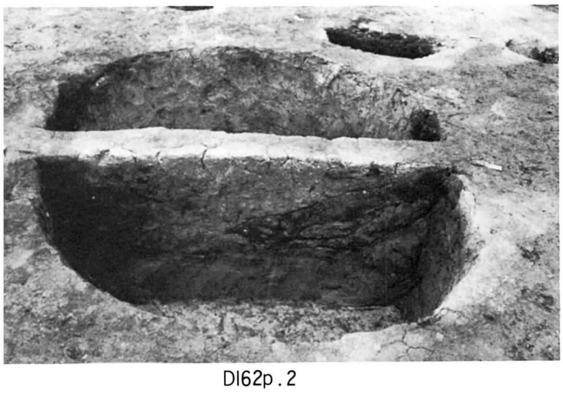
DI09p.

図版22　DI03f.p.
06p.　09p.　62f.p.

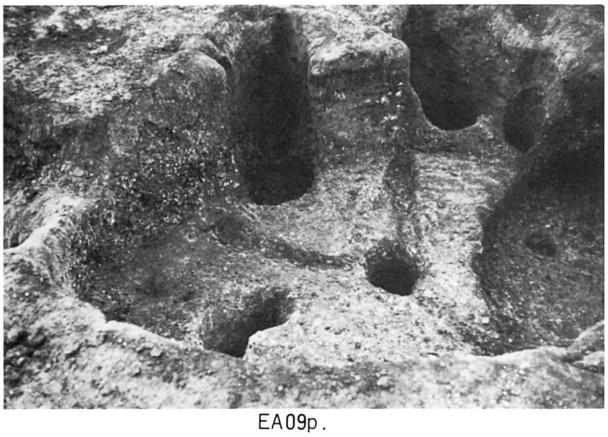


DI65p.1

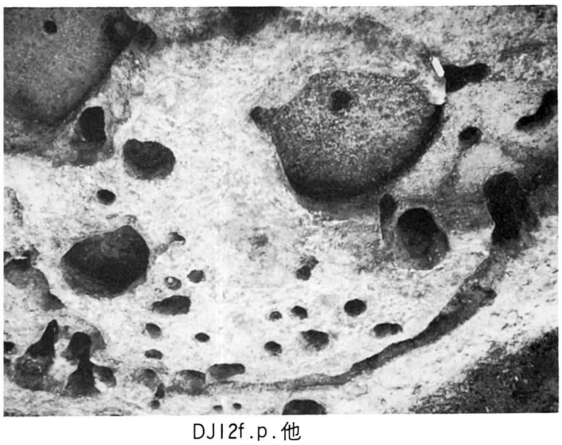
DJ09f.p.



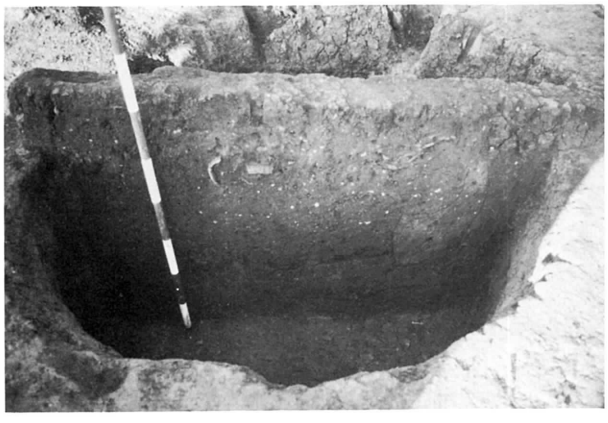
DI62p.2

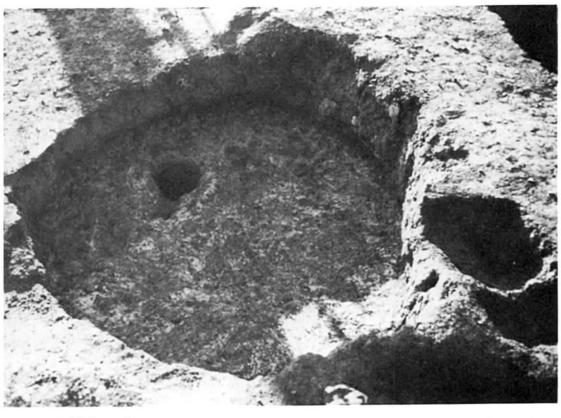


EA09p.

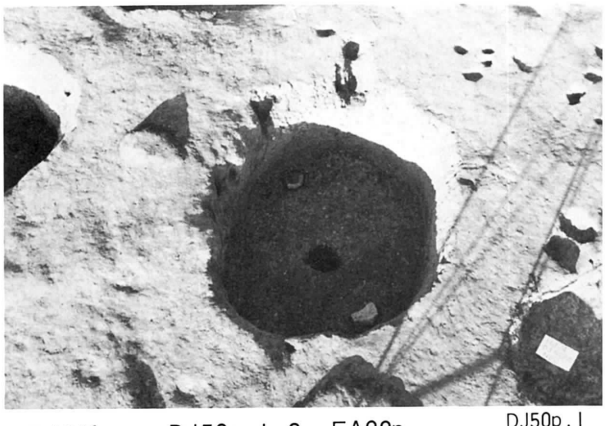


DJ12f.p.他



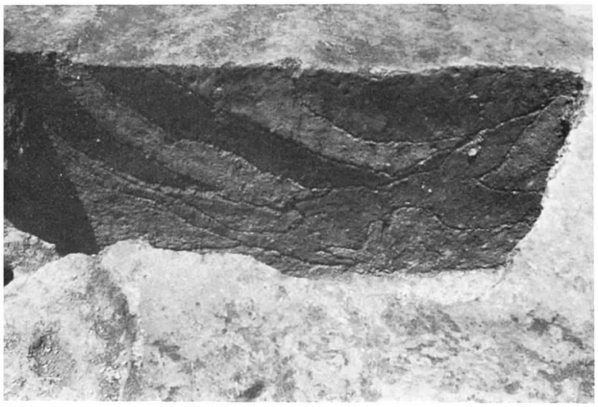


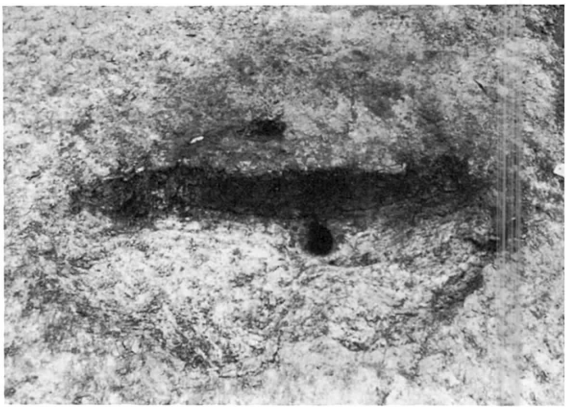
DJ50p.2



DJ50p.1

図版23　DI65p.1、DI62p.2、DJ12f.p.　DJ09f.p.　DJ50p.1.2、EA09p.

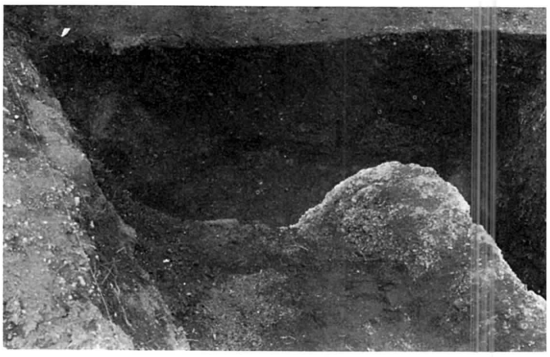




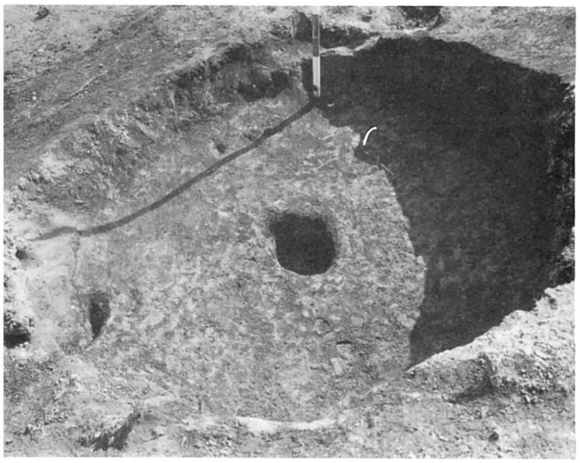
DJ68p.

DJ59f.p.

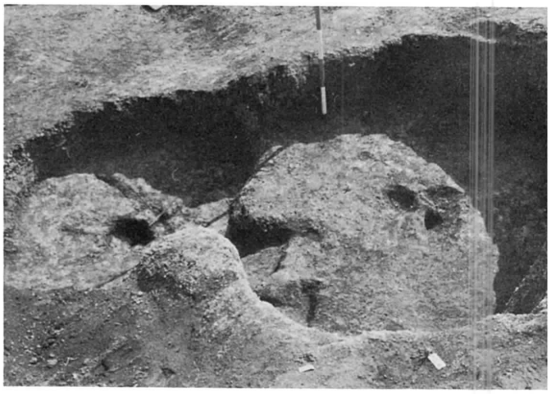
FA68p.2



FA71p.2

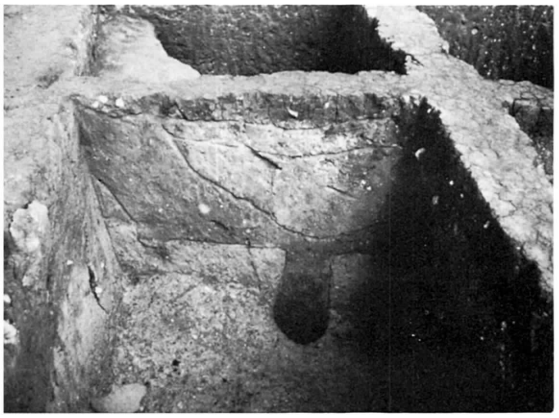


FA62p.1



FA68p.2 FA71p.1

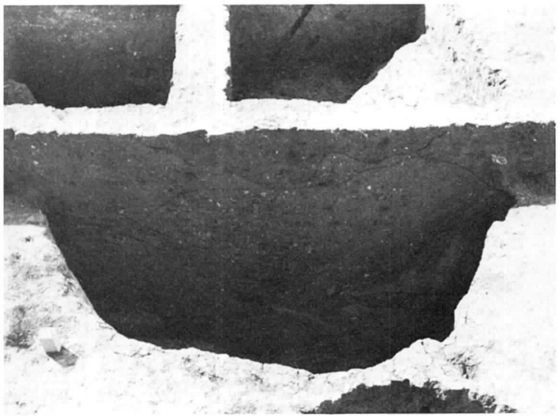
図版24 DJ59f.p. DJ68p. FA62p.1、FA68p.2 FA71p.1.2

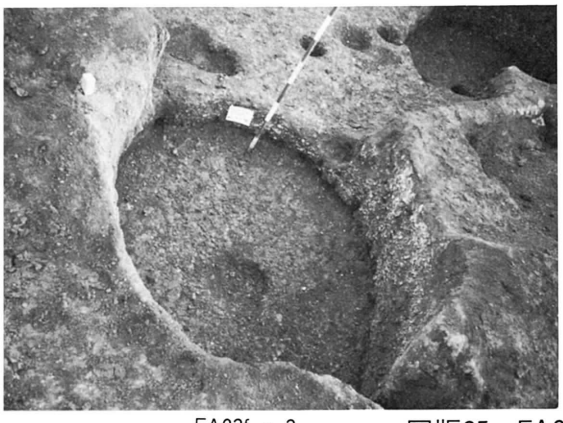


EA03p.1

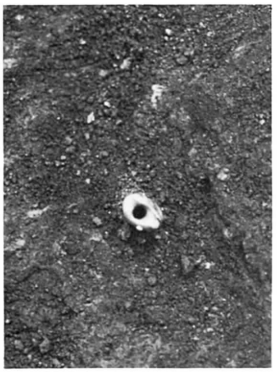
EA03p.2

EA03p.2、EB06p



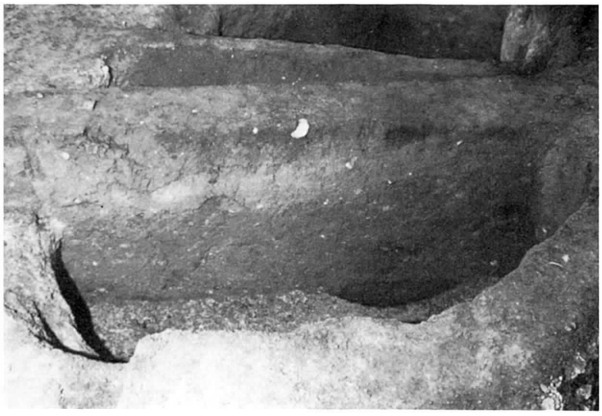


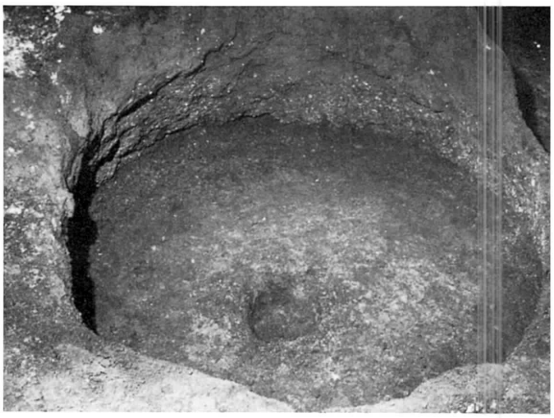
EA03f.p.3



EB06f.p.遺物出土状況

図版25　FA03p.1.2.3、EB06f.p.



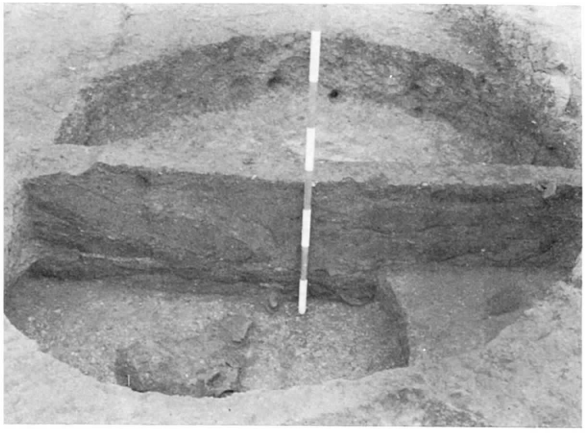


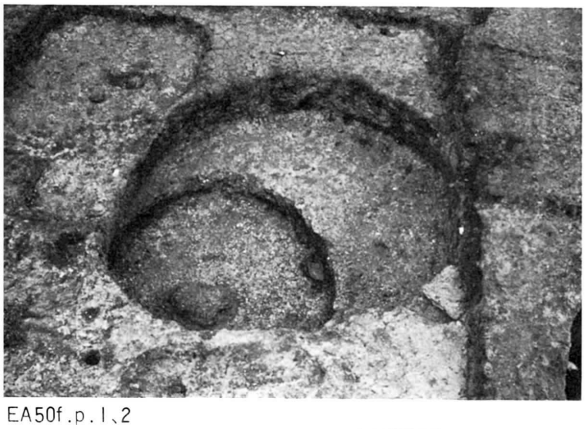
EA18f.p.

EA15f.p.1、2

全景

遺物出土状況





EA50f.p.1、2

EA21f.p

図版26　EA15f.p.1.2、EA18f.p.、EA21f.p.、EA50f.p.1.2